

回避して他日に譲り、青年銘々をして切らば鮮血の迸り出づべき肉體に就て學ばしめるとすれば、之に伴ふ實際の危険が餘り多過ぎる、又斯様な複雑な道具立下に到底獨力で充分な科學的觀察は行はれ得ない、又よし貧弱な智識をやつと得ても最早其智識は遲蒔である。

扱今やるとすれば、今迄極度の隠蔽の下に暮して來た揚句だから、不健全な好奇心が充分にある、だから新智識を得ると共に激動は無論免れない。所で今論じた異性の性的器官の解剖學を型式圖に就て叙述する時は、たとひ激動を生じても其は大抵の場合に於て或特定の異性其人を聯想せしめる様な背景の無い即一種抽象的のものに過ぎない。此智識を授けたから、其が解放衝動として聽講者に作用して、其人をして自他共に傷つける直接行動に出でしめやうと、恐らく憂慮する人もあらう。併し乍ら、之は前述の如き浪漫的空想と、熱烈な向上心に富む青年の心理を解しない老婆心であるまい歟、其憂慮に對しては下に『聽講中に起る性的興奮』の項（一九六頁以下参照）に録する種々の答が、最も雄辯に説明を與へるであらう。

要するに、性智識を授くるには此年配をすぎては最早他に無い、此憧憬と空想と希望の年齢を過ぎての説法は最早遅い、唯返らぬ老の繰言「It might have been」がある許りである。

第八章 聽講の結果起り得べき危険

あらゆる好奇心が一掃されるのではない

性的啓蒙運動は、必然かの原始なる無知の勇氣即盲蛇におちぬ無鐵砲さを除き且又不健全な好奇心を一掃するに至る、して又譯解らずの不安と焦燥も真相に就て多少の理解を得ると共に消滅する。併し乍ら、智識を得ると共に合理的警戒性が發達して來る、そして特に男子に於ては人間中特に男子の本能として具はつて

居る智識慾・征服慾・冒險慾は終に飽く事を知らない。其故に啓蒙のイロハ丈は此芝居は千秋樂に到らないのである。

此點に於て予に重大な點を指摘して呉れた科學者に感謝せざるを得ない、曰く

「好奇心を満足させる爲に、急進的に未知の世界を展開せしめると言はれますが、こゝにいふ事的好奇心はそれからそれへ起るもので、いくら教へても何にもなりません。貴君が大分露骨だから私も露骨に云ひませうが、花の雌蕊雄蕊の事を話せば、人間の聞き度になります。それだから人間の生殖器の構造を話せば、それで満足するか云へば、決してさうは行きません。急進的に展開する云ふが、まさか生きたる女を裸にして教室でデモンストレーションは出来ませぬ。よゝ其が出来たとしても、好奇心はそれで決して止まるものではありません。どうしますか」。獸醫學士内田清之助氏私信。

どうしますかとヂカに詰めよせられると、斯くいふ自分でさへ聴講者ならそんな氣になるかも知れぬと思ふ位だから、到底今の所早速に證據を擧げてキツバリ反駁は出来ない。

現に指導者無くして漫然と此好奇心を充す事により危険が生ずる實例。一中學生は兄の醫科大學生の不在中兄の書齋に入り、解剖圖譜中の異性々の器官の圖を眺め、其に刺戟されて耽溺の實生活に陥つたとい

ふ事がある。

瘴煙蠻霧を衝き破つても Terra incognita の神祕を知らねば其儘におかぬといふ科學者の平生の意氣込から考へれば、前の内田學士の豫想警戒はさもあるべき事である。併し乍ら予は始め此警戒は科學者が恣に卓上劇で活躍せしめた人物に對してのみであると思ふて居た。所が足元から鳥が立つた、一聴講者の曰く

「今迄性的好奇心はあつたけれ共、既往の講義によりて性教育の一部分を受けた爲、今迄殆ど否是非知らうとも思ふて居なかつたのが、概略的講義で益々知り度なり、却つて性に一層の好奇心を持出した。今後の講義にて自分の心は如何なる方面に轉するや圖り難し。否徹底的に更に詳細に教育せざれば（性の入口にて足を止め進めずば）却つて好奇心を増し危険なりと思ふ」

此回答と同趣旨のは、三年を通じ約四百余の回答中に他に一通を見出し得なかつた。併し唯一通でも決して葬り去る事は出来ない。

聴講者の行爲に對し講師は無限聯帶

責任を負ふべきものか

孰れの場合に於ても講義は概略を述べる事しか出来ない、委曲精細を盡した講義を短時間にやりおふせてかゆい所に手の届く事を要求されるのは、蓋し多人數相手の話に關しては到底出來ぬ相談だ。若し更に詳細を知り度なつた人には配布した補講用小冊子『人生生物學小引』の卷末に文献解題が與へられてあり、自身で諸種の特殊研究の便宜は求め得られる筈にしてある、其解題には思ふ所あつて態と坊間の性的賣文家の粗製濫造書こそ省略してあれ、他に邦語でも立派な著譯書は一通り其内容の概略を紹介し批評してある。更に獨佛語を解する人には一々名著に就て研究し得る様に書いてある、だから智識を充す事に就て聽講者側から一通でも斯様な不滿の聲を聞かうと思はなかつた。

『今後の講義にて自分の心は如何なる方面に轉するや圖り難し』と聽講者は云ふて、此人は講師たる予に向つて、彼の今後の行爲に關する聯帶責任を強ひて負はせた様な觀がある。併し予の講義は大多數者に對して、次に示す如き自重自制の力を加へ得たのだから、此多數者から感謝を受けたならば、又同時に此聽講者から怨を受くるのも亦當然である。今若し話を試みなかつたならば、此多數者の啓發解放はよし來るにしても遅かつたらう、併し此追究慾に富む一青年は如何であつたらうか。

予は思ふ、内田學士にせよ此一青年にせよ皆、誰でも知れば必ず其智識を實行に移すものだといふ固定觀念に囚はれて居るのではないか。女難の相があること云はれて其語が腦中にこびり附いた爲に、實際女難に陥る者があるのと同様な例であるまいか。凡そ追究慾と猛進性に富む者は、前途の形勢に無知たると否とを問はず、「やむにやまれぬ大和魂」式に矢張突貫するのを常とする。所論前進するものならば、豫め前途の概觀を學んでおいた方が危険が少い。事實教へる教へぬとに關係無く猛進する傾向を有する人が、道しるべを建てた者迄引張り込んで責任を負はせ殉死を強ひるならば、其は不都合でなからうか。

予は性教育が絶対に誰にでも安全だと無暗な我田引水説を述べる者でない。唯過渡時代の悲しさ『大の虫小の虫』といふ事もある。一の迷へる羊を救ふ爲に九十の羊を放棄して迄も搜索に奔走した牧者の譬はあつても、其は基督教のお話だ。今我々が一を救ふ爲に奔走して、虎狼の害に曝露されて居る他の九十九を放棄したならば、牧者たる者の曠職の責は甚大である。大局より見て其害はどんなものか、今後の時に教へて貰はう。

聽講中に起る性的興奮

講壇から見て居ても心理動搖は中々わかるものでない、性病々理を述べる時、眞摯沈痛な憎惡を含んだ様な面持が一般に現れる、自慰の講義に或人はくすぐつたい様な顔をして苦笑する、話最中に色々の質問が出る、質問によつては他の人々が笑ひ出す、其他色々の變化はあるが扱其心の中の動搖はどうであらう。實際「聽講心理に於ける學生は、割合に心平靜なるもの、如く見ゆれ共、其平靜の眞否判明せず。」理學士日

野光次氏私信。

である。其所で『聽講中に性的興奮を生じたる事があるか。あつたならば、如何なる時に於て。』の問を發した。之に對して百七明答を得た内で、興奮あり、三七(百分三一・六二)、興奮無し、八〇(百分六八・二八)であつた。其内容の内興奮ありとする者の中

『最初性學講義を聞きし時』

『一般的に云へば無し、但し始め中々興奮せしむ、馴るゝに従ひ皆無』

『唯一度あつた、時は忘れたが、講義が途絶へて自分で何か考へて居た時。』

『餘り無し、先生の眞面目に(精神的に)壓迫されたかの觀あり。但し性交の記述中瞬間的興奮あり』

『午後三時前排尿をこらへて聽講せし時』

即性學講義に始めて接した時、或は性交過程の記述、嬢膜存否と童貞純潔を決定する問題論及等に際して、種々の興奮が起つたといふのは、否定すべからざる一般的事實である。性交といひ嬢膜といひ、局外者が見て無用の挑發興奮を求め

るものとするかも知れぬが、其等の世人が語るを憚りつゝしかも始終頭を悩まして居る題目に就て、是非正しい知識を授けておかねば、他日其無知から意外の悲喜劇が突發するのは、世上幾多の實例に徴して疑ひは無い。よし今一時的興奮が生じて、其は啓蒙の一楷梯では非も無い。之等の問題に關して種々の動搖を來すのは、却つて其等の人々の世間見すな事を語るやうなものでなからうか。

更に目を轉じて、興奮無しといふ答を見ると

「聽講により興奮を生ずべく餘りに年老ひたり。私は之を日常茶飯事として之を聞く、日常茶飯事は虚心平氣なる事の意なり。」

「電車に乗つたり、小説や新聞を読んだり、四條や京極を散歩したりする我々は、斯様な純科學的講義に興奮を生じない。」

「まだ、性的興奮を生ぜしむる他の例に接したる事幾度なるかを知らず」

「實際行動を聯想し又は實見した時に始めて興奮が生じる、而して其等の事は本により友人により既知の事なのである。」

「講義を聞きて稍性的安定を得たり、之尋常の講義にて、興奮を起す如き極端のもの無かりしによる。」

「性的興奮を起すべく、賣文者流の言を異りて、餘りに微に入りて科學的なり。」

「今迄好奇心に驅られ、人に隠れて種々の性的著述を読んで興奮した者が、此頃は何さもなくつた。」

「幽霊の正體見たり枯尾花」

唯漠然性的興奮と云ふても、心的動搖、勃起、不隨意射精等種々の發現があるが、如上の答の中で興奮といふのは第一と第二であり、第三の様式で發現した興奮は未だ報告されて居ない。

其所で之等の反應から考ふれば、概して之等の瞬間的興奮は各人の性智識の發生階梯に於て一度は經驗すべき事である。而して多數の有識青年の集團に於てはたとひ同時的興奮が起つても、教師の態度が眞摯であり又彼の動機が可成理解されて居る時には、群集心理は却つて各人の自重を招くやうに抑制作用を生ずるのである。即集團的啓蒙は此點に於て個人的啓蒙よりも有害なる副作用 (Day dream、自慰等) を生ずる恐れが少いと、此場合に就て云ふ事が出来る。但し相手次第又此方次第の相對性があるのだから、孰れの場合に就ても皆そうだと断言出来ない。

第九章 講義の嚴肅味と公平

講義のまじめさと野次

眞面目の態度で語る事は決して困難でない。みやび男の醫科大學生がストリーヴ會議で術語を自由に運用して *Vita sexualis* を語つて居る時、平生活躍を恣にする人程恐ろしくこわい顔をして「或時彼が……」と三人稱を濫發するのを常とするギゴチない眞面目さ、取つてつけた様な嚴肅さ、借りて來た様な威嚴、之等の外形は時としては其内容と正反對な發現である事も屢々である。

にや／＼獨笑されるのは無論怪しからぬが、さりとて借物のこわい顔も睨みばえがしない。要は「水を語り、空氣の組成を述べる」様にお茶漬さら／＼式であればいゝ。予は平生精子と卵にうきみやつすのが本職で、夏の夜の河開きの火花に「枝垂柳」の流れるのを見て「あゝ、サーメンが……」と叫ぶ程になつて居る

位だから、割にしやちこばらずにやつて居る積りだが、それでも前述の如く「壓迫を受ける（但し精神的に）」人もある。精神的にとは穿ち得て頗る妙、表現其物の形式は冷潮と脱線とが多いといふ意味を含ませてあるらしい。

之を要するに性學講演の仕方は、純科學的訓練を受けた教師ならば、何も別に困難はあるまいと思ふ、寧ろ無理な眞面目さを装はぬ様に注意が必要な位であらう。但しクラスが大きくなると同臭味連が相集つて意味あり氣な微笑を交したり教室の遙後方に群つて私語を交換し可成喧噪を極めて、級友の叱責を蒙む事が間々ある。之に對して余は全然傍觀して居て、靜肅を求むるは學生間に自由に任して其まゝドンドンと續講する。之は無力呆然として居るのではない、又こわい眼玉を剝いて見る芝居氣と元氣が無い譯でもない。放任して置く理由は第一に彼等青年學徒の自重自制の力を尊ぶからである。第二の理由は次の通り、

「一部の野次馬少數乍ら後方に席を占め、他の眞摯なる質問を冷評笑殺し去らんとする者あり。彼等の

多くは、早く童貞な有耶無耶の内に棄て去りて悔ひ無き程、彼等の背景は遺傳的又後天的に淫蕩に過ぎたりし如く見ゆ。當初の不眞面目はさあれ、説述漸を追ふて進めば、又學究的精神の幾分に觸れしむるは困難にあらず、一知半解より尙實相に近づくとは彼等に執りて不必要に非るべし。概説せば、聽者中冷靜なる説述に對し異常の興奮を來し喧噪を生ずる者は、大概既に性的生活に没頭せる者なるが如く、深き内省を缺き何を聞きても悉く彼の聯想を肥すのみ。高尚なる藝術品を見て邪念を起し、冷靜なる科學的研究を曲解する者、例へば性的神經過敏症に罹れる檢閱官や尊むべき敏感を具へたる道學者及び教育家は此蕩兒の亞流に非ざる歟。淫猥と見或は嚴肅と感ずる夫々の見解感想は各自の精神生活の反映に非ずや。充分なる科學的訓練を受け最高學府に學ぶ専門の學生の中にも STRATZ: Der Körper des Kindes の挿畫中小兒の生び立を示す美しき裸體寫眞を示されし時、「風俗壞亂發賣禁止代物なり」と叫び、下劣なる本性を曝露して學友の嘲りを買ふ痴者あり。

然りと雖も歴史的に考ふるに、由來我日本は彼の記紀に徴するも、性的事物を述ぶるに無邪氣淡泊なる事恰も羅何民族の如し。後世儒教の感化によれる道學者の澁面と、近世英米の宣教師及び文學を通じて輸入されたる道學者的潔癖とは、要するに我日本人にそりて借物に過ぎざる也。

されば、よし蕩兒は其類廢生活を言動風姿に於て告白する共、其は各個人の問題にして、他に迷惑を與へざる限り、彼等に對して英國紳士の尊嚴を毀ふ必要無しと考へられたり。山本宣治(一九二一・四月)人
生生物學小引二九頁。

過渡時代の悲しさで、始めの内は「生殖」といふ語を聞いた丈で笑ひ、精子と云へば又ニヤ／＼笑ふ癖が、多くの聽講者に免れられない。どうせ暫くの内靜まり常態に復するにきまつて居るが、講師の立脚地を明確に理解させる爲に、一九二一年四月第二回の開講に先だつて配布した小冊子に上の一項を入れ、少し語が激し過ぎる様だが、前以て一應喧噪の發生の豫防しやうとした。

一體近頃は原稿を飴の様に引延ばす癖が普及して、「であるのであります」式に長く書く事がはやつて居り、さういふ本を寝ころんで讀み乍ら、人生觀や性慾觀を速製否丸呑み出来るやうなうまい仕掛けが出来た。斯様な習慣に馴れた學生達は此小冊子に見る様なカチ／＼文體を讀むのに馴れないから、氣樂な内容のものでも、何だか頑固おやちのこわ意見を聞くやうな心持がしたと見えて、此項を讀んで憤慨した人が随分ある。

「小冊子中私が遺憾に思ふのは「教室の後に集り講義中にマイ／＼云ふ奴は、早き時より童貞を破つた

者である」の一節である。」

「童貞の價値如何。又は童貞を破りし者を攻撃すべきか、如何。」

「先生の講義は童貞を守つて居る人達の爲にせらるゝ様な傾があるが、失ふた人達を救ふては如何です
苦い經驗を持つた者でないか、性教育を一生懸命に求める者ではありません。」

孰れも御尤の感想であり、予も之等の内省に富み努力して居る人達に挑戦した譯で無い。「須く嬢膜を超越せざるべからず」と鐵槌を下す予は、純潔とか貞操とか天晴肉を超越した様な口をきゝ乍ら、其實極めて曖昧な物的證據の存否に拘泥する輩に冷水を浴びせた積りである。「山本宣治（一九二三）「生物學から見た處女性」參照」。男子の童貞に就ても亦然り。最近の白蓮問題等に就ても亦同様「爾曹の内罪無き者まづ彼を口に撃つべし」である。「山本宣治（一九二三）「實物教授をしてくれた時代の犠牲者」參照」

字句を嚴撰して形容詞副詞の末迄忽せにしない者を速讀して、好加減な概括を作つて之に憤慨して見たりするのは若干學生のみに限らない、其所此所の批評家

にも少からぬ様だ。つまり否定肯定を取違へても、別に人を盛殺したり汽車を脱線させたりする心配も無い牛のよだれ式のお話を、毎度々々寝轉んで讀んだ崇り、即低級軟文學食傷の餘弊である。尙此様な理解の一例に

「小冊子中、講義中笑聲を發する者は不善の徒なりとありしが、其は一の偏見なり。笑は青年にあるべきもの、笑は必ずしも淫的笑聲に非ず、一種の小供心より笑ふものなり、故に笑ふ者は幼稚なる者と知るべし。」

如何にも其通り、だから其所にも日本人は英國紳士が教會參りの時の様な敬虔らしい顔付を眞似する必要は無い、とチャンと書いてある。

性學講義聽講後の所感

次の二問に對する答が色々ある、特に害の點に就て予の反省を最も必要とする缺點を尤も忌憚無く指摘してほしいと促しておいた。

○過去二十時間の聽講で受けた害、其が應答者の一身の實生活の既往と將來とに及ぼす直接間接の影響。

○過去二十時間の聽講を受けた益、(以下同右)

『吾人は所謂性的生活に没頭しつゝ、ある者に非れば、當面の益さて明白ならざるは當然。』
『將來に對する益あらん事を悦ぶ。』

『講義は有益、但し其以外に私の性的生活の經歷で害を受けた事は、小説を読んだ事、父母の愚直(之は益もあつたが、害は更に多し)、教會内に於ける淫猥行爲の目撃。』

『益(1)花柳病の恐ろしい事を知り、遊蕩を防ぐ。(2)異性に對する想像の減少。(3)未來の妻及び其他の女子に對し、月經時及び妊娠時の特殊なる性的危機を理解し得る事。』

『性交に關する好奇心の薄らぎし事、益。將來は性的有識者として自己の正導の可能となりしを悦ぶ。殊に其爲一人の妹を有し母無き自分は、兄妹として生くる悦ばしき將來を期待す。』

『聽講前婦人雜誌を讀む時、性的記述あれば、色々な聯想を起した事もあつたが、此頃は平氣で公平な判断を下して居ると思はれるやうになつた。』

『異性に接して左程興奮せず、人間が進化せし如き感じあり、』
『不貞面目に伴ふ羞恥心を持たずに、此問題を考へさして呉る餘裕を興へた。』

『善惡正邪の觀念の變化起れり。又眞面目なる事の意義がわかりたり。』
『親の體より數千萬、數億の兄弟姉妹を犧牲として我一人うまれ出でたる其尊嚴を知り、無意味にうまれ出てたるのではないらしい事を知つて悦んだ。』

『子孫に對する非常な責任觀念が湧いて來た、立派な私の二世を作りたいと思ふ。』

之等の答は、大抵益を得たとする側であるが、次に害となつた色々の點を擧げて見る。

啓蒙による反動氣分たる厭女的傾向

害となつたと思はれて居るのは、大抵従前の女性觀の根本的顛覆である。

『害、性的行爲に關する女性觀に於て、従前よりも一種異なる眼を以て、世の女性を見るやうになつた。』

『私は今迄異性さいふ者を非常に美しい者と見て居た、女神の如く見て居た。併し聽講以來女を見るに汚らばしい者を見るやうな聯想を起す。』

『異性を見る時、異性の性的器官を思ひ起す事あり。』
『性の問題が、餘り生物學的基本々能として明白に眼に映する事あり、餘り快からず。』

此様な反應がある位だから、さぞ講義が女嫌ひ鼓吹の猛烈なのだらうと臆測されさうだが、數に於ては次の親女的反應の多いのだから、さうは云ひ得ないだらう厭女的傾向は、予個人の經驗に徴するも、感傷的な基督教の信仰幻滅に伴

ふ一時期に特有な氣分であり、前に待構へて居た「久遠の女性」を見出し得ざる現實曝露の悲哀がある。斯様な女を厭ふ感じを抱く青年が、特に妙齡の姉妹を有せざる人に多い事も注意すべき點である。

異性が性的器官の權化として青年の眼に映するは、即此人が前に消化・吸收・排泄・分泌・生殖等を行ふ人間としての女を知らなかつた證據で、斯様な生活作用を營む女が目につき始めると、今迄彼女が背負ふて居た天使の翹や天女の羽衣が忽に消え失せると同時に、性的器官許りがバツと眼前に展開して來る、つまり斯様な時の反動氣分に外ならぬ。此振動がやがて静まれば、其人の眼に性的器官は、よし重大な物であるにしても、體の一部を形成するに過ぎない事が、わかる時が來るだらう。

妙に文學かぶれた人々は唯言語の上から食はず嫌ひをする癖がある。「神祕」とか「來世」とか「哲學」とかをば、其語の内容如何を問はず、唯一心一向に渴仰す

る。そして藝術と哲學と崇高で科學が下劣だと即座にきめる。「山紫水明」といへばよし、之に對しては水はH₂Oだとし、山の地質學的構造は古生層秩父系砂岩粘板岩の互層だと云へば、三文の直打も無いと仰せられる。併し科學者は物其まゝつかむ許りで、名稱に拘泥する事は少い。山は聳ゆるがまゝに、水は流るゝがまゝに、鳥は歌ふがまゝに、蝶はつがふまゝに、人は殖ゆるがまゝに、皆ありのまゝで神祕其ものである。運動の仕掛けや化學的組成がわかつて、よし言語の遊戯で興がさめたとしても、現象其ものの驚異神祕は寸毫も減するものでない。感

啓蒙に基づく親女的傾向

じると思ふ人は自由に主張したがよからう。併しMAX NORDAUの様な手嚴しい批評家に掛つたら、それこそトルストイ諸共一束に、此世紀末の精神的不具者だどぞやし付けられる事丈は、前以て覺悟しておかれたがよからう。

親女的傾向の來る所は、大抵両性に人間として本質的相違があるといふ點に氣

がつき始めた事である。眞の理解が現れ始めると、其が婦人正遇の第一歩であり「女は人間なりや」といふ空威張も、又人形視した馬鹿親切も共にやむべき筈である。完全な相互理解は到底望み得られぬにしても、先づ男女互に別物である事を會得さへすれば事足りる。

「女性に對するつまらない憧憬はこれ、今迄より以上高い所にある様に見えた。即男と彼等は同位にある様な氣がする。」

「美しい人を見て妙に聯想する事丈は確に直りました。」

○「兩性の體の構造の相違を學んでから、女性の保護すべき所以を悟り、且又男女共學の必要を感じた。」

「講義の明白な曝露により、異性に對する理解を得て、或程度迄性慾を制する事を得。」

「益、既往の女子輕視主義が女に敬拜主義に變つたる事。」

「多くの生理問題の疑ひが晴れて、他に變愛問題のみが存する。此聽講の爲に、人間的に神聖なる變愛觀を抱く事が出来ると思ふ。」

予の突撃的論調と先輩の苦言

扱斯様な兩種全く正反對の反應を惹起した事に關して、予の立場に就て少し辯

解する事を許して戴きたい。前に各方面に教を乞ふ爲に配付した小冊子が、性教育を當代に於て必要とする所以の主張であり、又五里霧中の境に彷徨し煩悶する青年に代つて世に訴ふる宣傳であつた。其小冊子の増補擴張たる此論文も其と同様に、時として冷嘲を含んだ折伏的態度が予の個性として現れて居る事を明らかに自覺する。斯様な予の態度は即學生に對する論調を示すものとして、先に内田魯庵大人の苦言を受け（一一九頁參照）、今又田邊元博士をして次の如く憂はしめた事は、予の感謝すると共に又遺憾とする所である。

「……唯若し小生をして言ふ事を許さるゝならば、貴下の主張と其宣傳の態度に多少の感情を混ぜられざるやを疑ひ候。勿論今日の狀態に對する御不滿の至、憤慨と青年に對する同情とに燃え居らるゝ事は當然と存候へ共、己に科學的の態度を以て嚴肅なる問題を論ぜらるゝに當りては、斯かる感情は出來得る限り抑へて、無私靜平の態度を持せらるゝ必要ありと信じ候。然らざれば聽者に無用なる昂奮を起さしめ、延いて嚴肅なる問題を不眞面目に取扱ふ如ふ弊を誘發せざるかと恐れ候、此點に就き御再考願ひ度候。貴下御自身が自己の態度に痛快を感じらるゝ如き事ながらん事を希望せざる能はず候。」

講義の客觀性に就て予の所見は既に前述べてある。（一二八頁以下參照）。此希

望と覺悟が實行に移されてどうなつたか。予は自畫自讃をする事を避けて、上記の厭女的及び親女的反應の夫々に徴して戴きたいと云はう、そして田邊博士と魯庵大人とに對して云ひ譯としたい。

それから「自己の態度に痛快を感じる」程でないにしても、予が口さがなき京童として、素町人の子としての眞面目はどんなものか(近刊「智識商品論」參照)、其と之とを對照されるならば、生物學研究者として又教師としての自覺が如何に論調を和らげて居るか、如何にも此馬車馬がブレーキを掛けられて居るかが知れる筈である。

女性觀といふ楯の兩面

『女性の性的感情を傷つける事が、各々専門の業に於て世に傑出した人々によつて行はれるのだ。即之等の人々は、性的行爲でも矢張り口説や、やさしさといふ麗しい飾りで裝ふべき事をば解しない、それで官能的欲望の高ぶつた極に際して、街學と無頓着と獸行、を以て事に臨む。斯様な性質が、結婚生活の中に定められた肉體上の義務充足に許り著しく現はれるのである』(此續きは前六十九頁にある) K. KOCH, G.

H. (1918): Die sexuelle Untrene der Frau. Teil I, Die Ehebrecherin, 3. Aufl., S. 121, Bonn.

戀愛葛藤なんかに到底携はり得ない程にえらくなり過ぎた學者に、得てして斯様な事があるのは、日本も師匠たる獨逸に遜色はあるまい。斯様な大家の口の際にかゝると、女は魔物だとか、或は猿より三本毛が多くて男より三本の毛の足らぬ者は女だとかいふ事になる。

又一方婦人側に耳を傾けると、男といふ者は犬猫よりも尙下劣な獸だ畜生だ、獸性の權化で、女なくては一日も生き居られない半人前の者だとか云ふ話もある。今若し予が孰れか一方此偏つた見解を抱いて居たとして、學生相手に押賣を試みたならば、即座に轟々たる反對も生じやうし、又科學の名を冒し性教育の名を汚す責も免れ得ない譯である。

だから斯様な兩性鬭争意識に基づいた鼓吹は絶対に不可である。其所で斯様な見解は全く黙殺するとしても、シヨペンハウエルやニーチエの女性觀をも省略す

るに忍びない。其所で双方の見解の代表的合理的なのを同じ位に選み出して来て、聽講者に自由に處理させた結果が前の通りで、大過無かつた次第であらう。

之を要するに、問題に就て事實の眞偽は飽く迄争はねばならぬ、併し見解の相違で解釋の區々たる事柄は、雙方の申し分を出来る丈無色透明に紹介すれば、事が足りる。同志同趣味同傾向の輩が生れ出て来るのは是非も無いが、態々其を作らうと強ひてはならぬ。注入的壓迫的態度を執らず共、教師が若々しい學徒に對し頗る強い暗示を與へ得る力が具はつて居るのだから、其責を思へば、好加減な指導は差控へたがよい。否次の理由に基づいて、絶対に其様な僭越な危険な又不可能な事は見合はせなければならぬ。

第十章 教訓無用論

種々の生得形質と普遍的教訓

近世遺傳學に集められた種々の學說の中で、メンデルの單位性質分離優劣の法則・ヨハンゼンの純系説・ゴールトンの雙子の研究・ワイスマンの獲得性非遺傳説・ダヴェントポートの優生學的調査等を學んだ末、予が見て是と信ずるのは一種の生物學的宿命論であり、世の多くの道學者の如くに、環境にしかく多くを期待する事は出来ない。性的現象に關しても、理想的環境の下に置かれてしかも豫期の如き發展をしない人もあり、教訓と倫理に飽和しても尙醜態を世人の前に曝露する者がある。趣味に於ても、浪花節と講談クラブの愛好者をワグナーとグーテに振向ける事は出来ぬ。強迫注入と反復訓練とに全生命を打込んだ明治教育の破綻は、我等の眼前に展開して居るのではないか。

解剖屍體の内臓諸器官が、大抵圖譜に示した通りの典型的形狀に詳細の點迄は符合しないのと同様に、吾人の生存中其等の頭腦や臓器の特殊性に基づいた各個人特有の活動を呈するのは勿論の事である。斯様な生得形質の多様な事と、其に基づく傾向の多様な事を實見すれば、たとひ數十数百の小學校教員から『健康に支障無き程度の性交頻繁度』を問はれても、たとひ數十数百の青年學生から『適確な禁慾の手段』を尋ねられても、五十人百人一纏めの會場でオインソレと返答は出來ない。此事は本評りでなく少く共醫學又は生物學を**實物に就て學んだ人**にとつて、自明の事である。だからよし。

『人生のエネルギーの過半は性の爲に費さる。此重大問題に關して教訓的態度に出でよ。』
『希くは教訓を垂れ給へ』。

等の請求をしても、「固形の倫理」のみに限らず一般に倫理といふ名に尻込みをする予は、教訓を垂れよの請求に對し、徹頭徹尾首がちぎられても、雷が百千たばになつて鳴つても、垂れやうがないのである。

予が教訓を垂れぬ個人的理由

教訓を垂れない理由は、第一に詳細にしてしかも適確且又普遍的な「固形の倫理」や衛生法は實在して居ないから、どんな人で一應自分と聽者との相對性も考へない内に、十把一からげにえらさうな事は云へない。之は誰でも云ひ得る一般的理由なのだが、其次に予自身個人の感情趣味の問題となつたのは頗る簡單だ、即御説法は人に聞かされるのも自分がやるのも雙方共大嫌ひだからである。

嫌は嫌で説明は無用だが、此感で由來する所に多少の文句がある。一體『歌人は居ながらにして名所を知る』のだから、體驗は必ずしも理解の爲めの必要條件でない。一を聞いて十を知るの調子で、結婚をした事も無い先生がノートを繰つて女學生に結婚の注意を講じるのは、中々秀才とお見受け申す次第だが、矢張自信の缺乏した曖昧さが其教師の顔にチャンと現れて居る。現はれるはまだ正直な内で、中には豪健な意志の力を發揮し或は運動等の心機轉換法によりて青年の禁

慾は容易であると説教する校長先生のお顔を拜見すると、最初から性慾なんか萌した事は無いといふお顔付だ。予は之に反して無責任で中腰でおまけにするいから、恐ろしくて説法なんか到底出来ない。して又教訓を垂れるべき条件をおつかふせられて居ない事を之幸ひにして御免を蒙つて居る。性教育の看板を上げて道德一手専賣屋の代物請賣でない、『苟くも性教育を主張する者にして、斯くも無責任放漫なるは子弟を毒する者である』と責められても、一言の辯解も試みない。唯自分が過去に試みて失敗した事をば、さも成功した様な顔をしてお説法をせねばならぬとつい無理が出来る。成程心にも無いお説法でも度重なれば我物になるかも知れぬが、説教師になつてエマソンの所謂『もつとらしい馬面』を呈するに至るのは、予の性に合はぬ事、たとひ『久遠の不良少年』で終らう共、バリサイ人にはならない覺悟である。

教師に人格者を要求する事と其可能性

所で話が純科學的範圍を一步も出なければ、説法をする危険は避け得られるから、予の如き凡人でも安心して性智識の受賞をして居られるが、扱世間では一體如何なる人をして性教育の事に當らしめやうとするのか。

『性教育の必要は云ふ迄も無いけれど、之を爲す人が科學的で、眞面目で、冷静で、高き人格を有する者である事が必要である。』大賀壽吉氏私信。

『若手の教師が好奇心に驅られて、此嚴肅を要する題材を不眞面目に取扱はん事を恐る。之を説く教師は青年に對する熱情あり、しかも母の子に對するが如き愛と眞面目とを具ふる事を要す。教師其人を得ざれば、性教育は寧ろ默殺するを可かせん。』福島四郎氏私信。

望は大きい程いゝ、併し眼高手低だ。實際問題として考へると、性問題に關して正しい識見を具へた人格者を探しても、世の所謂人格者なる者は貞女孝子烈婦と同型に屬する極端少數型であり、さういふザラに發見される者でない。鳳凰や白蛇や麒麟を待つやうに人格者を待ち望んで居て、來るか〜と默殺許りを續けて行くと、到底性教育の實行には漕ぎつけられない。無論「人格者」といふ語の内

容次第で多少融通は利くが、其にしても少し性教育から個人的函數を消し去らねばどうも仕様がないう。そこで予は自分の無責任なづるさ加減から割出した背水の陣の戦法即說法一切抜ききの性智識受賣をば、此當面の難關をば突破するに用ふべき唯一の策として、世のあらゆる教育者に推奨せんとする者である。

科學的性教育は性教育の基礎

此所で予は繰返して、予の所謂性教育の目的を述べる必要が生じた。予の力説せんとする性教育は二段に分けられる。

第一に眞實の追究である。各個人に性現象を諸方面から觀察せしめ、特に之迄閉却されて居た人間的方面を示し、彼と彼の最愛の者の身邊に襲ひ掛る不測の危険を未發に防ぐに足りる科學的智識を授けるのを旨とする。

第二に善と美との「導出」Education である、即盲目的本能を制すべき理性自律の可能なる範圍を示し、以て自知自敬自制の心を養ひ、凡人として自らに顧

みて偽り無く生を楽しみ、更に進んでは世界同胞に奉仕し得るの餘力を養ふを以て其旨とする。

而し今予が人生生物學講義の一部を以て觸れて居る性教育なるものは、純科學的即眞理宣明なる第一段のみを其目的として居り、説法を忌避し、且物はあるがまゝに美且神秘といふ見地から殊更な詠嘆も試みないから、後段の部分は全然放棄してある。其が自分に恐ろしくて到底手が出せないでもあるが、一方生物學的宿命論から『人は同等に造られて居ない』事を信する故に、且又理想的環境に於ても無より有を生じ得ない事を知る故に、説法と詰め込みと盆栽教育を斷然拒否する者である。

科學的智識は文化といふ建築の四隅の基礎石である。之無くして情操の涵養を云ひ高雅なる藝術趣味を説き高潔なる品性の修養を云々するは、足大地に著かざる天使の Idle talk である。其が唯暇つぶしでありの何の役にも立ぬ事は過去の

種々の悲喜劇が實證して居る。先づ我々は礎石を大地に据ゑやう、さらば他の匠工は堂々たる伽藍でも瀟洒なあづまやでも、好むがまゝに建てるであらう。形は如何に異つても皆砂上の家でなく、堅い大地に其家は礎を置くのである。

(1) 東京郊外の某女學校では希臘神話や聖書のアダムの話やお伽芝居をやつて、男女生命創造の神祕を婉曲に暗示する、そして性教育として世間に布告する。

一般に教訓説法を省くべき積極的理由

『私は平素人生に關する問題はずべて科學的に處理さるべきものと信じて居ります、従つて勿論性教育の肯定者です。何よりも先づ智識を興へて正當な理解を得せしめる事が必要と思ひます。理學士石井重美氏私信。』

純科學的智識は斯くて如何なる教育に於ても根本的基礎をなして居る。自然科學の智識に具はる客觀性は、之を解説普及するに殊更な個性といふ道具立を必要としない。今予の説く性教育の如く、要求する所極めて遠慮深く、人知れず椽の下力持ちで甘んじも居り、思想善導のヤレ人格陶冶のと大袈裟な喇叭を吹きたが

らない時は、事が自ら自然な氣樂なものになる。出來ない事やわからぬ事を喋々する必要が無いのだから、何も別誂への『人格者』の御厄介にならず共、普通の平々凡々の人間に可能な事となる。

なほ序に『人格者』が少いと云ふたけれ共、人々の好き／＼で、末世澆季の當代でも廣い世間に一人二人は無、事もあるまい。交通便利で印刷自由な此時代にあつては、其人格に文接して其に私淑するもよからう（人格者も面接親炙すると御光が忽に消失する事が多いから、聖人と救ひ主は昔の人に限るのだけ共れ）。有徳の君子となる事それ程面倒な手続きが必要だとすれば、何事も分業の當代の事だから、さういふ高尚な事は少數の専門家に一任しておいて、我等をして唯性教育のイロハ丈を講せしめよ。教師が誰でも一世の師表たるべき高潔の人格者たるべし（文部大臣の事を今申して居るではない）と云ふ條件を撤廢すれば、教育者自身が思想善導人格陶冶の特權を奉還して自ら偽りの無い凡人に還元さへすれば、事

は自ら解決する。

性教育實行難問題は、教育者の性常識缺乏のせい計りでない。よし充分な智識を授けて見た所が、教育者の頭に之迄通りのたががはまつて居り、又世間でも其たがをはめて居る事を要求するのならば、到底何事も實現されやう筈はない。殻を破れ、教師も父兄も皆、殻をまづ破れ。青年は既に卿等に先んじし殻を破り、自由の天地に悠遊して居るのである。

第三篇 現代各方面の性教育對策

第一章 對策序説

教育者に對するお断り—小學校教員諸君に對する公開狀—なまけ者の求むる性教育の奇蹟—國情の相違

第二章 諸種の對策

對有識青年の策—一般に教訓を省略せよ—中等學校に於ける性教育—中學生心理の特殊取扱ひ方—特に性學講習會を開く必要—對一般民衆の策—アルゼヨア式御上品の脱却—活動寫眞と啓蒙—再小學の性教育—青年男教師と女生接近によつて起る問題—凌辱の誣告—用心第一—青年氣鋭の戀愛至上主義者に對して—輕薄空虚なる宣傳慾に對する親の抗議—終りに小學教師諸君に。

第三章 女に對する性教育

序論—無風地帯内の體驗至上論—貞淑な婦人の抗議—或は「女性の否」か—過激性急と見做さるゝ予個人の辯解—未婚婦人に對する性教育の教師—理想的な教師が必要な丈あるか—女性特有の直覺的判斷—現實を見せつけられた時の恐怖—同性間の反撥現象—啓蒙はごぶさらへ、裁掃除—民族自決と女性自決—女性自決は實行不可能—女護の鳥へ侵入する男—單性自決は何に於ても不可能—女の性教育の特殊使命—娘の性教育と男心—未婚男女の異性觀と智識慾—「欺かれた妾の告白」を讀む男の心理—「男子」雜誌の無用な理由—男は愚痴の安全辨に感謝せよ—告白雜誌による性教育—女は、吾人間は他の經驗に頓着しない—暗い人生、明るく

人生—明るい人生の虫のよい夢—プラトニックラヴの實在可能性—男心を知らずにはむか—男を知る前にまづ男心を知れ—男教師は女生徒の前のモルモット—結婚がイヤになつたらせすともよい—男教師による第一の危険—教師生徒間に起るかも知れぬ閑葛藤—男心を知れば母性は自然に知れる—附たり一、處女の間同性戀愛—附たり二、高級婦人雜誌—對既婚婦人の性教育

第二篇では予が親しく試みた性教育の特殊の場合を述べたが、此篇では其經驗を基礎として特に現代日本の諸方面に於て實行を必要とする性教育の具體案を書いて見やう。

第一章 對策序説

教育者に對するお断り

予が今迄公けにした論文及び講演が唯性教育の大綱のを擧ぐるに止まり。實行上必要な材料の内容、時間の配當等の詳細迄説き及ばさなかつた。其は單に予の準備の不足のせい評りでなく、態と思ふ所があつて斯様な態度に出たのであるが

屢々之が教育者（就中特に小學校教師）諸君のお叱りを蒙むる種になつた。例へば

「今少し深い奥底に觸れてほしい氣持がした。新しい講義の仕方で、自分で結末を附ければならないのだから、其講義振に馴れない者は唯色んな物が並べられたので、どうしたものかさ迷ふて居た幾人かを認めた。」

「性の原理よりも性教育實施の方法、即兒童生徒を相手にする場合の方法を如何にするがよいか、更に承りたいと思ひます。」

一九二一年七月於京都生祥小學校、京都市第四聯合教員會主催、性教育四時間講義の聽講者の感想の中から

恐らく此所で具體案と申しても、又前同様に到底御注文通りのものであるまいと思ふ。が、此不満は予に於ても讀者に於てもやむを得ない。如何となれば、まづ同じ小學教育をいひ中學教育を論ずるにしても、全國劃一の詳細な案をたてる事はできない。よし強いて案を建てたとして其教材を眼前に陳列し、之を丸呑みすれば早速右から左へ受賣する事が可能といふ風にさせたくても、第一に此本の

規模が評さぬ。又よし本を尨大たらしめ得ても、性智識其のものゝ量が未研究の乏しい今日に於ても莫大だから、一寸納まり切らぬといふ當面の困難がある。

尙其外に諸種のいひわけがあるが、其はあの時の來會者T氏に答へた私信に述べてあつたから、其を引用しやう。(此論文のそこゝに重複する點もあるが)

小學校教師諸君に對する公開狀

『……小學校教育に於ける性教育實施の方法に就て何も具體案が無かつたといふ非難は、短い時間の中に大急行を試みた私の語の足りなかつたせいもあります併し私の所見は小學校教師に對して性智識を授けて兒童の性生活の發展に理解をもたしめる事は必要ですが、兒童其者の間では早熟の女生もある事ゆへ月經初潮の現象の存在と之に對する所置を女生に話す事の外には、尋常六年生迄の兒童に態々性交がどうの性的器官の構造がどうのと殊更に教ふる必要は無いと思ふ次第です。即ち性教育の基礎智識として授くべき一般生物學的方面に全力を注ぐべきで、

此點は成徳小學校の『理科要項』などで想像される博物科教材で充分でせう。所で小學校ざりて學校をやめる人に對しての性教育が不充分だから、青年團處女會等の機關によつて思春期に入つてから其時に適切な智識(例、性病豫防や配遇者撰擇に關する優生學的智識等)を授けるのが至當でせう。特に優生學は小學高等科では是非共聞かせたいが、人間の生殖生理に至つては、同級でも性的年級が違ふから、誰にも適切でしかも安全な教授法は無い。色々舶來の例はあるにしてもそんな物の直譯はできない。體質の差と發育の遅速と其他傳説宗教等の種々文化要素が加はつて、非常に複雑な干渉影響が起るから、どうしろと京都市一律に彌榮校のと日彰校と錦林校と其いづれにもあてはまる様な事は、昔どこかの國の文部省の人ならいざ知らず、とても私には申兼る。よし講義の時間の餘裕あつたとしても、私にはわからない事で云ひやうがない。』

(1) 教育に熱心なと傳へられて居る京都市の中でも特に有福な學區にある成徳校と日彰校(後出)は理科

研究室の完備と教材の整頓を以て吾人の注目を惹くものである。

(2) 彌榮(やさか)校は祇園新地に、日彰校は中京織物問屋の多い純京都風の所にあり、錦林校は新開の學校町吉田岡崎を控へて居る。

『が要するに私の考は、小學教師の方々は、賢明な慈母が充分の理解を有し乍ら愛子の活動を見守る心持で、何事が突發しても其に應ずる丈の準備をして居る Watchful Preparedness、即「導出」^{エデュケイト}しても干渉せぬのが最上策だと信じて居る次第である。』

『其所で私は唯必要な智識を提供さへすれば、教育者諸君は各々其を適當に按配して所置せられるだらう、私はやがて其試みに對する反應を承る事が出來やうと期待し、さういふ篤志家との交渉を始めたいと希ふて話に參つたので、無論話は極簡單でした、併しあれでも私としては、帝大醫科生や開業醫等専門家の學殖の内容も知り、前後三百人の同志社大學豫科生と接し、最近には禿頭或は白髮の校長連と親しく會談した結果、最大多數者を目的として適切と信するものを列べた

次第です。簡單淺薄のといふ非難は貴下許りでなく他の多くの秀才から受けた評語ですが、講義といふものゝ性質上如何共仕方の無い譯と思ひます。其から常態の性現象に就ては、私が特に淺學寡聞の爲知らないものでありません(醫師は何でもわかり切つた様に即座に返答します、某博士は何かなしに病氣の講義で頁を塞げられますが)、私は少し計り學んで正常現象は殆ど何も知られて居ない事を發見しました、だから無害な範圍内に於ての性交頻繁度とか、奏效適確な産兒調節法を教へよとか、色々注文が出ますがどう調べても誰にも通用する確かな事がわからないから、何とも返答は致兼ねます。イヤに思はせ振りをせずにアツサリ云ふて呉れと屢々御催促を受ける事もあります。わかかつて居れば決して受賣に躊躇致しません(勿論一部の醫師には自分の無知をごまかす爲に、なかに其はわかかつて居るけれ共専門家以外に傳へる事は許さなのだと、うまく逃げたり、或は「深遠な」研究をやつて居る篤學者は「なかに下らない、通俗な、フン」と空嘯かれる

事もありますけれ共。つまり常態の事が素人から見て案外わかつて居ない事を御承知下さい。』

(1) 『性教育の理論を聞いたよりも、寧ろ性教育其ものを我々に施して貰つた様な感があつた。』一聽講者の感想

(2) 其後性教育宣傳も範圍が擴まり、一九二二年十二月十一日夜京大學生集會所で、此「簡單淺薄」な四時間講義を更に簡單に一時間に切詰めて『現代性教育運動の大勢』と題して述べた。席は學術懇話會、嚮手は京大教授助教講師三十餘名家、特に基礎醫學の諸大家を迎へ得たのは予の光榮とする所、會後予の受けた獎勵や批評は、前に年少氣銳の教育者や學生諸君の加へられた評語と違ふ様に覺えた。どういふ譯なのやら。

『深きものと深く見ゆるものと。』深く知る者は明白な志ざし群衆に深く見えむと欲する者は曖昧な志ざす。群衆は其根底を透視する事の出來ぬ一切のものを深しとするからである。彼等は眞に怯懦である。水に飛込む事を好まないからである。』 FRIEDRICH NIETZSHE: Die fröhliche Wissenschaft.

(3) 『有ふれた疑問ですが……月經の起る理由を聞かんだのは残念……失念されたのかと思ひますか』一聽講者の感想。

化學物質至上主義 Chemism の生理學が何所迄立證されるか、近世實驗醫學の一大懸案が此質問者には有ふれた解決すみの事と期待されて居る。

『それから具體的教授法を求むる心理に就て、私は諸君の憤怒を招くかも知れないが、卒直に感想を述べさせて戴きたい。學者でない一教育者として、又師範學校出身者として其は無理も無い事であらうが、諸君の中の大多數者は既にチャンと料理した御馳走のスツカリ御膳立してあるものを右から左へと取次ぐ事に馴れて居られる。原料を集めて適宜に調理按配する様な暇が無いと仰せられるかも知れぬ。併し其にしても人が奴隷でない限り、自主的に頭腦が働くならば、斯様な機械的操作は行はれない筈である。然るに、悲しい事には、自由潑瀾な思考力を働かす事が、少く共自己の位置を保つた事に於ては、無用有害であつた。又強制信條の押賣には如上の機械的操作が必須條件なのであつた。私は諸君の斯様な受働的態度を養成した其制度の時代錯誤を責めずに居られない。制度の無意味を嘲る丈で諸君のやむを得ぬ窮境に理解はあるから、諸君に代つて鬱憤の一部を漏らす次第、精神的賣笑夫ではない私は、心にもない媚を呈せずに、感じたまま、スツ

バリ告白しておきます。』

『事此所に及んでは世界觀の問題になります。小學教育にさう事面倒な世界觀なぞが首出すものかとお云ひになるでせうけれ共、實際色々な世界觀の押賣があります。内の長男一年坊主の修身書の劈頭第一「キグチコヘイハシンデモラツバヲ……………」と書いてあるのを見て私は閉口しました。理屈抜きに私は感情上色んな世界觀の押賣は眞平御免です、私の話や文にも私のがノコノ首出しますが、併し之を押賣しやうといふ太い根性は毛頭も無い、唯御参考に迄お耳に入れる、無暗に鵜呑せず相當割引せられたらよからうといふ氣持で、小冊子にも「思想的背景」を添へておきました、此邊おくみどり願ひます。』

『かういふ考から、たとひ其が小學教育であつても、イヤ小學教育の様にしみのない白雪の様な純な小供心の取扱ひの事だから一層、被教育者に或イズムを強ひる事は絶対に不賛成です。だから之迄の教育に對しても「今に見ろ……………」と思

ふて居ます。其故小冊子「性教育私見」の文意朦朧との非難もありましたが、あれを書き改めて具體的例を引照して説明したら、あの四六判二十餘頁の「私見」でも私の首がいくつかいる筈でせう。』

『過去偽善者に激して私は偽悪者でした、今でも世間の形式至上主義に對して私は内容第一を唱へます。講義振が輕佻浮薄だといふ師範校出身者たる貴下並びに貴下の同僚諸君の非難は寧ろ甘んじて受けます、併し講義の内容と其取扱ひ方迄がまぢめさを缺く者と見做されたならば、私は非常に残念に思ひます。之がわからなかつたら、双方共に別の世界に住んで居るものと思ふより仕方がない。こわい顔をしなければ體度の嚴肅を缺くとか、威重の徳を傷つけるとか、科學の權威を殺ぐとかは、皆お互の趣味すき嫌ひの問題でせう。吾人は須く嬢膜を超越せざるべからず』といふ短句の底に、どれ丈血と涙とが秘められて居るか、どれ程人間の愚かさど唯物主義の淺墓さが籠つて居るか、やがて若い理想主義を抱いたあ

なたにも世の中下劣さ低級さ加減がおわかりになる時がきませう。青年は笑ひたい時に自由に笑ひます、さうく餘所行き面ばかりを裝ふて終に習ひ性となつた模範老教育者のやうに行きますまい。』

『内容は形式を超越するといふ信念からも一つ事件がありました。私の配布した記入票の始め數行に文法上の誤がある事を指摘した潔癖家に感謝します。此方は潔癖家丈あつて文法上の誤が苦になつて、私にとつて更に必要な感想を書いて下さる方の親切が立消えになりました、此方がうるさいから前の方で帳消しされたのかも知れませぬ。御教示は「そして」ではいかぬから「さすれば」にかへよとか、前句と後句とは自働形で平行させねばならぬといふので、御蔭で日本文法の新智識を得ました。佛蘭西人が語法の明瞭純正を尊ぶやうに、我日本人も「正しい日本文語」の爲に憂ふる人の多くなる丈、日本文化の内容も深くなつて行くものと悦ばざるを得ません。併し創作があつて後に事々を六かしく論ふ文典學者が公式を

編出して呉るのだと信じて居る私は、態々今の口語體文を昔からの文典といふ重箱に詰めやうと煩悶する事も無く、文典をこれから産まうといふ時代に生まれた事を幸福として居るのです。ゲーテの所謂「内容が無くて語ばかりの概念」（例へば教育や哲學の雜誌でよく見受けるものゝ様な）よりも、語が整はず其内容の備はつたものゝがましではありませんか。但し斯様に云ひ譯しても貧弱な語の中に雜駁な概念を無暗に押込まうとした私の悪文の辯解に代へたのではありません。』

1) 三五六頁「人生生物學研究資料蒐集に就て」型ハ記入用紙參照。

『それから私は何も御説教は致さなかつた積りですが、そんなものは「教訓を垂れ給へ」でも、自分に顧みたらシラ／＼しく云へたものでありません。眼前の經濟組織の變遷に伴ふ既成倫理の崩潰がマザ／＼と我々の眼前に展開されて居る今日に、「かくあるべき筈はない」と千萬言用意到な論理をこね廻した所が「事實こうなつて居る、實際こうである」のは否定出來ますまい。居乍らにして名所

を知る」のも其所いゝ加減、あまりゑらさうな事を説法する程に頭も宜しくない且又鐵面目の様に見えて其實到つて氣の弱い所（本人がかく申すのだから間違ひはない）をお推察願ひます。』

『近頃時々講演に出あるく度毎に「先生」扱の荒つばいのに縮上ります。所謂先生に祭りあげられて溜るものかと頑張つて居ます。先輩大家諸先生の打明け話を承ると、中には不知々々の内或は又私の様に抵抗を試みて居る内に、いつのまにやら先生にされてしまひ其情勢で仕様事なしに人間離れした所謂先生であるべく餘儀無くされて居るといふ人も居る、又再返らぬ青春の日を追懷して殘惜しさうに青年をけし掛けて居る大家もある。薄志弱行人格下劣な私がそんな名前をつけられては大變です。お互に先生である前にまづ人間です。いつも舞臺の上で眼をむくやうな餘所行生活を見せなければならぬのは随分苦痛でせう。私は單に智識ブローカーです、其供給した智識の消費者が其を何の用にあてやう共、さうく』

私から立入つた干渉は出来ませんまい。又此所で生物學的宿命論で首出して參りませ、さうく教育者の全能を自惚れて居ると學生が舌を出します、なまじつか基督教的人道主義などに自己陶醉をして居ると、生徒の舌所かもつとひどい幻滅の悲哀を感じる事も起りますぞ。』

(1) 著者は二十歳を越へて間も無く始めて先生と呼ばれて恐れをなした。時は一九〇八年の頃、所はカナダ、フレイザー河口スチーヴスタン村の日本人漁者團體の病院附屬の英學校（熊野の聖醫故大石誠之助氏も此病院に居た事がある）、紀州日高郡出身の荒くれ男が予にリーダーを習ひつゝ、先生々々怒鳴られるのに閉口した。其翌夏は鮭の大漁、リーダーもほり出す騒ぎ、「先生」も早速漁獲配當三分一のオールマンに化けフレイザー沖の荒浪も浴びたが、沖に出て「鮭がされるかい、先生」と矢張先生の聲につきまさはれた覚えがある。

なまけ者の求むる性教育の奇蹟

尙此折の聽講者の感想の多い中に、一つ出色のものがあつた。其は佛教大學を卒業した一僧侶某君の文で、豊富な佛語と該博な出典とを翻譯抄録して見ると、次の如くなる。曰く、

『性教育私見』の名にどんな破天荒の卓見かと思ふて聞きに來たが、案外簡單淺薄な生理學の講義であつた。斯様な事は中學校の生理衛生教科書にもある筈で、苟くも大學の教職の一員が、今更事新しく公けに云ふ程の事もない、一層の奮勵努力せよ。』

(1) 中學の生理衛生教科書にもなく、更に最高學府の醫學生でさへ聞いた事のない話だから、予は舌に筆に宣傳を試みて居る次第。

(2) 私は當時まだ一學生であり職員でなかつたのだが、大學院學生と講師たるまは論據其ものに變化しない。

とであつた。之は少し意譯を試みると、眞言祕密の法を以て九字を切れば忽ち怨敵退散すると號する如く、科學的にハイカラな公式と呪文を以てすれば煩惱の犬が立所に消滅しやうかと期待したのに、之は又案外に散文的な性的器官の解剖生理や内分泌などの講釋で興醒めであつたとの意味に解釋される。

之は今のデカダン時代に多い「神祕と奇蹟とを求める心理」で、何も此人一人の

專賣ではない。「惡筆は一生の損」だから一二ヶ月で速成上達させるとか、扱は何とやら電氣治療器械の如くシュ〜バチ〜で萬病を即座に直すとか、皆「心のサポタージュ」人種の夢、夢も時には精神治療の役に立たうが、扱覺めた現實の世に其の夢のきつめも永續きしない。性的化學物質至上主義 Sexuelle Chemismus の生理學が進歩しても、性慾の興奮を自由に調節し得る程に、ホルモンの注射がきくのも六かしからう。

田舎の青年團の五分間演説などよく聞く絶叫に、當代の哲學も科學も性的危機にある青年に何の救ひをもたらさないのは不都合だとある。之も前同様虫のよい注文であるが、一體全體『我々の科學は人類の幸福などを約束したおぼえはないのだ』(METCHNIKOFF)。よし宗教は他力本願や信仰による救ひを教へても、科學の方には唯努力による救ひしかない此現實に、目をふさいだ虫のよい望なのである。

次に添へた一項は、斯様な何かなしに科學を買冠る一部の人達に對して、無用な言であるまいと信ずる。

自慰に悩む青年に答ふ

某様、あなたの血と涙で書かれた御手紙を一旦に讀み下しました、あなたに執つて斯様な深い秘密を私に信頼して委れて下さつた事に大な感激を持つて居ます。

此問題に就て多數の觀察や告白を有して居る私は充分の確信を以て次の事を申す事が出来る……即あなたに自慰の弊害と其が後に残す結果をば顧る過大視されて居る。

此習慣は私が話した通り思春期の青年の間に可成普通の事です、いかにも此事は第二者の參與が必要で無いから過度に行はれ易い、そして特に神經質の青年では神經系に甚た不快な擾亂が生じる、併し之は醫やし能はぬものではない。昔から人も云ふなる其の恐ろしい害、其話其脅迫が生じる悪影響即固定強迫觀念の害の方が自慰其もの、害よりも大なのです、『群衆暗示』の影響が健康上心理的に大害を惹起するので。私は「自慰大害無し」と申しました。成程今の所考を纏める事が出来ないとか或は唯何とばなしに世の中が味氣無く思はれるとかの變化はあるでせう、幾分其は普遍的青春苦もありませうが、矢張繼續的過度の自慰によつて生じたのかも知れませぬ、否多分其結果でせう、併し之は正常健全な性的生活に入ればやがて消滅する事なのです、此事は私が今斷言するよりも之から數年の後あなたが強迫觀念のお化けから解

放されて新天新地に入り楯の両面を觀察される其時の御報告に待つ所があります。

早熟の少年が此習慣に陥つた時生理的衝動と模倣性に左右される許りですが、思春期に入つては其習慣の底に他の童貞純潔を尊重する倫理的動機即理知の發達に伴ふ或一種の利他心があり、又一方に於ては自ら煩累を蒙るまいといふ利己心に基づく文化意識が出來て居るのです。

おやち連は青年の意志薄弱だからと申します、併し彼等の青春期に於て大抵春機發動と同時に性慾充足が始まりました、つまり一般自然人變人のおひ立の夫れです、之に反し我々近代人は種々の文化因子に支配されて居るから生理的成人と文化的成人との時は一致しない、此所に近代人の悲と煩悶とそして誇があります、進化の一本道で振向けば立所に滅びが来る、「自然に歸れ」と云ふても我々は變人生活に逆戻りは出來ませぬ、お互に昔の人が何と云はう共願みないで前進ませう、あなたは非常に悩んで居られる、私達否私も悩んだ、之は特に神經質な又理智に豊んだ人の悩みです、鋭い反省と激しい自己鞭撻の爲に人から見れば餘計な苦勞をして居る譯です、豚に此煩悶はありませぬ、ウヤムヤの内に此境界を過ぎ去つた連中には理解は出來ませぬ、お互に戦ひませう。私も戦に全く勝つたといへないが………

There is no royal road in geometry.

幾何學に於けると同様此問題でも別あつらへの即席解決法は無い、或一部の科學迷信者は大本教信者のやうに一寸瞑目して科學の呪文を唱へると、即座に煩惱の犬は悉く永久に退散する様な期待を抱いて居ます。そして此アラビアンナイト式の空想が實現されない事を體得し得た時に、「科學の破産」など、絶望の

叫を揚げる事もあります、併し科學の方では何も彼様な奇蹟を約束した覚えは無い、性知識を得て無知に基づく煩悶は一掃されても、人間の悩みは全部到底解決出来ませぬ、例へば無機界で噴火や地震の理法が如何に明瞭にわかつても其等の自然現象を未發に防ぐ事は出来ない、之と同様に理性の支配を受くべき人事現象の中でも性慾衝動の如きは、出て来る筋道が大抵わかたとしても（まだわからないが）、どうも仕方無い事が有り得る譯です、此戦はたやすい戦ではありませぬ、そしてあなた一人の戦でない事を覚えておいて下さい、御奮闘を祈ります。—山本宣治（一九二二）人生生物學講義大要。

繰返して云ひたい。性教育とは怨敵退散、家内安全、福德圓滿等、一度誦せば萬能の驗あらたかな、なまけ者の呪文ではないのである。

國情の相違

日本は西洋と違ふから色々な物の直輸入はいけないと、安全思想專賣者と御國體の自稱擁護者が申して居る。日本の氣流は西洋と違ひ險惡だからと、「墜落」では無い「不時著陸」をした飛行家は云ふて居る。予は安全思想家でもない、飛行家でも

ないが、矢張同様に日本は西洋と或點に於て國情が違ふ、即文化史的背景と環境が違ふから、性的啓蒙主義でも原理は東西共に變りは無いが、表現形式は當然異なるべき筈だと心得て、フィルム輸入位はいゝとしても、他の細かい點迄直輸入は智慧の無い藝當だと思ふ者である。

其理由は先づ第一には歐米の新教國に見る正統派基督教や又舊教國に見るカトリック教の教義信條の過去に跳梁跋扈した餘勢がない、成程ポープ至上主義の如き強制信條はないでもないけれ共、諸種の佛教といひ又儒教といひ其他の民間信仰にしても、民衆の實生活の中に於て（僧侶といふ少數の禁慾専門家が標榜して居るのは扱おき）西教程に禁慾貞潔を強ふる事は無い。本來我等大和民族の神話たる古事記日本紀の記事にしても、國學者のこぢつけ解釋を看過してデカに讀下すならば、希臘神話をよむと同様に、人間的な享樂の讚美と人生の肯定を發見する。其後佛教の感化によつて色即是空と觀じ世をはかなみ人を厭ふても、或は儒

教に強ひられて士君子とすまし込んで見ても、或は英米直輸入のビュリタン振りを以て國風の華美輕薄淫靡を罵倒して見ても、其は唯少數者の拜外的道樂たるに止まり、一般民衆の生活を叩き直すに足らぬ。

其證據は我々の日常生活を見よ、我々は電車を昇降する婦人の素足を見て興奮する歐米人程に神經過敏でない。胸といひ腹といふ語を用ひて自らも興奮し他をも唆るに足る程の豊富な想像力を持たせて居ない。書いた物にこそ近頃は伏字をしたり、……で思はせ振の省略をしたりして色々の策略は弄するが、實際都會でも農村でも何所でも人の寄る所なら遠慮の無い猥談を耳にするので、謹直なのは印刷物の上つ面許りである。此露骨にして誇張に富んだ猥談道樂は有識無識とを問はず、階級の勞資を問はず、社會一般に行渡つて居り、唯其發現の形式が文學的趣味に富むか科學的正確を伴ふか等の相違になつて居る。

此間に於て性的啓蒙主義を唱ふる者の當面の目的とは、斯かる普遍的傾向の純

化と濫造性智識の整理であり、此所に於てアングロサクソン族の文明國に於ける如く佯假的潔癖とブルジョア式僞善とに痛撃を加ふる爲に全力を注ぐのは、頗る見當違ひ、即ちありもせぬお化け退治なのである。無論社會の一部少數者として教育者や宗教家があり、職業柄餘儀無く士君子風やビュリタン振を装ふべく強ひられて居るが、其潔癖や僞善はほんの借物であり、唯印刷物や教室中で丈の謹直振りも實際世の大勢より見て餘り大したものに見做す事が出来ぬ。此點は予が見て、快活洒脫輕快淡泊を愛する南國の民即佛伊に住むラテン民族と我日本人と共通性ありとする所で、Decencyにこだわる英米人と同一視する事は出来ぬ。だから英米直輸入の性教育も従つて此國情と掛け離れざるを得ない。けれ共我國に於ける此問題の先覺者の多くは、其虎の巻に就ては英語唯一であつたらしく、我々に迂遠な杓子定規か、聞かす共よい有觸れた「穩健な」策のみであつたのを遺憾とする。

第二章 諸種の對策

扱立場を斯様に定めた上で現状にぶつかつて見やう。

對有識青年の策

之は既に予の詳述した所を約言して見るならば、生物學講義に於て生殖生理學の形式を以て性智識を講ずる事が、唯一可能なる性的啓蒙の直接手段である。予の實驗によれば、世人の豫期とは正反對に、單行書やバムフレットによる文書啓蒙よりも教室内講義は有害な副作用を伴ふ事が少い。生物學講義は人類を中心として遠心的順序により、青年の心的動搖を生すべき題材をまづ第一に征服し、而して後遺傳學優生學の廣きに及ぶ事とする。論述は概要的とし、常態を説く事を主とする。其は健全な青年が無用な恐怖と先廻りをする暗示作用に惱まされる事を防ぐ爲であり、病理、變態心理の如きは特に必要無くんば觸れる必要は無い、(條

件附啓蒙といふ様な不徹底な沙汰でなく、専門の醫師になる人の教育でもない、且又そんな物よりも携はるべき問題が他に多くて時間がとても足らぬから)。學年は一でも性的年級は異なる故、不絶學生の反應を徴して其大多數者の状態を參酌し促進獎勵せぬ程度で平行して行かねばならぬ。大規模啓蒙の粗雑な結果を出来る丈調整する爲に、少數極端型に屬する人々には私的接見、應問等による特殊個人的手段を講ずる必要がある。

一般に教訓を省略せよ

周圍と因襲とに強ひられていつの間にかぶりおほせた『先生氣分』といふ頭のたがをはづし、『教育者』といふ殻をぬぎ棄て、偽りの無い人間に還元し、説法と教訓とを抜きにして、カチ／＼の事實丈を述べる事に満足しておく事は、性教育を無理の無い様にする爲、又一般に實行可能ならしむる爲に必要不可欠なる條件である。即純科學的なる事が必須要件であり、他の美的教育又は人格修養と

いふが如きは、根本智識を與へて後の二次的問題（大乗的だとしても）であり、前のを閉却して之のみを重んずるならば、寧ろ有害無益と云はねばならぬ。

性教育が實行困難だといふのは、人性を辨へず教訓々戒鍛練等の他律の可能な範圍をも科學的に知らぬおやち連と父兄と教師とが慾張り過ぎて、虫のいゝ注文を勝手に出すからである。極内輪な期待に止めておき、他人の私生活の内密迄立入つて趣味や先天性迄叩き直さうといふ様な愚擧を試みさへしなければ、實行は決して困難でない。當面教育者の性智識缺乏といふ如き困難は唯小手先き計りの問題であり、中等教員の特別講習を開いて此缺を補ふた曉になつても、上司と父兄と當事者の頭が今迄通りだとすれば、餘り大した事は出来まい。

之は單に性教育ばかりの事でなく、大正日本の文化行詰まりの特徴であり、何でもかでも皆、能はざるに非ず爲さざる也で、結局小手先きのごまかしや其日逃れて埒の明かぬドン底の腹と度胸の問題になる。此所へ入つて來ると、性研究は

食後のストロヴ會議で猥談に耽る様な氣樂なものでもなく、ごつちを向いても血の滴る様な恐ろしい根本問題に衝突する。之に對する腹が据つて居り、罷り間違へば笠の臺を飛ばしても悔ひない度胸があつたら、性教育は本の朝飯前、三學級二教員制の如き勞働搾取策は始めから姿を見せぬ筈だが……

中等學校に於ける性教育

此對策は男女の性別を問はず、一般に思春期に入つた青年男女學生に適用すべき否せざるべからざるものである。性智識は、高等學校の自然科學概論に於てのみならず、中學校及び高等女學校の上級で博物及び生理衛生科に於て述べべき事であり、學生側と父兄側が此教育の眞意を解せぬ爲に無用の興奮をせぬやう、且又思慮の足らぬ低級記者の舞文曲筆の爲に無用の論争や壓迫を惹起さぬやう、態々「性教育」と看板を上げた一科を設ける必要は決してない。要は從來より存する學科の内容充實である。

(1) 大學の様な時流に超然たる所でも近頃は内容充實といふ様な事の爲に費用を新に要求しても容れられる事が少い。其理由は昨今節約の聲喧しい折柄でもあり、外に種々のわけもあるが、一の重大な理由としては官僚主義の一弊として實効を擧ぐる事よりも具體的に何か新しい名前をつけたものを作り出すのに上下共に熱中するといふ事による。名を重んずる官僚に事を行はしむる爲に、或は思慮と打算に長げざるシャーナリストと世人を瞞着（此語が激しければ取消して「教育善導」と修正してもよい）せんが爲に、充實といふよりも昇格といふ様な小供だましの言語の遊戯を試みるのは、斯様な巧妙な政治的術数であり、事實と事とがれば命名上の問題に一々拘泥する必要もない。

併し此性教育に關しては態々其實行を廣告したりすると、大抵の場合當事者自身は壓迫と誤解と嘲笑の的になる。何にも其様なものにビク／＼する必要は無いが、無用に事を構へ精力を浪費するのは不得策である。殊に之を試みんとする目的が、聽講者銘々の自立解放であり、教育者自身の實名策や榮轉昇進を圖る方便の宣傳でないのだから、太抵の場合に於て殊更に試みる宣傳は有害無益である。新しい試みを反對なしに實現する事は不可能だが、無暗に大童になつて獅子奮迅の勢を以てあらゆる反對を一時に征服しやうとするのは出来ぬ相談、だから殊更喧嘩を買ふて拳固をふり廻す必要もない。「論より證據」と聽講者によつてあらゆる實證を自然に提供し得る様、無用の理屈と喧嘩とが出来ぬ様に骨折るのが肝腎だ。

此點に予は、墮落したシャーナリズムに跋扈して居る東京から隔離され、此文雅閑靜の舊都に徐々其所信を實行に移し、以て無用なる論争と紛議とを避け得た事を悦びとする。

此際文科大學出身者や高師國民道徳科出身者等の講ずる倫理に於て、此題目に觸れる事は甚だ望ましくない。有害にして誇張されたしかも實相に疎い説法の危険性は前述の通りであり。今時スタンリー・ホールあたりのお上品な所では到底埒が明きさうにない。一般に中等教育に於ける諸弊は大抵親切過ぎる所から來るのだから、もし不親切になつて戴いても青年の方に申分は無い。

「あらゆる他の教育と同様に、性教育も亦、學徒彼自身の興味と要求とに適し且其等を満足する時に限つて、有効となり價値あるものと爲す事ができる。性教育は外からおつかふせる事はできない、上よりの天降りも不可能だ、教へらる人の理知の上に載せて蓋とする事もできない。性教育は受ける人の心中に感應を起して、彼自身の進歩發達する理知を働かせられるやう彼に力を興へ、彼に武器を興へねばならぬ。斯くて彼自ら是非善惡の分別を辨まへそして彼自身の理知の發達に貢獻せねばならぬ。文明諸國で追々認められてこやうとする事は、教育とは單に外來の智識報道を同化するばかりでなく、寧ろ被教育者の分別判斷の内在力を覺まし其を發達せしめやうとするのにある。世の所謂性教育の爲した大なる禍は、其が學生の中に勃興した興味を訓練進歩といふ適當な道に導くに失敗したといふ事實にある。即其は興味をば鈍らせ制限し妨げ、更に進んで其興味をば根絶せんとする試みる。

之が近年續行されて居た所謂性教育の大缺陷であつた。性本能に淺薄且賤むべき一種の解釋を下し、之を基礎として其性教育は詳々『勿れ』と消極的德行をすゝむるに、或は亂交による陰險極まれる罰を示す事を以てし、或は人倫道德に嚴に執着する事を以てした。それも理知を根據とするでもなく、經驗の結果でもない、尙又因果應報の徳を求めやうと云ふのでもなく、ひたすら彼の苦痛多き禍なる病といふ形式をさつた刑罰を避ける爲なのであつた。斯く考へられて居た教育は既に其自身の中に駁論を蔵して居る眞の教育は恐怖を詳々と説く事を許す事ができない。恐怖とは抑壓と病的強制的植え付けられた土の事である。人間の表現を束縛し制限し妨害するものは恐怖であり、悦びと幸福の根に打撃を加へる。其故に性教育の目的とするのは、先づ第一に學生の心中に恐怖を植えつけるのを避ける事である。』 MARGARET SANGER (1922): The Pivot of Civilization, pp. 253—254, N. w. York.

中學生心理の特殊取扱ひ方

中學教科書に於て生理衛生を教ふる際に、前に述べた様な態度を以て教師は臨むべきであるが。實際特に顧みるべき青年心理の微妙な點がある。其は青年の奔放な想像力の活躍であり、之に適當な指導を加へて正路に進むやう不斷の注意が必要となる。例へば性病豫防の智識の如き必須不可缺ではあるが、今若し不用意

な教科書編纂者があつて、教科書の中に「花柳病」「梅毒」「痲菌」「性交」の如き文字を挿入したとすれば、青年學生は始終教科書を擴げては此簡單な術語を目にし、教授時間の退屈紛らかしに或は家に歸つて鹿爪らしい自習の机上に、種々奔放なる想像を走せて花柳情話のヒーローたるを夢み、或は人無き所に於て自慰を行はんとする衝動を生ずる事もないとは限らない。しかも斯様な危険な副作用を避けて正しい智識を與へ且安心を得せしめる爲には、教科書上にも斯様な聯想を起し易き簡單な術語や記述を一切省き、教師は教科書に添へたる教師用別冊の詳細な智識をば、微生物の生理等の叙述に事寄せて徹底的に口述するのが便法である。此際教師いちめのませ返し質問が出る恐れがあるなら、時間後別に個人應問と群集心理の悪作用を避ける思案が宜し。何しろ口述でも消し難い印象が残るのだから、態々字にして殘して迄も豫想外の副作用を起さぬやう注意が大切である。

性學講習會を特に開く必要

扱以上の事に直接當る人は、今早急に求めても極稀である。教師で動植物學に精通して居る人はあるが、人類生殖に關しては其根本の解剖學的及び生理學的智識を極概括的に類推をなし得るに留まり、人類の性現象に特有なる諸種の心的影響を考慮し得る丈の素養が大抵缺けて居る。更に考ふべき文化史的性現象を同時に理解し得る人が少い。其故之等の基礎教育を受けた教師に對し更に性學の仕上げを施す爲に、當局は中等學校以上の生物學關係の學科を擔任する教員を召集し次の主なる題目に就て各々専門の大家に囑して講せしむる策を採る必要がある。

(一) 一般生物學的方面

人體解剖學（特に性的器官及び内分泌腺に就て）講義及び解剖實習。

中等教員は既に基礎教育を受けた學者だから、之等に對し此基本的訓練を躊躇する必要は無い。殊に醫學者の特權たる屍體剖檢の事を門外漢になさしむる如きは不都合と非難が出さうなが、之は理由も無く唯繩張り内を疏らされる同祥會式やきもち根性を見て一笑に附してよい。

生殖生理 講義及び實習。

此實習は白ネツミの精子の行動やウニの受精等を觀察させる。

(二) 醫學的方面

性病病理 と其豫防法の可能性 講義及び參觀。

之は醫師に教へるのでないから、別に治療法等の明細に亘る必要は無い、唯感染の經路と病症の經過徴候等を知つて豫防法の幾分を示し、併せて無知に基づく醫藥萬能思想を打破し、絶對的防疫の不可能なる所以を示す。

變態性慾學 講義

之は諸種の性慾顛倒の内或ものは先天性であり、特に其發作の初期に發見して隔離の運びを必要とするものもあり、不自然なる環境（時代錯誤の威嚇教育や「變態性慾研究」の反復暗示等）によりて惱まざる、青年が危険に陥る前に教師として適宜指導し又反對暗示(Gegenangerektion)を用ひて大過無からしむる丈の應急處置を施し得る理解思慮を求めやうとする。但し此際異常心理と常態のそれ

とを無差別に混同しない様に、即ちあらゆる人間を變態性慾者と見做す様な危険に陥らぬ様に、特に注意した題材を用ひる。

(三) 心理學的方面

性的心理學 講義

此部門に於ては、前の一般生殖生理では取扱はなかつた人間の常態性生活 *Via sexualis* を論じて、*FILIS* の流にならひ、性交・自慰・夢精等の生理心理學的現象の批判を試み、序でに *FREUD* 一派の心理分析 *Psychoanalyse* に觸れる事にする。

(四) 文化史的方面。

結婚制度の發生史 及一夫一婦制度の存在理由、講義。

經濟學的家庭觀 人口問題、新マルサス主義、講義。

(五) 藝術的方面。

人體美學、講義

之は *STRATZ Schönheit der Weiblicher Körper* の如き題材をとり、かくあるべき人體美の標準を幻燈によつて實示し、なほ此序でに單純清新なる化粧法等一種美的衛生保健の法を教ふる事とする。

此上の教科課程に基づき夫々専門の大家を煩して、全體として統一ある綜合的性學の概念を與ふる事を目的とする。斯様な諸學の組合はせによつて、病人あるを知つて他に多數の健康者ある事を忘れた一部醫學者より來る危険を豫防し、變態ある事をのみ説いて常態を知らぬ一部の紹介者に迷はされる事も減じ、先驗的に設けた「道德の規範」に此自由無礙な人性の眞實に強ひてあてはめやうとする道學者の痴愚と、其教訓を奉せんとして事志しと違ふた青年の煩悶を少からしむるに多少の貢獻をなし得る事を期待される。

世の多くの教師は之等の性學智識を既に具へて居るものゝ如くに一般の期待を

受けて居るが、實際はさうは行かぬから、前記の通りに補缺講習を必要とする。予が屢々問はれた参考書の撰擇の事に就て、多くの教師の有する困難を知り得た即彼等は市場に陳列される性研究書の淺薄低調と其發表の動機と形式と目的とが極めて不純な事を直覺して居り乍ら、又かゝる本の厄介になる事を人の前に知らるゝ事を恥ぢて居乍ら、之等「性學大家」連の著書を唯一の頼みとして居るのである。しかも世に良書が無いのではない、日本の文化の現状から夫々の分科に大家が居ないのでない。然るに斯様な智識的惡貨の横行と學者的詐欺師の跋扈を見るのは、能はざるに非ずして爲さざる當事者の責である。當事者とは單に教育行政を司る者のみのいひでない、迷信打破の文化的責任を有する斯學者も其責を分擔せざるを得ない。

猶若し性教育に直接當らんとする醫師があるならば、其人も亦如上の性學講習を必要とする。醫師なるが故に省いていゝのは第一の人體解剖學講義實習丈で、

其外の學科は其人が醫師として病者のみを見るに馴れて偏した態度を正し、人間を自動機械視せず全體として血肉を具へ悦び且悲しむ者として其心情を酌む丈の理解を加へ、且從來の統一無き専門の醫學智識を綜合整理する爲に是非共必要である。此要求は醫師の素養の實狀に通せず、ひたすら醫師の言に隨喜渴仰する一般民衆の不審とする所であらうが、少く共性學輓近の進歩を辨へ且虚心平氣に自己の實狀を反省する丈の餘裕ある醫師諸君の首肯せられるのを、予は信じて疑はない者である。

對一般民衆の策

上述の如き特別講習を以て充分實力と理解に富む宣傳者を養ひ得た後になすべき事は、一般的啓蒙の事である。今普通義務教育を終へて既に思春期に入つた青年男女を包括網羅する諸種の團體例へば青年會處女會等に對しては、生物學の基礎智識を短時間内に眼より得せしめ強き印象を與へる爲に活動寫眞又は幻燈の如

き準備を充分に備へた第一流の巡回講師の派遣を必要とする。之に就て予が之迄地方青年團に就て得た體驗と反應に徴すれば、現今の如く「青年團向き」の講師によつて「青年團向き」のお話を餘興の餌で釣寄せた會衆にする事は、「文化低調なる農村」の青年が既に反感を抱いて居る事である。予は便宜上之迄有識階級を一般民衆より嚴に區別して策を立て、見たが、有識階級とても聰明高尚なる者許りだとは云へない様に、青年團員が悉く無知低級だときめて掛つて、態と調子を下げ、従來の方法は頗る不當である。唯難解を避ける爲に耳馴れぬ専門の術語の使用を慎みさへすれば、他の取材は有識階級に對するのと同様でよい。斯くする方が聽衆の自重心をも傷つけずに智識慾を可成満足させる事が出来る。此場合にも避くべき事は高壓的教訓と威嚇強迫である、多くの衛生官吏と警官とが共力して行ふ傳染病豫防宣傳の如き調子で、基礎智識の普及を全然無視し、衛生の原理を知らしめずに唯其日逃れの小手先き丈の法を教へ、又毒々しい色彩を塗つて惡病の

襲來を告げ威嚇する様な事は、吾人改造の時代に於ける時代錯誤である。

ブルジョア式御上品の脱却

此對民衆の一般的啓蒙運動に參與する者の特に注意すべき事は、ブルジョアの氣の小さい御上品振りが、到底世間に通用しない「芋の煮えたも御存知はない」事だといふ事を、篤と念頭に置く事である。無論勝手口と御門と二つも入口のある家に住まひ、中學校では始終ゲートルを穿かされ、錢湯通ひに迄制帽袴を著用し乍ら人となり、フロツクコート著用の上日比谷大神宮で神前結婚の式を挙げ、箱根熱海に新婚旅行をした連中は、決して啓蒙事業やセックスなど下品極まるものゝ手をお出しになる氣遣ひがないから、其所迄心配は無用かも知れぬ。併し日本の國でも地方によると、蠶卵紙賣迄が鬚を立て、紳士を氣取つたり（何も種紙賣だから鬚をはやして悪いと云ふのではない、猫でも犬でも立派に鬚を立て得る自由を有して居るのだから）、或は其日暮しの貧乏人が其子に「何磨」と命名してロハの贅

澤を恣にする程の國柄であるから、矢張無産有識階級たる教育者に對しても此注意は徒勞でないかも知れぬ。例へば、一青年小學教師の返書に曰く

『予は當年二十三歳、しかも身體極めて壯健、心的發達も並人に劣らざる考へなり。師範卒業も最優等生として、現在の位置も同級生中最高位なるは勿論、數年前卒業の先輩をも抜けり、即予は生存競争場裡の優者と自信し愉快に日を送れり。されば凡人が性慾等に身を誤まるは、要するに生活上の劣等者にして單に感覺的快樂を求め見るなり、そは心的快樂を知らざる彼等の當然走るべきコースなるべし』

『予は常に「美しき女何所にか我を待ちつゝあり」と思ひ、性の爲に悶ゆる事無し。されど性智識の不用なりと云ふには非ず、純なる青年を挑發する事勿れ。』

此純なる青年秀才の我獨り澄めりといふ確かな自信が、將來世故に長け年を経た後に迄清らかに保存されたいと希望するに吝かならぬのであるが、斯様な『優等卒業』の秀才にして殊に才色兼備系統優秀な好配を得た人の人生觀が、兎角お芋の煮えたも御存知はない様になり易いのも無理はない。併し之も其人の同類たる智識階級の間に向ボッコして居る間の御自由、若し斯様な考へを抱いて馬を陣頭に進め一般庶民の救濟を叫ばるゝならば、立所に「箠棒奴」とか「あほやなあ」と

いふ残酷な罵倒と共に痛ましい幻滅が來るに相違無い。併し大抵お上の宣傳は自動車で驅廻つて演説をしてポスターをまけば、尻食ひ觀音跡は野となれ山となれなのだから、幻滅迄心配して上げる必要はあるまい。まして秀才ならぬ末輩の洋服貧民が徒らに智識階級振りを鼻の先にぶらさげ、指導者顔をして喋々辯を弄しても其失敗はまのあたり、勞働運動を見よ。性的啓蒙運動に於ても又同様の結果に終るべき事は、態々實驗を俟たず共明瞭である。例へば山の山人種の新婦人が結婚前の身體検査を法律で要求しやうとしても、性病患者も承知の上で「内縁關係」を結ぶ「無知蒙昧」の無産者をいかにせん。此間の消息を既にサンガー女史は道破して曰く

『性教育が、傳統的月並道德と中流階級の御上品さを元として教へられ、現代に有力な獨斷説を基礎となし、愚民共に對して世にも有難い御恵みとして天降つて來るならば、斯様な性教育は時間と勞力の浪費である。又斯様な教育が、御上品な中流階級の理想道德と習慣をば、一の據るべき標準と押立てるのは、どう考へても不可能であり、よし提唱したとて社會の諸階級、特に勞働者階級を誘ふてアルシオア式藥物の樂

悪を強ひる事は出来ない。かゝる法は唯に人心を當惑させる許りでなく、骨折りとヒステリーと徳行の爲に不健全に熱中する事によつて積極的の害を生じる。青年男女に對して純潔さいふ消極的無味なる理想を御説法するのは、彼等の理知、責任感、自尊心、獨立心を目覺めしめんとする第一の義務をなほざりにするものである。此第一の義務が一度遂げられたならば、童貞純潔の問題は自ら解決がつく。「禮儀作法」を教ふる代りに衛生を説かねばならぬ。衛生的習慣は、肉體の要求と機能とに就ての確かな智識の上に建設される。主要でもない禁斷の戒や偏見を勝手氣儘に附け加へる事もなく、ひたすら公平な又著色のしてない事實を提供するのは必要なのだが、之をこわがるのは今の所性問題だけ、實際斯様な恐怖はゆわれぬ者なのである。J. SANGER, MARGARET (1922): The Pivot of Civilization. pp. 249-250. New York.

活動寫眞と啓蒙

此所に特に注意を要するのは、活動寫眞による性病豫防の宣傳である。之が種々の起り得べき場合を如實に描寫して強き感銘を生せしめる爲に、種々の劇的畫面を必要とする。然るに今日迄の衛生思想鼓吹劇・愛國心鼓吹國難宣傳フィルム等の御手並で見ると、到底民衆の美的趣味をも充す事の出来ぬ醜惡極まつた作り物位しか豫期する事は出来ない。して又之と反對に如實に描寫するのも巧みに過ぎ

て花柳情緒の幾分を髣髴たらしむる時に、性病豫防宣傳が却つて遊蕩獎勵の效果を生じはしまいかと恐れる。過ぎたるも及ばざるも共に斯く情操に訴ふるの法は危険が多いから、斯様な法は手つ取早い丈餘程の注意が必要である。此點に於ては活動狂の世界がコスモポリタンであり、又米國製の映畫の方が要所々々で聯想が充分活動しないから、ガンド頭に來る所も好加減に和らげられて、却つて好都合かも知れぬが、兎に角情操に訴ふるの策よりも先づ理知に訴ふる方が基礎が堅實であり、危険も少い事が確かだ、但し手つ取早く行かぬといふのが其缺點である。

一九二二年夏京阪地方に於て、特に醫師及び教育者に見せた獨逸製映畫の中、異常妊娠で帝王切開術によつて子宮から胎兒を取出すのは滞り無く映寫を許されたが、正常分娩のフィルムが却つて公開を妨げられた例がある。其理由は前者には陰門が現れて居ないが、後者には其が見えるからいけないといふので、常態現象を秘し變態を示すといふ面白い處置に出でた。

再び小學の性教育

前に多少共觸れた所(二二九頁參照)を大略摘まんで一括し、其上に尙若干の特殊問題を追加して見たい。

小學校に於て爲すべき仕事は、特に理科の時間に動植物學を述ぶる際受精成熟發生の全過程の概略を教へる事が大切で、之が其後思春期に與ふべき性教育の前提となる。一般に云へば、人間の生殖産兒行爲に就ては科學的に正確綿密な話を聞かす必要は無い、但し之は小供達が「何所より、如何にして」と問ふた時に答を避けてごまかせと申すのでなく、「童の時は語る所童の如く」に一種象徴的の表現法によつて明白に知らずに躊躇してはならぬ。順當の心的體的發達をして居る兒童ならば、それで満足して更に徹底した科學的追究を試みないのが通常であるが大勢の級の中には境遇や遺傳の關係上早熟な兒も居るから、教師を當惑せしめ驚倒させるを目的に、態と既に學び得て承知して居る事を故意に質問する者もあらう。斯様な場合不用意に其に釣込まれて其早熟者の好奇心を満足させたい誘惑か

ら、他の多數者を無益に唆り促がす様な事があつてはならぬ。其際には特に注意して教室内の注意を他に轉じ、時間後其兒をこわがらせぬやう充分注意しわざとらしくなく別室に導き、對座して其兒が何故に斯の如き事を知らんとするか、其特殊境遇を理解し得る丈の豫備智識を得た後、時宜によつては其異常兒に思春期以後の者と同様に、詳細正確な性智識を口授する事も必要である。(1)

(1) 著者の二男(滿七年、未就學)の獨言に曰く「パパの魂がマ、のおなかにこんで行つて、マ、の魂と一所になつて、それが大きくなつておなかでわかれて出たのが僕なのだけ」

(2) 特に淫蕩な環境に育つて大人の性交を實際目撃し或は猥談を傍聽して、既に教師よりも性的見聞豊富な兒が、教師の上品さを面食はせて痛快を感じる者も世に稀でない。併し之は特例であり、其爲に全級多數者を害してはならぬ。

(3) 斯様な異常兒に於ては、早くも自慰の習慣を體驗して居る者もよくあるから、方法をいふ事無く唯斯様な習慣に陥るは有害である事を、將來の脅嚇を誇張せずに穩に知らす事が必要な事もある。斯様な早熟性自慰者には態とらしい監視や訓戒威嚇を施す事無く、唯自然に注意を他に轉換せしむるやう、又自慰を行ふ機會を少からしめるやう、綿密な注意を加へねばならぬ。例へばポケット無きズボンを着用せしめ

又同居の餘裕を興へぬやうの注意である。

小學教育に現在行ふべき當面の問題は、教師自身が正しき性教育を受くる事である。既に詳述した通り現代日本に於ける性的無知は、所謂有識者中特に第三者の見て性學専門家とする醫師にさへ發見される位だから、無論小學教師も性的有識者でない。例へば、師範學校卒業後まだ問も無い二十才を越ゆる事僅かな男教師は、月經の名のみを知つて其が子宮腔粘膜の週期的剝離脱落に伴ふて血液粘液の混合分泌物が腔外に流出する現象とは全く知らず。たま／＼其一人が尋常六年の女生の擔任となり、或日一女生が教場で悲鳴をあげて昏倒せんとしたのに逢ひ、突然の出血の由來を知らずに唯外傷による出血と思ひ、青年教師は應急手當にウロ／＼する、少女自身は無知に基づく驚愕と羞恥に打たれて一層の苦悶をなすといふやうな出來事は、左程珍談にも屬せぬ話なのではないか。

(1) 某教師談「尋常六年の組を受持つ二三年に一度は必ず一例位月經初潮を見る事がある。」「健全な成年女子では、週期的に子宮に或變化が起る。其變化を分けて三期とする、第一期、子宮粘膜

は充血しやがて異常肥厚が起る。第二期、此粘膜が剝離脱落と共に毛細血管末梢の破裂を來し、從つて腔門より分泌物(血液、粘液及び子宮の表皮の剝離したものとの混合物)流出す、此流出量漸次減し乍ら通常四乃至五日間續く、總量百乃至二百瓦、斯様な現象を生理學上月經と云ひ、通常二十八日を隔て、起るが、妊娠受胎と共に之は起らぬ様になる。第三期、其迄の變化に興らなかつた子宮粘膜層の深部は再生して新しい子宮粘膜になる。山本宣造(一九二二)人生生物學講義大要△五〇頁。

『女子最初の月經に就ては、日本に於ても多數の調査あるも、最精細の統計的觀察を下せる山崎正董氏によれば、日本各地に於ける婦人月經初期の平均年齢左の如し。

- (一) 九州婦人(調査人員一五〇〇)平均年齢一四年一ヶ月二二日
 - (二) 中國婦人(調査人員五三八)平均年齢一四年一〇ヶ月
 - (三) 四國婦人(調査人員二五〇)平均年齢一四年九ヶ月
 - (四) 關東婦人(調査人員九八八)平均年齢一四年六ヶ月二六日
 - (五) アイヌ婦人(調査人員八〇)平均年齢一五年二ヶ月二二日
 - (六) 琉球婦人(調査人員一八四)平均年齢一六年二七日
 - (七) 臺灣及支那婦人(調査人員一三五)平均年齢一六年七ヶ月二三日
- 之を要するに、關東婦人は最も早く初經し、四國及び中國婦人次に次ぎ、九州婦人は最も遅れて初經す今關東、中國、四國及九州婦人の平均初經年月を、アイヌ、琉球及支那婦人のそれに比較するに、アイヌ

婦人の平均初經年月は日本婦人のそれに比して大なる差違を認めずと雖も、琉球及臺灣婦人の初經年月は一般日本婦人のそれに比して晚く初發する事を知るべし。

山崎氏は之等の多數統計よりして興味ある事實を發見せり。即以上の事實は、氣候温暖なればなる程月經は早く初經すべしと云ふ既定の論據に相反するを見る。勿論氣候は月經初期の年月に多少の關係を及ぼすや明かなれども、月經初發は氣候よりも寧ろ社會的刺戟の多少、即換言すれば、人文發達の如何に關係する事大なるものなりと。笠原道夫(一九一七)青春期ニ就テ、並ビニ青年期ニ來ル二三特殊ノ疾病。京都醫學會雜誌第十卷第四號一〇八頁。

詳細な對月經策は參考論文 頁を見よ。

斯様な事もあるから、女生相手の理科教授の時いつかは起る月經の現象の始終を述べ其突發的出血が別に驚き恐れる必要の無いものである事を教へて置くのは決して早計であるまい。但し教授者が未婚の青年教師であると、時として自ら興奮の餘り無益の不安を惹起す程に餘計な事も云ひ兼ねないから、なるべくは妙齡の娘を有し經驗も理解もある老巧の男教師が冷靜に客觀的に述べる事が望ましい、具體的引例を誤用して「誰さんの陰門」「彼さんの膺出血」といふ風の聯想を起さ

せぬ様特に普遍的抽象的形式で述べる事にすれば、特にこわい閻魔面を裝はずに又互に赤面せずに其話は出来る。之に當るは仔細あつて(二〇四頁參照)女教師は宜しくない、人望信認ある「校長先生」が大抵の場合に適任であらう。

自慰に關しては前述の通り(二六九頁參照)は、早熟性異常兒に個人的特殊取扱(脅迫威嚇を伴はずに真相の明示、併せて習慣脱却の可能を暗示する催眠術的療法)をなす外、兒童一般を一括して對象とする時には、絶對一言も言及する必要は無い。餘計な威嚇恐迫は却つて斯様な享樂法の存在を教へる事になり、有害無益である。但し此少年時代に於て、少女が膺炎衝の爲に起つた痒感の爲陰核玩弄を試みるに至るとか、少年が欄干に跨がり戯れつゝ快感を發見するとか、或は陰莖の包皮垢脂(*Smegma praecipitale*)の存在に好奇心を起して陰莖玩弄の弊風を得るとか、種々外來の要件の爲に誰に教へらるゝ無く自慰を發明する事があるから、教師たる者はあらゆる注意を諸方面に拂ひ、兒童の服裝遊戯體操等に關して種々

起り得べき場合を考へ、望ましからぬ要件を未然に除かねばならぬ。所々に於て色々新工風を凝して試みられる體操着や猿股や改良服の如きも、此點に就て充分の考慮を要するにも係らず、實狀の大概は一向之に無頓著なものも嘆かほしい事である。

自慰の問題に就て新しく且正しい見解はHIRSCHELD, MAGNUS (1917): Sexualpathologie, I. Teil, Geschlechtliche Entwicklungsstörungen mit besonderer Berücksichtigung der Onanie, Bonn
即「性的病理學、第一卷、特に自慰に關する性的發育阻害」といふ題の本がいゝ。醫師ばかりでなく小中學教師必讀の書だから、他日機を得、〇〇無しの無省略全譯出版の便法(例へば會員組織の非賣品印刷物等)が出来れば、我々も譯してお目に掛けたい希望である。

身體の清潔を保たしむるに必要な智識を與ふるに當り、過度の清潔を要求して自己所有の性的器官に對して過度の注意と好奇心を集中せしむるも不可、又放任に失し不潔の爲に起る機械的及び化學的刺戟を誘發するも亦不可、要は母と教師とが互に密に聯絡して兒童の衛生に必要な所置を執る事が必要である。

其他、男子の遺精に關しては之又全體として言及の必要を認めない、其理由は一般に未だ其が起らないからである。

青年男教師と女生接近によつて起る問題

之は必ずしも小學上級女生の事だけでなく、女學校一般に就て最もデリケートな問題であり、單に女生男教師許りで無く、校長 學校監督官・警察官・父兄の必ず理解を要する種々の複雑な事實があり、充分の研究と慎重な所置と綿密な配慮を要するにも係らず、從來無知と邪惟と輕卒な臆斷と『常識』的概念的取扱ひの爲に、幾多の憐むべき犠牲者は空しく涙を吞みつゝ、或は自暴自棄の中に陥り、或は極端な侮辱の爲に貴い一命をも棄てた者さへある。

予が加奈陀の中學校で經驗した男女共學の間に於ても級中で誰と彼とが似合ひの一對だと軽い戲言などを屢々耳にして、アングロサクソン式の潔癖の中にも矢張人間共通のおせつかいな世話焼氣分がある事を見たが、一體現代日本では筒井

筒振分髪の時代から早くも誰と誰とが大仲よしの相合傘がある位だから、まして少しく年長けた男女の接近を見た世人は、早速に其『御兩人』を色眼鏡でデロ／＼観察するに躊躇しない。又時としては世間のワイ／＼騒ぎが暗示として働いて、噂が眞實に化する事も少くない。所で一方従來の形式至上の壓迫教育では『教師トハ骨ト皮トニテ造リ、忠君愛國ヲ鼓吹スルニ用フル機械ナリ』位の考へで『權威ある教育者』を作らうと試み、世人も其積りで居たから、近來に及んで其『骨と皮』との外に血も肉も涙も具へた青年教育者が續々現れ、中には早わかりする『ラヴ・イズ・ベスト』位の手輕な戀愛至上主義に心酔する人もある。其所で教育關係の上司ばかりでなく、世間一般が其『忠君愛國鼓吹器械の戀愛至上主義化』にびつくりし、『無冠の帝王』であり且又筆の上丈では極端に性的に潔癖である新聞迄が『咄々怪事』など、特筆大書する色々の事件が突發した。

教師も世間に多い事だから、中に眞の咄々怪事を演じた惡教師のもあらう。併

し乍ら或一教師が不良であつたとて、教師全部が其汚名を引受けて恐縮し、不絶疑ひの眼で公衆の監視を受けなければならぬといふ法があるか。或は警官の無禮なる嫌疑のと世間のゆわれぬ侮辱を蒙つても、泣寝入しなければならぬ程『權威ある教育者』の權威は地に墜ちたのであるか。予は實狀を知らぬから何も回答は與へられないが、唯斯様な疑念と非難との存在に關して、性學上特に考量を要する二三の問題を論じて當事者のみならず大衆一般の注意を促したいと思ふ。

(1) 一九二二年晩秋、長崎縣某村小學校訓導某は、女生數十名を順次に校内で凌辱した事實が發覺したので、早速逐電した。

(2) 一九二〇年の頃大阪府下北部農村の小學校で、一女生が一訓導の爲に強ひられて童貞を失ふた事へ出たので、警官は早速其訓導を拘引取調べに及んだ所、凌辱は虚偽の申立てと判明したが、年を隔て次の年にも所をかへて同様の事件が起り、同様の結末になつたので、土地の教員會は憤慨の揚句警察官の常識を疑ひ其反省謝罪を要求する旨決議したとやら。其決議の威力を叩き付けた後の効果に就ては、別段予は信すべき後報を有しない。

凌辱の誣告

「凌辱及び猥褻行為の告訴に就ては、告發が終に却下に終る例程有觸れたのは他にない。フランスでは告發の六割乃至八割は取調べ以前に或は又取調べ後に及んで事實無根と認められて居る。現今の大家すべてに聞いて見よ、上の如き罪名を荷した事件の大概は皆否定的斷案に達する事を、彼等は口を揃へて云ふのだ。予の實地の經驗に關してもいつもさうであつたと斷言するに予は躊躇する者でない。

そしてこんな事がフランス許りに特有の事だと思ふてはいけない。TAYLORの言に據れば、英國の法廷に提出される凌辱の眞の訴一に對して十二の誣告がある割である。若しどこでもかうであり、若し誣告の方が眞の犯罪よりもすつと數が多いならば、それは或一の是非共存存在しなければならぬ且又何所でもない所はないもの、即或一の心理學的法則に此誣告といふ現象が従ふからなのである。此虚偽の訴は色々あつて興味深い、此からくりを知る爲には、まづ少女のと大人のを區別して研究せねばならぬ。」

THOINOT, L. (1920): *Medicolegal Aspects of Moral Offenses*. (Engl. transl.) p. 223.

佛蘭西の法醫學大家トアノーは巴里大學教授として、セーヌ裁判所指定鑑定人として得た豊富な經驗を基礎として、前の様に書き始めた章の大要を紹介したい。少女に於ける凌辱誣告を大別して三類に分ける。(甲)誹謗中傷の目的を以て故意に誣告を試みる場合、此時は少女の親又は兄弟が他人より脅喝取財を試み又は

他人に復讐する爲中傷誣語を試みんとして、少女に起り易き陰門炎の症狀を利用し又は故らに外傷を作りて假想的犯罪の證據にする。此時は少女に就て綿密な取調べで眞相はやがて判明する。(乙)保護者たる告訴者は善意であるが告訴其ものは全く虚偽であり、少女自身は中ば能働中ば受働である場合、之は母等の早合點から通常の陰門炎を被凌辱の結果と思ひ込み、勝手な臆測をまづ告訴者の心中に作つてからかうであつたらうと反復少女を糺問した揚句、之が示唆として少女自身もさう思ふ様になる。以上二類では本人は丸切り能働か又半ば受働である。(丙)告發の内容が全く少女自身の工風發明である場合、誣告の働機は被告に對する復讐心とか或は學校歸途に道草を食つて歸宅のおくれた時の一時逃れとか或は小説の讀みすぎで其主人公になつたやうな幻想を抱くに至つたとかである。

成年女子に於ける凌辱誣告の諸例を其働機に従ふて分類すれば、二類になる。甲、極有觸れた働機による虚偽の訴、通常は復讐の爲とか又は得心づくで妊娠に

至つた娘が一時逃れのうそなどで、極月並のうそが其原因である。乙、告發者がヒステリー患者である場合、之は前のよりも遙に頻繁に起るもので、此時の事の起りである嘘が有意識(A)か無意識(B)かであるに従ふて、更に二類に分かれる。A、JANETの語を借れば、ヒステリーの募つた時良心の活動區域が狭ばめられ特に『活劇中の中心人物』となりたがる熱情が生じ、其活劇を凌辱ときめて一場の光景を思ひ付く。之が随分起る例である。B、ヒステリー患者の幻覺より來る無意識の嘘で、今日の語で云へば癡呆症早期の強迫觀念によるものも之の中に入る。

用心 第一

扱斯様な現象が人間社會の何所にも現れるといふのであるから、うつかり火の無い所に煙は立、ぬなど、無雜作に判断を下せぬのは明瞭である。今一事件をとつて、其が或階級の或状態に共通な普通な事件の一標本であるか、それ共實際のは

稀有極端な一特例であるかは、尙一應の詮索を必要とする。珍しい新聞種に鶴の眼鷹の眼である低級新聞記者も、何か奇抜な犯罪事件をはせくり出して自分の手柄にし且又警察の威力を示したい警部巡查でも、まづ珍聞と興奮する前に眉毛に唾をつけて見ないと、穩健着實などいふ英國でさへ十二に一つしか本統の事はないのだから(萬八や千三つや百三よりは多いが)、飛んでもない失敗をする事になる。學校監督官でも自分が親しく教鞭をとつた經驗があればそんな事はチャンとして居る筈だが、高文丈をバヌした丈が能の、法律家の中には斯様な事も初耳の人があるらしいから、新聞記者や巡查並に此點に御注意あらまほし、無論親馬鹿と世に云はれる親達に於てもまづ騒ぐ前にまてしばしと落著く事が肝腎、終りに臨んで教育當事者に對しては李下の冠、瓜田の履吳々も御自重を願ふとは、態々申添へる必要も無い程の事である。

青年氣鋭の戀愛至上主義者に對して

屢々新聞の各地だよりを賑はすのは、『某校に於て男教員某と女教員某とが戀に陥り、校長の説諭を受けたる所兩名は却つて「自由戀愛の神聖」を主張し、併せて兒童に對して性教育の必要を高唱せし爲、父兄の物議を醸し目下紛紜中なる由』といふ報道である。此様な事件が、單性的な中學校より、或は男女共教でも互に兩性鬭争意識の著しく鮮明な女學校より聞かされぬ所から見れば、青春潑漑たる意氣を有する男女が共教をなす小學校に於ける特有問題と解してよい。それらの報道の真相はどうか、畏友新聞記者N氏の語を借れば、『新聞記事とは「それらしい事があつたらしい」位の程度の報告である』さうだから、何とも早まつた判断を早速下せぬが、兎も角自由戀愛と性教育とが話題に上つた事が確かである。

由來筆者は、教育者たる必要條件とは先づ第一に人間である事だと信じて居る人たる以上自由戀愛の行ふは、其に對する相互の責任の充分は自覺がある場合に於て、至極當然であり又人生のうるはしい花である。併し乍ら其場合に序で乍

ら引摺り出される性教育といふ語は如何にも迷惑に感じはしまいか。私見によれば、予の云ふ所の狹義の性教育は小學校では無用である。其故によし文學青年たる其御兩人が『身も魂も鑠かしつべき白熱の戀』に現在酔ふて居られるにしても其は當人同志の趣味の問題であり、斯様な戀愛葛藤は學童と結び付くべき事柄でない。我々の子供達が學校へ行つて授業の相間に先生達からセンチメンタルな甘い告白を聞かされて何事やらわからずに面食らふ様な事が、若しあるとしたら頗る不都合であらう、非常識千萬の事であらう。此場合父兄側から小言が出ても其は當然の事なのだ。之は全然假想的に考へて見た丈であるが、併し若し其二人が『無理解な因襲の壓迫』に激して、斯様な虚偽々善に反抗する爲に『戀愛教育』の必要を唱へたのならば、其には予も幾分賛同する。

(1) 山本宣治(一九二二)「結婚、三角關係、離婚」改造新年號、參照。

戀愛教育といふ語は少し語弊があるが、教育者振りの語を用ふれば『高雅なる

情操を涵養し』と申すべき事に近い。ブルジョア特有の「高雅」である必要は決してないが、物の哀れをわきまへるものゝ心の養ふ事だ、即ち國定教科書を充して居る所謂忠君愛國鼓吹の勿體無い歌は申すも恐れ多い、其外貯金や節約のおすゝめから名所國づくしといふ様な實利的のものはお斷りといふ氣分から出た要求を充し得るものゝ事である。

予は加奈陀の小學の上級でLONGFELLOWのEvangelineを讀まされて、「高雅にしてセンチメンタルなる情操」を涵養した揚句卒業して墮落し、SCOTTのLay of the Last Minstrel & Ivanhoeを讀まされては、東西變らぬ美人勇士の物語に「古典的趣味」を抱いたが、之も亦終にスコットの古典趣味を超越するに至つた。誰でも斯様に墮落超越する者とは限らぬから、我大和の言靈の幸はふ國ではスコットの代りに馬琴（近松は淫靡だと忌避するなら）、ロングフェローの代りに紅葉露伴又は蘆花（之も古今集伊勢物語は古い上に怪しからぬならば）位小學校でわからぬな

りに讀ませるがいゝ。英米でも物の哀れもまだロクにわからぬ小學生は、唯何かなしに棒讀さゝれて居るのだ、我國でも小供は百人一首を暗記して居るではないか。即ち斯様な意味から申せば、將來年長けて後眞に『神聖なる戀愛』を味ひ得る準備基礎としての情操教育は、今日の散文的實利的なる小學校に於ては極端に無視されて居る。之を改善せよといふ意味ならば、予も双手を揚げて青年教育者諸君に賛成する。併し乍ら之は予の所謂性教育とは全く別問題である、して又文藝界の目眩しい流行を追ふて濫造される新熟語や新傾向に對して、我々の子供達を精通させたいと、態々お忙しい間に骨折つて戴く必要もないのである。要する所此一項は、教師が現在味はふて痛切と感じ或は習ふて必要であることが、必ずしも現在の學童にとつて痛切必要なものとは限らない、といふ一句に歸結する譯である。

輕薄空虛なる宣傳慾に對する親の抗議

前にも述べた通り（二五二頁参照）現代の各方面に於て、實狀は其日逃れのごまかし細工許りの癖に、上邊許り何やら事新しさうな看版を押立て、同じ穴の貉に賑々しく大鼓を叩かせ、此看版と鳴物を種に自身一個の榮達昇進を圖らうとする至極こすい官僚共の所謂新事業が、そここゝにゴロ／＼轉がつて居る。よし結構な事業でも前任者の施設を踏襲するのは縁の下の力持ちで氣の利かぬ上に他日の榮轉には何の役にも立／＼ぬから、其所宜しく葬る事にする。要するに國家社會民衆を食ひ物にして利己の私慾を恣にしやうとする虎狼の仕わざが、申すも遺憾の事乍ら、至る所に其首尾を遠慮無く曝露して居る。

扱教育界に此風潮が入込んで來ては居ないか、教育雜誌によく報告される新主義の教育や教授法の或ものは此種の敵本主義の宣傳ではないか、自校を模範校とする爲に病兒を鞭撻して學校に狩り集めて、病勢を募らせる様な非常識學校はないか。自己の推獎や叙位叙勳をめあてに、官僚の末輩を恐れ多くも最高貴顯待遇

で、奉迎奉送の旗を小供達に振らせる様な大鼓持校長は居ないか。

なければ結構、我日本の國家に對して至極頂上、自他共に御同慶に堪へぬ次第決して憂慮に堪へぬ様な事がないから安心である。

併し乍らそれ程に念入りの宣傳でなく共、時によると忠臣藏の芝居などをさせて見やうなど、目論見をつける人も間々ある様だから、其調子で宣傳隨一で性教育實施など、珍し物好きの世人を騒がせぬやう、前以て斷つておく。幸か不幸か「性教育は必要」と到る所で叫ばれて居るが、其の實行は一寸氣まぐれの物すきでは出來ず、且又上司の忌諱に觸れ敵首の危険を伴ふ爲か、唯今迄餘り教育者の著手を見なかつたが、あの六ヶしい相對律が俄に歡迎されるに至つた所を見れば、教育界の風潮が激變して、新し物すきの連中がワイ／＼と向ふ見ずに騒ぎ出さぬとも限らぬから、親達の方でも警戒が肝要である。

終りに小學教師諸君に

小學教育に關して暗黒面を摘發する事が多過ぎて、或は當事者の反感を招いたかも知れぬが、現状の批判は其事業の重大なるに應じて一層真剣でなければならぬ。曲學阿官及び阿世の賣笑批評では文化の向上は到底望み得られない。『おろの水鏡』に我姿に見とれるのは、青春期の初期に起る「自己戀慕症」Narcissismusで吾人の文化の青春期に起る自惚れ根性も青年のそれに匹敵する。我等が其境遇を卒業し超越し脱却しなければ、永久に文化的成人の發育阻害が起るのだ。之を避け防ぐ爲には、よし一時或一部の人の感情を害しても、自重心を傷つけても、仕方がない。予の所論が卓上の空論に過ぎて體驗によつて裏書されて居ないと思ふ人があるならば、宜しく其具體的體驗を述べて予の誤謬を正して戴きたいものである。

第三章 女に對する性教育

序 論

此問題を取扱ふには性學書を繙いて女性心理を研究するのも一法であるが、併し斯様な卓上研究による思索を更に充實させ、其判断の妥當性を加へる爲に、實際婦人の常態生活の唯中に入つて前の思索判断をば經驗によつて更に裏書しなければならぬ。然るに論者自身は母と妻と二人の幼い女兒と若干の従姉妹と少數の異性の友人との交渉の外に、廣く女性一般の生活をトすべき體驗を有しない。少く共之を論ずる前には、數年間女學校にでも出掛けて青年婦人を親しく觀察する機會を得たいと思ふて居るが、學事多忙にして斯様な副業に迄携はるべき時を有しない。比較的暇のあつた頃には二三の機會もないではなかつたが、青年無名の生物學研究者たる事が却つて此希望の實現を妨ぐる事になり、其まゝ今日に至つ

た。其間に對男子の講演に侵入して來た少數女性の爲に諸種有益な教示を受けた事もあり、近くは大阪朝日新聞社の聘に應じて其社の婦人文化講座に「戀愛の生物學的基礎」を講ずる事となり、此企等によつて聽講者から教訓を得たいと思ふて居る。

斯様の次第であるから、特に此章の所論は純なる机上の空論である。併し乍ら世の所謂婦人教育の大家を以て遇せらるゝ人々が、餘りに婦人に包圍せらるゝ事多きに過ぎたる爲、或は男性の二次的性的特徴を失ふて眞に婦人に近き迄同化され終りて女性的物越しを具へ過度に慇懃鄭重な人々もあり、或は女性の弱點に精通し過ぎて操縦の技巧入神の妙に達し、他をして婦人に態と媚を呈して居るのではないかと思はせる程の人々も見受けるのであるから、却つて其「盧山の中にあつて盧山を知らぬ」方々よりも、予の如き局外者のポット出の無禮者の説のが先入に煩はされぬ點に於て或は何かの取柄があるのでないかと聊か押賣がましく、

机上の空論を承知の上で次に述べて見たい。

無風地帯内の體驗至上論

從來日本の中流社會では保護者が嚴に監督を加へて處女を守り、慎重行動の上まづ無難に彼女を夫に渡しホツと一息つくといふ事も大體に於て可能であつたら、夫を通して始めて異性を知り、子を産んで後始めて分娩の生理の幾分を體得して、特に別段の性教育もいらなかつた。といふ論據で「内の娘に限つて心配はありませんから、そんな性教育なぞいやらしいものは……」と抗議を試みる父兄も現在ない其限らぬ。此點に於て兎角結婚前に盲動を試み易い青年男子とは異り、天性受働的でしかも充分の保護を受ける處女に對しては、性教育は全然無用だといふブルジョア論理も其階級に於て時としては成立しぬ事もない。

併し乍ら之も夫たるべき男が純良無垢の青年であり、且又結婚生活に對する充分の理解（一〇三頁参照）を具へて居る場合に於てのみ可能で、若し彼が過去の

秘密活動の價たる性病々原體を體内に潜めて居たり、或は又女特有の性的危機に全然無理解で妊婦の一次的ヒステリーに對抗してむか腹たてる程の性的無識者である時には、體驗を以て性智識を獲得する前に早くも無知の報ひとして取返し出來ぬ痛烈な痛手を負ふ事になる。

良家の子女に對して斯様な心配は杞憂だといふ人があるならば、今日世に行はるゝ婦人雜誌の小説と告白とに性病關係の記事の多いのを見て、何とか考へ直す必要が生じるに相違ない。階級意識などといふ人造物には一向頓著せぬ性病々原體は、貴族賤民の差別なくどこへでも極めてデモクラチックにもぐり込むから、多くの女學生が寫眞畫報の新郎新婦を見て夢想する通り、よし貴族や外交官に嫁入るとしても安心は出來ない。其上に斯様な夢想が悉く實現されるのではないから、一般女學生にとつて、今日の世の中に斯様なブルジョア式お上品な隠蔽主義は、男學生に於けると同様に、有害無益なのである。

貞淑な婦人の抗議

所で斯様に女自身の爲を思ふて性教育に取掛るとしても其取材の如何によつて被教育者から抗議が出る場合がある。例へば予の聽講者の中で一人の既婚にして未子をもたぬ基督教信者の小學校女教師の曰く、

「私は結婚して始めて、男といふ者がいかに肉的に女を見て居るかに驚かされました。先生の講義によつて、男子の大多数が自慰をか稱する事を青年期に於てなすといふ事を聞いて、非常に驚きました。男子はさうした動物性の生理的に強い者である事を知つた私は、男子に對する憎惡の念が込み上つてきました。私は男子を神聖な者に見る事ができなくなりました。

勞働者の如き最も精神生活の低い者による實證又は統計の如きは應答者の首肯し能はぬ所でありませぬ。」

此人がいふ所の統計とは、前出(五九頁及第一圖參照)のものをいふので、其が獨逸の大學生に就て觀察研究されたといふ事を看過して居る。客觀的な自己分拆と忌憚無く又誇張の無い告白は、餘程高等の教育を受けた俊才か其に相當する人でなくば出來るものでないといふ事實を知り得たのは、筆者でも研究著手後餘程

經た後の事である。扱其感想はまだ續く。

「先生、私は未婚の女子の純潔さを信じます。結婚して後性智識を得るも遅くはございませぬ。ゴッぞ神聖な娘さん達にさういふ智識を與へないで下さいませ。唯結婚に對する確固たる見識と理想とを與へられ、苟くも自己を誤る事無き高き人格を養成されん事を」

此人の所感は實に同情に價ひするものであり、又此時の講義（京都市第四教員聯合會）の聴衆が主として既婚の男子であり、特に要求あれば既婚の女子の傍聴を許して、極直截な科學講演をといふ注文であつたから、少數婦人には態と斷つて何も手加減せず話した時の事で、驚いた人も無理は無い。

苦い藥はオブラートの厄介

其所で前述の理由から性教育に取掛らうとしても、實際「神聖な娘さん達の爲に」そんな事を知らして呉るなど、涙を流さん許りに縋りつかれるのに、無下に振切つてそれでも是非に及ばぬと、求めもせぬ人を集めて無理槍に吞込ませていゝものか。斯く婦人側の要求も無いのに強制的啓蒙を行ふのは「處女の貞淑を傷つける」のだから、怪しからんと抗議も出さうだ。

併し乍ら其「處女の貞淑」を重んじて、無知の樂觀の上に築き上げた空中樓閣の夢をさまざまに放棄しておけば、其在來の良妻賢母教育のまゝで色々の家庭悲劇の續出は依然として變らぬ。其がイヤなら、心的追究による幻滅も時によつてはやむを得ない、物的體驗の後の悲惨な幻滅よりもまだから、丁度苦い藥を子供に吞ます時にオブラートに包んで飲ます醫師の慈悲で、是非共予は性教育は行はねばならぬと確言する。

或は「女性の否」か

扱斯様な或種の性教育を忌避する事は若い女性に一般的であるか。成程不良老年共が集まつて若い娘の前で態と底拔の猥談を試みる様なケド風行動に類する性教育ならば、娘達の抗議も無理は無い。併し婦人の心理をも相當に重んじた正しい性教育に對して舊時代に育つた母親達の當推量や取越苦勞は別とし、今代の娘達が悉く前に感想を述べた女教師某女史の如くに、基督教式感傷主義と潔癖とを所

有して居るか。他の方面より見ての予は大いに疑はざるを得ない。

(1) 京都の或優秀な女學校の生徒が丸善店頭に来て熱心に漁つて居る書が多くが、當世流行の性研究書であるとの、店員の觀察。

性教育の試みの最初に於て求る激動は、男學生に於てもやむを得ない（前出九六頁）のだから、女學生に於ても少々のゴタ／＼は免れぬ。併し此際に『女性の否』（Weibliche Nein）といふ事もあるから、少々其邊を翻譯割引する必要があるかも知れぬ。

(1) 一九二二年十二月長野縣飯田高等女學校の補習科生は某教諭の性教育に憤慨し、同盟休校を行ひ、父兄も同意し、種々前後策を講ずる所があつた由。

婦人教育實際家の意見

一般に基督教一流の理想を抱く人は、自己の心境に引比べて、他の心理に推測を試みて、自分ぎめの人道主義を押し売りせんとする傾向がある。斯様な人々に聞けば、純潔な處女の氣持をひたすら尊ばねばならぬと、さきの女教師と同じく主張するが、扱事實はどうか、之を當事者に訊して見れば

張するが、扱事實はどうか、之を當事者に訊して見れば

『予の経験に據れば、女學生は案外此種の問題に對する時、態度胸あり』理學士立田鐵二氏私信。

『女學生に對する性教育講義の論調及び題材は男學生に對すると同様にて可なり。』奈良女高師教授高橋章臣氏私信。

女學生心理に就て殊更いたはる必要を主唱する人々が教育の實際に没交渉な人に多く、他面實際家が斯く觀察する所と比較すれば、予は此方を正しと解する者である。殊に女學生が同年配の男生よりも遙に性的早熟であり又世事に就て眞剣な觀察を止むなくさゝれて居り、又女性全體として保守に過ぎても一度覺悟の臍を定めた上は男を驚かす事もあるのだから、唯花に戯る蝶の如き脆くも亦うるはしい娘心の上面のみを見て、其底にある女性固有の堅固な意志をも見逃す事は不當であるまいか。

過激性急と見做さるゝ予個人の辯解

扱子が前に所々に教を乞ふて、對女學生性教育の題材及び論調をば對男生のそ

れに多少の變更を加ふる事の必要有無を訊した。所が其當時の簡單な「性教育私見」のまゝで予が早速性教育を試みやうとしてゐるかの如く、解された方もあり、次の如き苦言を受けて予は大に恐縮した。

「題材は同一にて可、但し論調を婉曲にせざれば處女の夢を破る事大にして、世は餘りに痛々しからん即痛烈なる婉曲さを以て徐々に會得せしむべし。」理學士森下齋氏私信。

「殊に餘臺の急進的性教育を其まゝ、感情強き處女に授くるは宜しからずと思惟す。」理學士妹尾秀實氏私信。

「丘博士の生物學講話の様に少し皮肉が過ぎてあてこすられた様にて不快なるべし。」岸田久吉氏私信。
「消極的性愛のつゝ、まじやかを維持し、神秘的母性を發達せしむる爲に、辛辣なる批評的論調に稍圓味を帯びしむ事望ましからずや。」法學士淺野惠二氏私信。

いづれも御説の通りであり。之は予個人の問題であるが、不肖筆者一指を性研究に染めた以上兩性の性心理の別を辨へぬ程無責任でもなく、又殊更に辛辣な材料を按配し無用に若い娘心を苦しめたいといふ程變態性サド風衝動を持有す様にうまれついて居ない事を、此機會に於て畏友諸兄の前に告白しておきたい。

未婚婦人に對する性教育の教師

對婦人の性教育は、彼女達が異性の現實に多少なり共體驗を得たか否かに従ふて二大別する必要ありと予は信ずる。換言すれば、ざつと既婚未婚といふ二部類に對象を大別して、別々の方策を建てねばならぬ。

今第一に未婚婦人に對する性教育の主なるもの、即女學校の性教育を考へて見るに、之は無論前述の如く無益に小鳥の如き娘達をビツクリさせぬ様に充分の手加減の必要がある事は、次の説の通り。

「女學生に對しては、女教師をして性智識を授けしむる事が是非共必要です。次に女子に對して餘り直接的露骨でないがよいでせう、但し急進的たるを妨げないでせう。」帆足理一耶氏私信。

「若き女性のローマンチズムを害ふべからず。予は性教育と共に、否より以上に戀愛教育の必要を思ふ。」高橋元一耶氏私信。

「女子に對しては急進的ではいきまします。優生學の智識をウンと注入する必要がある。女子が此方面にめざむれば、女子はパツシヤなる故、男子の盲動を制限する上に於て大効あるものと思ひます。」山田種三郎氏私信。

態度に就ては、斯くの如く兩性々心理の差ある點に基づいて、男學生に對する如き矢庭に突貫し度膽を抜かんとする方針は不可である。

して又其教師たるべき人は「原則として」或は「理想として」矢張女性でありたいと欲するのは、予も次の論者と同感である。

『女の先生で生徒の信望を集めて居るといふ様な人から云ふて貰ふたのだつたら、必ず益の多いだらう。女の方が男よりも此點では危険が少ない。』小野俊一氏私信。

理想的な女教師が必要な丈あるか

所で理想と原則の上から申せば、此通りの要件、即他の生物學大家の言を借りるならば

『講演者は、常規の結婚をなし子供をも有する婦人にして、特に性教育を研究せる人を撰ぶべき事』理學博士谷津直秀氏私信。

である。

併し乍ら、現代の日本の教育界といふ此現實に就て、相當の年輩の女教師で(一)

體驗と理解とを充分に具へて (二) 特別に性教育を研究した (三) 人をば、實際求めて得る事が可能であるかといふ實行上の問題になる。成程いかに悲觀に陥つても現代の日本に此三要件を完備した人が皆無だとは云はさない。けれ共之が全國四百有餘の高等女學校に就て、各一人宛の適任者を得る事が、今早速大規模に講習をしたとて、五年さきに十年さきに得られるものか、篤と落付いて考へて見なく共所謂常識でわかる話である。

成程眞の良妻賢母であり「熱烈な信仰」と「高い人格」と「純潔な熱情」等を具へて居る人は少くない、併し乍ら此際人格と熱情とがあつても、第三の要件たる性智識の充實がなかつたら、却つて其教師の熱誠と努力と信仰とが種々有害な結果を生ずる様になる(前出六五頁以下参照)

女性特有の直覺的判斷

一體我日本の女性とのみ云はず、一般に人類の女性が斯様な性といふ様な漠然

たる問題に對して下す所の理知的判斷はどうかであらう。

『女は、個人的觀察を基礎として直覺的に普遍的眞理を發見し、抽象的理論を迅速明瞭に躊躇せず或具的の例に適用しやうとする。之が女の無意識的即直覺的判斷である。』JOHN STUART MILL

斯様な天性が、世にも稀な勝ぐれた女によつて表現されたならば、我等の世界は ELLEN KEY と MARGARET SANGER と 與謝野品子 との中に人類の恩恵を發見する事が出来る。

併し乍ら、一方此天性が失戀に醫やすべからぬ痛手を負ふた老嬢の教師の中に或は不良青年に弄ばされた末の淪落の女に、或は放蕩無頼の夫を脊負ひ込んだ憐れな妻の中に、遺憾無く表現されるならば、其は彼女達に對して頗る同情すべき事であるけれ共、人類は彼女達の「女性特有の無意識的即直覺的判斷」の爲に多くの誤謬と煩累と害惡とを引受けねばならぬ。

現代日本の教育界に於てお上のおんおぼえめでたき「老練なる模範女教師」の或者が、若し斯様な問題に携はる事となつたら、予は斯く單に卓上の空論に於て

憂ひた事が杞憂に終らぬかも知れぬ。希くは其が杞憂であつてほしいものである

現實を見せつけられた時の恐怖

更に兩性々心理から考ふべき女教師問題の一面がある。

一體子自身の體驗した性的啓蒙運動の經驗の中に於ても、宣傳者の傳へた智識が聞く人の性的經驗に適切であり正鵠を射れば射る程、其聞く人が何だか天眼通の前にモデルとして立ゝされて、穴の明く程觀察された様な頗る薄氣味悪い感じが湧くものと見え、無暗に尻込みする様な人も随分多い。予の同學安田徳太郎君も性學論文を著はす事によつての若干の友人から見離され、又文人連より「永久に神聖な藝術品」の種明しする危険人物と見做され、或は又其他々々のエピソードを有して居る。其等の現象は、即疵もつ脛の痛みで、きやつは俺をモデルにしやがつたなどいふ一種の恐怖であるが、何も實際其程我々に天眼通の通力が具はつて居る譯でなく、唯横に列ぶ蟹文字を縦な角文字に列べかへた丈の仕事で、東西人情にか

わりなく貴賤賢愚共に變らぬ色の道といふ普遍的事實を證明したに過ぎない。

(1) 安田徳太郎(一九二二)「サド風とマゾホ風」改造十二月號。同(一九二三)「いびつな愛する心」改造三月號。

同性間の反撥現象

扱此様な現象が女教師の性教育にも起つて来る。教師が女であり同じ生ひ立ちを経て来た丈あつて、彼女の講義が緻密婉曲な女性心理の妙を得て居る爲に、却つて女生徒の反感を唆り教育の効果を殺ぐやうな様な事はないか。頗る研究を要する點で、作業能率の上から見て却つて大マカなそしてどこから抜けた所のある男教師の講義の方が効果が意外に多いかも知れぬ。

殊に極端に不都合な場合があるとして、嫉妬心に富んだイコチな女教師が氣分のいら／＼した月經時に強ひて講義を試みる様な事があつたとすれば(そんな馬鹿な事は到底ありさうに思へぬ共)、却つて同性である爲に理解があり過ぎて

互に痛い所をつゝきあふて快感を貪るサド風現象が生じて来る。殊に若い美しい生き／＼した娘達を相手にした女教師の「惜め共返らぬ春にあこがれる」氣持にも、ちと同情を必要とするであらう。

極端な實例、某女學校出身者の縁談が其出身校に問ひ合はせなると、不思議にも悉く破談になる。妙に思ふた卒業生が其原因を調べて見ると、會監某女史が一々其問ひに應じて全然無根の悪評を書き送つた事が判明した。

啓蒙はどぶさら／＼、藪掃除

抑々啓蒙運動なるものは、予の短い體驗に據れば、決してお姫様が振袖姿で出て来る様な上品な仕事でない、又モーニング、コートを着て講壇に登り、それから自動車で宿へ歸つてお鬚の塵を拂ふて貰ふて脂下る様なヤニコイ事業でもない。即啓蒙は「無知」と名のついたどぶさらへである、大掃除のあとでせい／＼したなぞといふて居られるが、扱其最中は臭い泥をかきませたり、蛭に吸ひつかれて摘まんで捨てたり、決して愉快なたやすい事でない。又譬ふるならば、啓蒙は「虚偽

「迷朦」の藪の開拓がある。大斧を振廻し當るを幸ひ薙ぎ倒す大わらわの奮闘である、茨の棘に手をかきむしられる位は問題にならぬ、中でウオー〜咆へてる虎が出て來たら早速虎退治、聲を出さぬからと油断をして居ると足元の蝮に噛着かれる、蝮でも虎でも吃度此方で退治出来るともきまつて居ないから頗險呑である所で話は女教師に戻る。一體女は開拓者であるか、戦士なのか。「ごぶさらへ」は女に出来るか、蛭の吸ひ痕と茨の棘の引掻き傷に超越する程に女は鈍感であるか。無論「波風荒い」一般的啓蒙と「壺中小天地」の女子教育とは一所に話はお出ぬが、それにしても女學校には女學校相應の蛭も虎も蝮も居るのに相違無い。

民族自決と女性自決

斯様にして、書齋に籠つて街頭の事を本の中許りの智識で研究して居ると、一體女自身で女の教育を賄ふて行く事が可能であるかといふ疑問が浮んで來る。成程青春時代に多くの理想家の潜つて出て來る基督教の關門で、彼等の多くは

デモクラシーの大本義と民族自決主義の理想と「久遠の女性」の偶像とをつかんで來るのを常とする。所で其デモクラシーは本論の問題外だから措いて論せず、民族自決主義のいふ民族といふ概念とは一體何を含んで居るのか。土耳其人もアルメニア人もルーマニア人も各々主張する如く、朝鮮人も臺灣人も主張する。更に其が嵩じては薩人も長人もアイヌ人も皆主張し兼ねまい。其民族自決といふ概念は如何にも公正な自由な様な感じがするが、扱其内容とそれから概念其ものの妥當性が事實を以て證明されず、唯徒らにヴェルサイユ條約の記録にのみ其名を止めて居るばかりである。

次に「久遠の女性」に關係して矢張基督教センチメンタリストやフェミニストに聞けば、「女をして女自身の事を解決せしめよ」と之等「寛大聰明な」男は云ふて居る、即之は民族自決と同様に女性自決主義を考へ出し、今迄の略取者が被略取者に與ふる世にも有難い御恵みとして呉たやうに見せかけるが、しかも其實は虐げ

られて居た者自身がめざめて自身の實力に訴へて存在を明かにしたのに對し、今は無力な過去の虐主が不精無精に手を引込める際のごまかし文句などではないか。民族自決も女性自決も此點に於て原理は變りがないと予は解釋する。

女性自決は實行不可能

所で此「女性自決」と申す名前丈堂々として其實内容の朦朧たる概念でも、近代フェミニズムといふ形を取つて世に現はれて來る時には、矢張大掃除と溝さらひには物ずきな男性が其任に當つたのではないか。西洋や昔の話と云はず、現代日本に就て例をとれば、赤瀾會の女丈夫の演說會でも、矢張おせつかいな堺利彦翁が前座を勤めて、「どうか諸君聲の薄い婦人達をあまり野次らないで下さい」となだめたといふ報道は、事實無根の逆宣傳であるか。

予一個の獨斷の中では、何によらず女性自決などといはれる事柄は、「女といふ生物から三本毛の多い」男と稱する獸の一種が其自身の間で子を産み、種族保存の

實を全ふし得る時に及んで、且又今申した「男といふ獸よりも三本毛の足らぬ」高潔な生物たる女が、其自身で新天地を開拓しユートピアを築き上げた曉に於て始めて其等の實現は可能であらう。

其故に此偏見を元として、今我々の論ずる性教育に及んでも、女性自決主義の性教育は同様に不可能と見える。如何となれば、現代日本に於ける性教育は純然たる一の啓蒙運動だから、そして女は天性守成調和にたけて開拓進撃に適しない者である故を以てある。

女護の鳥へ侵入する男

見よ。昔男禁制であつた女學校にも今は「お料理」や音樂に迄男教師が入込んで居る。之は必ずしも「色魔教師」が安い報酬も覺悟の上で潜り込んだものによるのではない。矢張教育といふものゝ性質上男の手を借らねば行へない事が、貧弱な語學やまづい料理や色んな物を味はされた上で、合點が行つた次第である。

學校とは云はず、女醫を見よ。出來た當時は「女性自決主義」の女は申すに及ばず、狼連の男迄手を握つて貰ひに行つたものだが、扱其さわぎが静まると、女自身がどうだ、平生の軽い病氣なら、診察料の安い方の女醫でまあ我慢しておくが、さあ大病になると、女患者自身が「あの先生ではたよりないから、男の先生を……」と要求が出るのが現状である。

「男のみ居て女なきは、首ありて胴無きが如く、女のみありて男なきは、胴ありて首無きが如し。」獨逸の諺。

單性自決は何に於ても不可能

斯く例をあげても「御婦人」を決して侮辱しこき下したりしたのではない。根氣のよくなければならぬ仕事ではタイピストから事務員、それから之迄「女禁制」の中學校でも寮母を迎へたり、或は疝癪持の男教師を追拂ふて辛抱強い親切な女の語學教師を招聘すると、今迄するけた茶目公迄規帳面に豫習をやつて來るとい

ふ様な美點も見えて來た。

之等で見ると、男でも女で自決なぞといふのは、結婚前にお上品な男女が獨身主義を標榜するのと同様、甚だあてにならぬ云ひ草なのであるまいか。女性自決なぞとフェミニストぢみた考へとは全く没交渉に、「七歳にして席を同じうせず」から出發した男禁制の女學校でも、斯く女性自決の疊は順々に陥落して行き、最後に對婦人の性教育計りが、嚴然と「貞淑な婦人」と親切な「高潔な」男によつて守られて居る。之が永久に「女性自決教育」の奥の院として存在を全ふし得るか。予の偏見に従へば、餘命幾何も無いものと觀測する次第である。

女子性教育の特殊使命

如何にして斯様に觀測されるか、其は予自身の見地より、將來の婦人に對する性教育の當然の使命と見る事から、自然さうなる外はない。

所で性教育の第一次使命は既に述べてあり（一一〇頁參照）、其は人間としての

男女平等に要求される所の事である。併し乍ら第二次的に、生物學上男女が別物であるといふ事實に關して、特殊な要求が出て来る。其要求の由來を説くはまづ後に譲り、取不敢其項目を擧げて見れば……

女性に對する性教育の特に目的とするのは

一、人類に於ても亦他の生物と同様に、男女兩性の個體は生物學上互に特異の者として生みつけられ、しかも男性は女性と互に不可缺なる者として人類全般の各一半である事實をば、從來の如く多大の冒險の後始めて體得せしむる如き愚擧を避けて、兩性の性的直接交渉の始まる前に科學的に教へる事。

二、人生に於て最重大なる母性の生物學的意義を特に自覺せしむる事。

此二要件を追加すると云ふよりも、寧ろ此方が緊急の問題であるから、第一次要件の隨一たる一般的性智識に關する眞理宣明を暫くさしおいても、まづ特殊問題をさきに解決したいと欲する緩急順序の話なのである。

男心と娘の性教育

何故斯様な案を建てたのか、其は簡単な卓上思案許りでなく、其外に婦人雜誌も相當研究したが、其よりも次に掲げる様な男學生の追究質問が少からず予の此點に對する注意を促したからである。

予が同志社でやる人生生物學講義全六十時間の中で一時間男女の體的相違を述べ、次の一時間を兩性心理の差違を述べて少し許り女性心理に觸れる。此女性心理といふ大問題を僅一時間で卒業させやうと試みるのは以ての外の大望であるけれど共、他に是非共云はねばならぬ事が多いのだから、さうく其にばかりこだわつて居られない。所が聽講後特に物足りなかつた點を學生に訊すと、頗る多數の人々が此女性心理の問題がそれだといふのである。

一體若い男は誰しも一度は女主人公の活躍する小説を貪讀する時があり、近頃の様にはモーパッサンやフローベールやシュニツラーの譯が續々出て、可成廣く愛

讀されて居る様であり、又予の聽講者の中にも可成其等に精通する文學青年の多い事を彼等の感想文によつて發見するのであるが、それにも係らず詳細な小説の描寫にも満足せず要を摘まんだ科學講演を要求するのは何故か、其心理分拆も今此婦人性教育に特に關聯した必要になつて來る。

未婚男女の異性觀と智識慾

今思春期に入つてしかも現實の異性を知らぬ青年男女が抱いて居る異性觀を比較するに、女性は概して男性をば自分達と全然同一な心理を有する生物と獨斷するか、又は超自然的純潔なる勇士と偶像化する傾向がある。男性側でも同様に異性を天女扱する事もあるが、概して女性をば自己と全然異なる不可解な心理を有する者と本能的に感じて、或は女を魔物扱ひにする人もある。即此二種の異性觀の一は獨斷的樂觀、他は懷疑的悲觀の色彩を帯びて居り、前者は現在の美しい夢を守らんとし、後者は現在の無知に慄らす追究を試みる所に、著しい性的特徴が現

れて居る。

わからぬから知りたいたいといふ本能的欲求がまづ第一にあるが、其餘に更に油斷のならぬ男心の底に邪推を逞しうして見ると、異性の心理に充分精通して弱點をも握つて、活殺自在の色魔的怪腕を揮はんとする野心がほの見える。之はあながち不良性を多く所有して居る予が、自分の身に引比べた臆測ばかりであるまい。造兵工學の研究に於て強い甲鐵板が出來ると貫通力の多い彈丸も出來る様に、犯罪でも捜査術が發達すると更に進んだ犯罪法が出來る様に、世の中では矢張男と女と追ひつ追はれつして居るが、併し虫のいゝ鐵板製造者が相手の彈丸が昔のまゝで舊式であると夢想したが、吞氣な名探偵は惡漢でも矢張近代科學の精華を取込む事があるを忘れたり、し易い様に、勝手な男共は馬鹿な女共を其まゝにして自分達丈敵方の情報を充分に得ておいて、うま／＼と兩性鬭争に勝利を占めやうともくろむものも亦、此油斷のならぬ世の中にありさうな事ではないか。

「欺かれた妻の告白」を読む男の心理

うそだと思ふなら、表紙にデコ／＼した現代式美人の石版畫のある婦人雑誌を御覽。毎號々々よくも飽きずにこうも同じ事を繰返せるなあと感心の餘りに涙がこぼれる程「色魔に欺かれて罪の胤を宿した私の告白」が出て居る。

「VOLTAIREが云ふた事がある。昔或女王が一人の女原告の訴をいかにして却下したか、其話をば凌辱を蒙つたを訴へる抜目の無い娘達にお傳へしやう。其女王はまづ一振の刀を手にし、次に其女原告に中身をもたせ、自分は鞘を持ち其を不絶振廻して見て、其まゝでは女が元の鞘に刃を納める事の不可能だといふ事を納得させたのである。實際此種の凌辱は稀有困難である。併し乍ら全然不可能といふのではな

い。』(THOINOT, L. (1920): *Medicolegal Aspects of Moral Offenses.* (Engl. transl.) p. 81.

内幕を窺くと時として其筆者は窺宛楚々たる美人でなくて、實は見るも興醒めなむくつけき鬚男であつたりするが、しかも毎月々々性懲りも無く出て来る雑誌をば、廻ぐれど端無き愚痴と、云ふて詮無い返らぬ縁言と、あいた口がふさがらぬ程の臆面も無い手前味噌とを、讀む爲に、金を拂ふて讀む人間に少からず男がある。

此事實は予の解釋によれば「如何にして天性愚なる女をたぶらかし、而して何

等責任をおつかぶせられる事無しに手際よく切抜けられるか」といふ戦術の研究資料として、之等の雑誌が一部男性に利用されて居る事を示すのに外ならぬ。

「男子雑誌」の無用な理由

所で告白専門の婦人雑誌に對抗して、長髪やオールバックの美男子の肖像を石版摺の扉にして「女色魔に捨てられた私の告白」を滿載した「男子雑誌」を發行したら、男性心理を知りたい女達が買ひさうにも思はれるが、其所が前申した異性觀の相違で、そんな「捨てられた男の話」などはお嬢さん達はおぞけを振つて手を出さぬ、又實際男を棄てる位女はそんな馬鹿男の心理などは直覺的に知つて居るから、態々金を出して雑誌買ふて研究しなければならぬ男程に馬鹿でない。

無論男の告白も女よりも数は少いが、可成傑作が續出する、併し常態に於て男が人前に欺かれたなど、廣告するのは威嚴を損ふから、よし自分が欺かれても精々内證にしておき、一方廣い世間で女に捨てられたり欺かれたりする事を自慢

にする「マゾホ風」専門家の作品を、時々苦笑しながら読んでひそかに「甘い涙」に耽る位の所、大體から云ふて男のが諦めがよくスッパリして居る。

男は愚痴の安全瓣に感謝せよ

扱斯様に男も讀むなる婦人雜誌の婦人讀者側から考へて見るならば、過去自分の愛人が私を欺いたといふ唯一の經驗から割出して「あらゆる男は皆女を欺く獸なり」といふ眞理（實際大抵の場合さう考へておけば間違では無いのだが）を公表し、自分許りが正しく男は無暗に不持であるといふ判断を繰返し／＼述べ、自己示唆として氣休めの種となし併せてマゾホ風快感を得るのに利用する爲に、確に婦人雜誌は歸らぬ愚痴の繰言の安全瓣である。青年男子に運動競技の必要なやうに、現代婦人にとつて婦人雜誌は慰安上なくてはならぬものであり、若し世の惡口家に憚つて此安全瓣の数が減するならば、世の多くの夫は自家製告白に惱まされてノベツ閉口せねばなるまい。斯く考へ來れば男は、婦人雜誌の低級を嘲ける

所か、却つて其徹底した低級さに大いに感謝せねばならぬのである。

告白雜誌による性教育

扱教育の見地から之等雜誌の態度を觀察し、又其教育的價値を考へて見やう。一體其記事を文字通りに割引無しに受取るならば、人見たら泥棒と思へといふ風に、男と見たら皆色魔と思へ、嫁入りしたら必ず夫から性病を感染させられるものと思へ、とすべての最もむごい場合を示した一種の性教育であり、脅嚇威喝の弊はあるが、一面婦人自身をして警戒自重せしめ得るといふ長所もある。

所で前に述べた基督教信者の女教師（二九三頁参照）は、夫によつて始めて男の獸性を知り、次に予の性教育講演によつて其事を更に確かめ得たのであるが、之は恐らく此應答者が基督教信者の潔癖に煩されて婦人雜誌を讀まなかつたからで、若し彼女が早く其等の文献に目を通して居たならば、何も夫を持たず共、予の性教育講演を聞かず共、既に「男の動物性」位は會得出來て居ただらうと思は

れる。

女は、吾人間は他人の經驗に頓着しない

更に彼女は、異性觀の革命によつてもはや男性を神聖と見る事はできず、男性に對する憎惡がむら／＼と湧いて來たといふのであるが、世のあらゆる少女達が悉く此告白文學の貪讀により、或は又性教育を受けた事によつて、彼女の如く男を嫌ひ生を呪ふ様になつたと今假定するならば、世は結婚を厭ふ娘達の拒婚同盟結婚ストライキによつて大恐慌を來すであらう。對女性々教育は此論文の様に唯卓上思索に止まつて居るから、當分斯様な偉大な効果を擧げ得るか、頗る疑問である。併し婦人雜誌の效力に至つては、今の如くよく賣れて居るに係らず、懲りすまに續出する「欺かれた女」の多い事から見ると、あの實物教訓の威嚇的報告も其影響至つて貧弱だと思はざるを得ない。

「男は純潔な處女を得やうと熱望して居るのに、女は男に對して其純潔の點に注意する事少いのは、不

可思議千萬である。尤も E. v. HARTMANN の云ふ通り、年若く無垢又無經驗な少女は、眞の遊蕩兒を本能的に知けんとする傾はあるけれども、其他の女に至つては決してそんな事は無い。即或著者は「女は、一人の男の愛した女の數に正比例して、益々其男を愛す」といひ BALZAC は「女は、既に他の女の持物になつて居る男を、手に入れやうと努力する。」といふた。J. GROOS, HANS (1905): Kriminalpsychologie, 2 Aufl. Wien.

暗い人生、明るい人生

前述の型の告白雜誌をよめば、世間は男に置ざりを食つた女の泣伏して居る宿屋の一室と、牢獄の様にジケ／＼とした日當りの悪い漬物小屋兼臺所と、青い顔した婦人病患者が多勢不景氣な火鉢に鼻をあぶり乍らポソ／＼と病氣の話を語りかはして同情して居る婦人科病院待合室と丈で、成立して居る様な感じを受け易い。

所が今眼を轉じて他の型の婦人雜誌を見ると、新郎新婦や某實業家の圓滿な一家團樂の光景やピアノのおさらひや、色々の寫真口繪が一杯のせてあつて、其を見て居ると前の印象と正反對な花やかな世界が、暗轉か廻り舞臺の後にバツと照

らし出された様な感じ。此方では、名士美人が目眩しい迄に往來する彼の帝劇幕合の廊下と、新流行の衣裳を着飾つた夫人令嬢で満員の三越食堂と、自動車が大ラツと前にならんだ日比谷大神宮及び帝國ホテル、それから「息づまる程甘い陶醉の幾日」の箱根熱海と、電熱ストーヴプラス青赤色洋酒瓶の文化臺所と、最後に一生おしっこも鼻水もたらした事のなさうな綺麗な子供が洋服をきて侍女に侍かれて居る後園の芝生と、之等の總和が「畫報人種」の住む世界の全部の如くに見える。

「貴婦人の謬見」—貴婦人達は、人中にて口に上す事のできぬ事が、實際世の中に存在しないと思ふて居る。FRIEDRICH NIETZSCHE: Menschliches Allzumenschliches.

明るい人生の虫のよい夢

「女は、吾人間は、いやな眞實にはわざと眼をつぶつておいて、虚偽でもよいから美しいもので満足したがる。」JHANS GROOS

いかに告白雜誌が暗澹たる人生を教へ、男性心理の不快極まる獸的方面を力説

しても。矢張實の所は此「寫眞畫報」式人生觀のが世間、否娘さん達の、うけがよくて、ホーム・スキー・ホームの鳴物入で、恰も物見遊山に出掛ける様な陽氣な氣分で。お嫁入遊ばされるのである。

其後「血の道」もお起しにならず、夫君も品行方正でしかも思ひやりに富んでやさしく、玉の如き愛子をあげてもバナナとチョコレートチョコレートの如き文化的間食を與へすぎて疫痢を招く様な事も無く、其子がやがて成人して曉星か府立一中へ入り其から一高帝大へ行ってしかも其間に小間使に「誘惑」されたり、或は「何所の牛の骨とも馬の骨ともわからぬ」カフェーの女に迷ふたりする事は更になく………とかう話が寫眞畫報の一代記漫畫の様に展開して行けば、それこそ性教育など云ふ「下劣」なものに交渉無しにすむのであるが、ドッコイさうは行かぬといふのが多くて、結婚迄は「寫眞畫報」式だが三々九度の後は「欺かれたる告白」の方に筋書が一變して、三角關係が出たり自動車運轉手が舞込んだり不良少年がお膝

元から飛出したり、中々お氣の毒乍らプログラム通りに行かぬのが多いのはまゝならぬ世の中である。

フラトニック ラヴの實在可能性

或は又近頃の様に男女交際が自由になり始めると、前の様に投書雑誌の後の方で六號活字で「どうか清い交をして下さいませ。寂しい野の花」など書く位のなまやさしい事では満足しない。早速日曜には井の頭や多摩川さては「若草の武蔵野」がり愛人の手を取りつ取られつお出掛けになる娘さんも出来る。其お伴を仕る若者は無分別にもポケット、ウキスキーや色青いペーミンントの小瓶を携へてゐるなどの光景を目にするのも稀でない。所が困つた事には

『兩性の心的相違は、運動輕快にして停止する事の無い精子と、營養分を貯へ停止不動な卵とによつて象徴的に現されて居る。そして、熱烈な向上心と洗練された趣味と高潔な理想と鋭い自省心を欠乏する男が、多妻主義の權化である事は、生物學上の必然現象である。よし萬物の靈長として前に述べた高貴な屬性を具へた男でも、異性と接近が其度を過ぎると、ELLSの説(本書參考論文三四八頁参照)の通り、

動物的本能以外に人間の理性の干渉を容れぬ「獸に還原せざるを得ない。之が一般の結果なのであるから、過度の接近による必然の結果に對して狼狽するのは、遺憾乍ら無學無知の結果と云はればならぬ。即ち少く共自ら進んで接近を試みる以上、其畫面の展開と事件の進行は百中九十九迄機械的正確を以て行はれるものと覺悟しておく事が必要だ。此事は、殊に體質の差に基づき性的發生史を全く異にして男性心理を毫も解しない純潔無垢の處女が、必ず辨へておくべき事。安價小説の Platonic Love を現實のものとして考へると、大變な悲劇が起る事がある。』山本宣治(一九二二)人生生物學講義大要△三四—三五頁。

即之を申すのも甚だ殘念ではあるが、小説に書いてある様な「肉慾を超越した清純なラヴ」は、世間見ずの純潔無垢の處女が考へて居る程、世間にザラにある事ではなく、寧ろ稀であるからかくあれかしと思ふあこがれと理想から書いてあると判断した方が適切らしい。

『經驗無き乙女達は、自分の力によつて、よく或男を幸福ならしめ得る事夢想する。其後彼等は、其男を幸福ならしめ得るものが唯一人の乙女に許り存して居ると、思ふと、其様な事は其男を輕んずるに等しいといふ事がわかる。……女の虛榮心は、其男が、幸福な一人であるより以上の者たる事を、要求するのだ。』FR. NIETZSCHE: Menschliches Allzumenschliches.

男心を知らずにすむか

之が子の見た現代の日本である。此様な世の中で、親達や其他の理想家が、娘達にいつ迄も「あどけない娘心」を保存しておく事を望むのは、一見慈悲に似て其實娘達の戀愛生活と結婚生活に現れ易い陷穽を明示せぬいとも愚かな賭博である。予は確信する。如何となれば、育児は分娩してから育児書を繙くも遅くはない。妊娠分娩の注意も懐胎してから學ぶも手おくれでない。併し乍ら、懐胎に到る前に早くも、其に携はる相手の「男心」を知つておく事が更に／＼に緊急問題なのではないか。

「うちの娘はネンネで困ります」と之をいつ迄も放棄しておく程に、之は悠長な問題でない。よし「うちの娘」は不良少女でなくても、世の中には攻撃性に富んだ不良少年不良青年不良老年がウチャ／＼と女性の隙を狙ふて居る。そして男女兩性の全く違ふた生理的特質があり、又四週間を隔て、「乙女心」に對し特に

やるせない氣持が湧いて來て、怒り易く泣き易く争ひ易く絶り易くなり、又自制心が突發的に衰へる事もあるのではないか。そして誰もが用心堅固なブルジョア生活の壘の中に日夜番兵に取圍まれて居るのでもない、して又今は「大正の御代」であつて、もはや「箱入娘」の存在を許さぬ様になつたのは是非も無い。無論世の多い娘の中には生まれ乍らに聰明な人もあつて

「女は直覺的に頗る正しく、偉大な男の天才的事業と其道德的價値を悟る事をなす」 AUGUST FO

REL

人もあらうが、皆が皆迄習はずしてさうは行かぬ。

男を知る前にまづ男心を知れ

斯く考へ來れば、予の力説せんとする女性々教育の先決問題が、第一に

人類に於ても亦他の生物と同様に、男女兩性の個體は生物學上互に特異の者として生みつけられ、しかも男は女と互に不可缺な者として人類全部の各

一半である此事實をば、從來の如く多大の冒險の後始めて體得せしむる如き愚擧を避けて、兩性の性的直接交渉の始まる前に、男性生理と心理とを科學的に教へ込む事。

であるのは、今事新しく説明を要しまいと思ふ。即戀人をもたずに、夫を貫はぬ内に、男はザツと斯様な特性を具へて居るといふ概念を得させたい。之が此格段な場合に於ける唯一格段なる解決法の第一と予は確信する者である。

男教師は女生徒の前のモルモット

其故に、予の獨斷説を基礎とする當面の對策に於ては、女學校の性教育擔任者は必ずしも女である必要は無い。實際に於ても女教師の適任者が稀なのだから、(男の適任者の稀な以上に)、男教師をして其に當らしめるも差支へない。否寧ろ其以上に進んで、原則として性教育當事者は男教師たるべしと、予は云はんと欲する者である。

出來ぬ相談を出して勝手な注文で思ひ付を誇りたいなら、一妙案がある。其は夫が生物學者、妻が女醫である夫婦を聘して、其夫には性的器官の解剖學と性交の生理を説かせた後に妻に妊娠分娩育児の講義をさせる事にし、開講第一夫妻交り／＼に兩性々心理の講義をやり、聽講者は其二通りの兩性觀の和をまつて二でわればいい。

つまり此際の性教育は、何も斷片的性智識を詰め込む必要は無く、教師自身が女學生達の試験動物となつて、成程男は女と違ふ心理を有してゐる者であるなあと會得させれば事が足りる。若し其が粗暴々慢の惡教師であるならば、其教師の人格を通じて、粗暴々慢下劣なる男性々格の半面を知り得て、女生は賢明になる。そして男性に對する幻滅はきても、其時のは他日粗暴々慢下劣なる惡良人を迎へて得た幻滅と比ぶれば、其少女の受くる痛手は遙に軽く又之に伴ふ副作用は遙に少い事は云ふ迄もない。良男教師を得たならば、其時の良影響は良女教師の與ふる其よりも更に多からうと、予は考へる。

結婚がイヤになつたらせ共よ

男性々の器官が突然女の眼に觸れた時、彼女はうごめく蛇を見た様な恐怖に打たれ激しい動搖が生じ嫌惡が生じる。性現象の現實曝露に際しても、此様な本能的退却が起り且又従來のつゝしみ（即ブルジョア式タプーの觀念）があるから、之を侮辱されたと心得て一時的反抗が起ることも、其は今日の娘心に無理はない。だから、此點は前述の通り直截簡明を尊ぶ男學生とは違ひ、精々急がすあせらす順を遂ふて進むのがいゝ様に思ふ。併し其にしてもいつか一邊覺悟を定めてルビコンを渡らねばならぬ。それがこわければ、矢張従來の良妻賢母教育、結局男を買冠つてしくじるのは女の無知、女の不明のせいによる自業自得になる、但し此無知は之迄男の都合のよい様にカラクリしてあつた良妻賢母教育の必然の結果なのだから、其責任の大部分は男にある。

所でまづ其峠を越へ、男でも矢張人間に違ひないが女とは違ふ者である事がわかつたとして、そんな男はよし人間でももはや神聖でないから、結婚などはイヤに

なつたといふ娘さんが出來たなら、それでも宜し、唯さへ結婚したがる人が多勢あり過ぎて困るのだから。

男教師による第一の危険

世人の考ふる所は、此様な男教師による性的啓蒙は多大の危険が伴ふといふが其危険の一は今述べた「あどけない乙女心」を驚かし彼女の美しい夢を破るといふのだが、一體今迄の人間は御婦人をいたはり過ぎたのではないか。其爲に「婦人向」著述や講演や教育に食滯して彼女達は消化不良に悩んで居る。一足飛びの解放は出來ぬにしても何とかしなればならぬ。男の方でも狎や猫をいたわる様に唯何かなしに可愛がらないで、少く共異性の爲を思ふなら時には痛々しくても冷水をあびせ掛けねばなるまい。女に媚る變生男子や色魔が世に多いから、此機會を利用して一寸憎まれ口を叩いて見る。

教師生徒間に起るかも知れぬ閑葛藤

今述べた懸念よりも更に大なる『常識的危険』といふのは男教師女生徒間に戀愛の生せんとする蓋然性の事である。之は教師が勝つた人で未婚ならば、尊敬から戀愛が生まれてきて『めでたし〜』も結構だが、併し性教育擔任者が未婚の青年では、いくら秀才でも厚かましくてやれまい。又そんな試みを行ふ勇敢な學校もあるまいから、其點心配無用とする。

其所で原則として妻子を現に控へて居る男教員が當るとして、其所に祕密な性的交渉が起り得ると憂ひるのであるが、無論之も廣い世間に悪教師もあるから、全部保證は出來ぬにしても、さう〜泥棒扱ひは苟くも教育者に對して失敬ではあるまいか。殊に學校教育の場合には衆人環視の中の事だ、おまけに敏感な女性の直覺的判断は其際何等の變化を探り出さずはおかぬ。之は神經過敏な焼餅屋が局外から考へる程頻繁に起り得る危険であるまいと、予は男學生間に於ける群集心理が抑制自重の方面に都合よく働く事から類推する。但し個人應問を獨房など

で行ふとすれば、カトリック教の懺悔の時の様な弊害も起らぬ其限らぬが、男學生でも中々勇氣の必要な告白の後の相談を、果して内氣な女生が求めるであらうか、之は無經驗だから何とも云はれぬ。用心にしくはないが、餘り罪人扱ひも教育者を遇する道であるまい。さうこわがると、男にも貞操帯の如き錠前が入用になる

(1) 女學校へ教へに行つたら、第一時間教壇に立つや否や教室内で最も容色の目立たぬ一人を見付けて其時間内其女生より他に眼を離さぬ様にする事、其から質問をするに秀才らしい少数女生にのみあてると他の物議を醸す事があるから注意、など、色々の申送り新教師の間にあると傳へられて居る。

男心を知れば母性は自然に知れる

所で何を教へるか云へば、先づ第一に男は女と違ふ者である事、それから始めて兩性の接近其度を過ぐすと性交に到るのが常態である事、性交が行はれれば妊娠分娩に至るのが常態である事、子を産んだら今日の經濟組織では男に物質的補助を受けて母が育てねばならぬ事、等を其順に云ひ、其子に於て父母の性は遺傳學的に半分宛存在して居る事に説き及ばせば、もはや結婚の重大な所以や貞操

の重んずべき所以を態々説法せず共、もう人生の將來に對する覺悟は自ら定まる
即女子性教育第二の要件たる

人生に於て最重大な母性の意義を特に自覺せしむる事は、前述の科學的啓蒙の必然的結果として現れて來る筈である。

之が女學生に對する性教育に對する予の卓上思案の大體である。無論實驗して見なければ、果して空論か實論かはわからぬから、自説を謙遜するのも自慢するのも不可能ゆへ、當分双方共保留しておく事にする。

* * * * *

附り、一 處女の間同性戀愛

女學校に於ける同性戀愛の問題が屢々學校當局者を悩まし、時には同性心中が起つたりして責任者を苦しめる事がある。斯様な現象は、一般的に云へば、女子教育にあづかりしかも學校樞要の地位にある男子が、女性心理に疎く、就中處女

の心理に全然無知である事に原因する事が多い。即性的無知にして何等反省する所も無く男性心理を以て女性のそれを律し、純潔にして何等肉體的 *Flirt* を伴はず唯抱擁唯憧憬に終る處女のプラトニックラヴをば、男學生寄宿舎に群集心理的傳染現象として起る相互自慰及び鷄姦と同一視し、之を醜行と斷じ直ちに威嚇壓迫刑罰を以て其に臨む結果、ゆはれなき侮辱を受け、たへがたき羞恥を抱く乙女を驅つて悲劇的運命に陥れるのである。又一方に於て現象の内容のわからぬ他の乙女達の好奇心を唆つて、わからぬまゝに無我無中な摸倣に始まる傳染も行はれる
即女學校に於て、異性心理を學ばねばならぬのは、單に女生ばかりでなく、一般男教師がまづ兩性心理の差を科學的に學ぶのが、目下の急務である。

女性間の同性戀愛の現象は、女學校教師の必ず知らねばならぬ事柄であるから、近く機會を得たら安田徳太郎君が多分小冊子を著すであらう。

實話。或若い督學官が女學校視察に行き、體操科授業中に多數の女生が佇立傍觀してゐるのを見て、其校の女生がするいと實めた。其を唯々諸々聞いて居た校長は、次の室迄先導して行つた上、恐るゝ「實

は婦人には女性特有の……」を口を開きもあへず、督學官はハタと思ひ當り頗る赤面したさうだ。此話
が可成そこ、から傳へられる所を見ると、其は唯一回の出來事ではなく、所々で繰返しく起つたものら
しい。

附り、二 高級婦人雜誌

さきに婦人雜誌を分類して、告白雜誌と書報雜誌の二種にわけたが、尙此外に
「高級婦人雜誌」がある。併し之には別段ふれなかつた理由は、其が大體から見て
名許りの婦人雜誌であり、寄稿者も讀者も共に其大部分が男子であるから、態ど
省いた次第。無論之を讀む熱心な女も少くはないが、近頃は其雜誌が「高級」で
ある爲に電車の中で擴げて居る丈でも何やらゑらさうに見えるといふので、其實
よんでも餘りわからぬが人に見て貰ひたさに買ふ女も無きにしも非ず。さうする
と、之は婦人の「讀物」でなく「見世物」として利用せられて居るが、矢張擴げて人
に見せて居る内何かしら覺えるのだから、至極結構な傾向である。

由來新興日本の女性文化の建設に於て、明治二十年代に最も全盛を極めた巖本

善治氏の女學雜誌が「高級婦人雜誌」の元祖として、當時の思想界に異彩を放て居
たが、之も亦主として男が書き男に讀まれた物である。今も昔も啓蒙に熱心な若
い男が主として斯様な雜誌に携つて居るが、やがて其等の秀才も「笛吹けども踊
らぬ」女性に愛想を盡し其から離れの又踏留まつて居る男も久しく其に従事して
居る内に、元有意義であつた男として潑刺な思想も失ひ女性自決の妥協的傾向に
陥つて、終に其雜誌も存在理由を失ふといふ筋道になつて居る。

(一)「一體青年氣鋭の學者は、抽象的に女性を考へて一舉に女性の啓蒙向上の可能を夢みて、種々な試
みやつた末、あこがれの女性は唯理想の者に過ぎなかつた事を終に發見して、又男の世界に逆戻りして
そして大家になる。後の大統領ウイルソンも、後の生物學の大家モルガンやロイブも皆、青年の頃我校の
教師であつた事實は抑々何を意味するのぞ」と、米國隨一の女子大學プリン、モール校の總長交迭に際し
て、嘆聲を發した男の學者が最近にあつた。

希くは今ある高級雜誌も、始めの意氣込を忘れず、營利主義の捕虜とならぬや
う、大いにきばつて貰ひたいものだ。あつさりした表紙が段々艶麗になるもの餘

りほめた傾向でない。

對既婚婦人の性教育

既婚の女に對する性教育は、既に彼女達の處女としての羞恥心は事實體驗を以て拭ひさられた筈だから、女學生に對する程に廻り路せず、素直に、彼女達の體驗を科學的に一括して適當の説明を下し、其上に彼女達の抱いて居る迷信を掃除すればいい。即ち女が男の様に眞實を愛するならば、何の困難も無い筈である。所が

「自然は、女に唯一の自衛手段として、偽善を興へた。獸が爪を使ふの如く、女が偽善を用ふるのと同じ事であり、女は自身の偽善を或程度迄辯明出来るを信じて居る。」SCHOPENHAUER

といふ程ひどくはないとしても、矢張之迄のたしなみとか品とかいふブルジョア式タブーがある爲に、困難がある筈は無いと云ふても、其「筈」が豫定通りに實現しない。現に京都第四教育聯合會の四時間講義の時でも、一男聽講者の觀察によれば

「性教育講義は講師次第で有害であらう、但し先生ならばごしくやつて下さい。併し女には餘程前置

をうまくやらぬと、處女性を傷つけられた様に思ふ人が多いのを見聞した。實際第一講で「あんな話をよくまあ講壇から幾面皮に云へたもの……」と嘆聲を發して、第二講にはこなかつた女教師をも見ました。」

さうである。講演後受取つた匿名感想文の中にも女教師のが數通あつたが、予の述べた女性生理及心理の話を彼等の體驗に比べて全部肯定して居る點から解釋すると、予の所説が虚偽杜撰極まる爲に若干女教師の憤慨を招いたのではなくて、寧ろ其が彼女達の體驗にピッタリあてはまり過ぎた爲に、透視され解剖を受けてる様な氣分で、其座に居た、まらぬ様になつたのではないかと思はれる。女でなく共、人間は痛い所をえぐられ、ば悲鳴をあげるは當然、例へば其時の聽講者の中の一人の男でも

「神秘的な所に美觀がある。物が餘りに赤裸々になり機械的になれば、無趣味となり醜汚の感じが生じる」

と答へた。其時の講演は本書第一篇の幾部分より更に立入つた所迄云はなかつたのに、其様に女達を苦しめたとは予の無經驗の致す所、將來對既婚婦人の話でも餘程「御婦人の貞淑」を傷つけぬ様注意したい覺悟である。併し乍ら我日東島帝國

の女性に對しても亦、一般に

『女は分析を厭ふから眞偽の區別は出来ない、そして分析は不眞實の多くな曝露するから、女は分析される事を好まない』 R. H. Lotze

『女の性質は、男、愛情、小兒、社會、人生の目的等に關して、一切の眞實を憎む。そして彼等の眼を開く者には、悉く皆復讐せんとする。』 FR. NIETZSCHE.

のかも知れぬ。そしたらず非も無い、女の爲を思ふて進んで啓蒙しやうといふのに、却つて怨まれては溜まらぬ。殊に怨を受けたら七生崇るといふ執念深い女性のしかも複數の怨が積つては後生が恐ろしいから、對稱既婚女性の性教育は他の適任者にお譲りするか、それ共眞實を愛する事女性よりも勝稍くれた男、即彼女達の夫を通した至極廻りくどい間接啓蒙に甘んじて、得心づくの無知の中に惱む女性に觸れないのがいゝか、目下考慮中である。(終)

一九二二年一月十一日 脱稿

京都市外字治町にて

全三篇の所論大要

(前出一頁以降四五頁迄)

附 録

参考論文	本能と性の問題	三四一—三五一
参考資料	人生々々物學資料蒐集に就て	三五二—三八四
同	松江高等女學校の月經記錄	三八五—四〇八
同	性學文献解題	四〇九—

本能と性の問題

性教育本來の使命と『性慾教育』なる名の誤謬

(一九二二、四月)人生々々物學講義大要△二七—三五頁

本 能

本能 Instinct (反射作用をも含めた廣義の)とは、一動物に於て教へずして無意識に行ひ且つ機械的に正確に起る衝動及び反應を云ふ。

例、初生兒の吸乳、他物に衝突しやうとした時の眼瞼閉鎖。燕や雁の渡り、脉膊、呼吸、消化、母の愛

本能と性の問題

三四一

等。

更に此廣義の本能を大別し屈動性 Tropism・反射 Reflex、狹義の本能とする。
屈動性とは刺戟に對する原始的機械的反應である。

例、バクテリアの趨光性、原生動物の走電性。

反射とは或刺戟に就て一の神經弧（感覺神經と運動神經とが或中央器官によつて密に聯絡された一系統）が參與する時起る一定の反應である。

例、光に對する瞳孔の擴張、縮少、無脳蛙の反射運動。

狹義の本能とは或刺戟に就て二個又は其以上の神經弧が參與する時に起る略は一定の反應である。

無謬な本能の合宜性。Zweckmäßigkeit

今若し毒物を嗜み食はんとする本能、或は絶対に生殖を忌避する本能を有する生物が居たとすれば、其種の生物は悉く或は毒に斃れ、或は子孫を残す事も無くし

て終に絶滅するは當然の運命である。其故現存生物の悉くが營養、自己保存、生殖の本能を具へて居る事は、生存競争の中に於ける自然淘汰の然らしむる所である之等三基本本能以外のものが概して其ものゝ生存繁殖の目的に合ふて居るのは矢張淘汰による適者本能の殘存と解していゝ。

併し乍らあらゆる本能は其持主にとつて悉く合宜的であるとも限らない、本能は Engramme (SEMON) であり「原形質の記憶」Protoplasmic Memory (SAMUEL BUTLER) として完成されるには永い時を必要とする、して又一度完成された上は執拗に其生物に執著して居て、到底經驗や理知の力を以つて改める事は出来ない保守的のものだ。其本能は最初其所有者の環境に適應したものゝみが殘存する、即其本能の發生から完成に至る迄の間の環境に對して其は合宜的であるが、環境が其内に一變すれば（例、生物の移住、人類の文化生活の進化）従前の合宜的本能が或は無意味となり、或は其以上非合宜的有害のものとなる事もある。但し其時

有害の程度が其生物の生存にとり致命となる迄發達すると、直に絶滅する事は云ふ迄もない。

- (1) 飛んで火に入る夏の虫の趨光性は明所喫所に生存上の好適要件を見出した時には合宜的であつた。
- (2) 近代都市の道路上に演ずる犬の蓋糞の企、現代人が齒むき出し拳を固むる發作。
- (3) ニコライは人類の好戦本能を此例にあげた。
- (4) 無差別に植物を食ふ習性を具へた動物が他國へ移された時、毒草を食ふて絶滅した例もある。

動物が進化して行き、人類の如く高度の分化發達を遂げた脳を具へ、同時に多種の環境に適應する能力を持つ生物には、合宜性の度を異にした多くの本能が雜居して居て、其或ものは互に反對の傾向を有して居る、だから昆虫の如き本能生活の發達した例や其他のから、輕卒に類推を人類に及ぼし、「無謬なる未來覺」(JEAN PAUL)として本能至上主義を唱へんとしても、相拮抗する兩者の孰れを撰むべきか理性に究局の判斷を求めざるを得ない。

- (1) 蜜蜂の六角柱狀巢房は靜力學的に理想的のもの。馬尾蜂の産卵、多くの動物の産卵育兒。

本能對理性

人類の如き高度の分化を遂げた者の中には、祖先たる他種生物から繼承した諸種の本能が雜然として存して居るが、多様な環境のしかも急激な變化に適應する爲には、漸次非合宜的に變じ時代錯誤となりつゝある本能を征服せねばならぬ。實際全能なる其本能の活動の或範圍内では最早理性の抑制も無力であるから、或本能には他の反對の作用の本能を差向けて制馭するやうに努め、且其非合宜的本能の活動を惹起し得る刺激を精々受けぬやうに、理性の力によつて環境を出來得る限り按配するより外はない。牛や馬には罪を犯し徳を施し得る自由は無い、人には理性によつて本能を按配統御して有徳の人となり得る自由も有ると同時に、無知や怠慢や其他又自由意志から其尊い理知も用ひずに唯々幾多の本能に引摺り廻された揚句罪を犯し得る自由が具はつて居る次第である。

『我等の現代生活ではMoralityの價值が頗る高調されて居るが、Immoralityの價值の方は頗る等閑に附

して居る。無論私は“Immorality”が“Morality”をいふ兩語をば、證明も無くすぐ「善」と「惡」の同義語であるを、押付けがましく使はうと云ふのではない、唯其等を學術的に取扱ふて、社會的に決定された二種の異なる衝動であるを考へて見る。“Immorality”とは或一定の時と場所で公けに承認された行の標準にあてはまる任意のヨリ社會的な衝動を多數包括して居る。“Morality”とは其時と所の標準にあてはめられない衝動數多の事であり、前者より更に個人的のものである。更に明瞭に云ひ直せば、Morality とは其瞬間の多數意見“mores”である、其他の瞬間にはヨリよき事もありヨリ惡き事もある。すべて時の國教と風俗に従はぬ行は皆 Immoral であるが、併し其行が善か惡かそれ共ごつちもつかずか、其は別問題である。

此 Immorality の圈内に如何に大多數の民衆が暮して居るか、又其部分が如何に重大であるか、其は人が民衆の實生活を多く知る程よくわかつて來る事である。其方面は世間に示されて居ない。其活動の任組みは矢張隠れて居る。けれ共此活動は頗る強力で又眞底から湧いて來るのだから、たとひ或男又は或女があつて其人自身口でも心でも Morality の力に重きをおいて居り、そして其人がすぐれた人であるとしても、其人を眞に動かして居る力を探つて見れば、大抵の例に於て其動機は“Immorality”の世界から來た事を發見するのである。彼の隱聖は Zadic に向ふて「煩惱は船の帆を孕ます風ぢや」と云ひ、Spinoza も語を異にして同じ事を述べた。其煩惱は本來 Immoralities である。其船の舵を操る衝動は“Morality”に委れてあるが、煩惱の風が吹かぬ時は其船も詮無い譯である。

斯くして“Immorality”の價值に重きをおいても決して“Morality”の價值を減するのではない、双方共に必要なのだ。此のごん底では何事も皆危いものぢや、して又何事も皆なくてはならぬものぢや。一方を抑へ他に重きをおくべき必要は無い。Carducci が人間の理知の歴史を考へてサタンに奉る讃歌を書いた時、エホバに打勝つたサタンを歌ふたのは理性の革命的勢力の象徴としてあつた事で、斯様に“Immorality”が“Morality”に打勝つ事を豫想し或は希望したのではない。我々は生物學の高所から遠望すれば双方各々の不可欠な事がわかる、即双方に重きをおく事が必要である。

今の世の實生活の中では“Morality”の領分が“Immorality”のそれに比して振はぬけれど、世間の人々は前者を過大視して居るのは何故か、先づ訊して見ると種々多くの勢力が働いて居るのを發見するが、恐らく基督教が頽廢した事も與つて大に力ある原因であらう。即基督教は常に“Morality”の敵であり、常に“mere Morality”を冷嘲してやまなかつた。基督教は個人の爲にあり、“Morality”は社會の爲にある。基督教は神の恵みの勇士であり Morality の曇たる「おきて」を嘲り、尙其を無に歸せしめた。パウロの手紙さ之に準するもの（新約聖書羅馬書以下）には斯様な説がみち／＼して居る。羅馬天主教會は懺悔による赦免や法王に願ふて許された罪障消滅で常に“Morality”を蹂躪する事が出來た。新教々會は上の如き免罪はあく迄憎んで居たにも係らず、矢張「信仰」と「恩寵」の助けによつて、舊教と寸分違はぬ“Morality”に對する征服をした。所が今は基督教の頽廢が此“Immorality”の崇高な守護者の末路である。

人生の高い目的に進む爲には“Morality”を“Immorality”と同じ様に充分手綱を引締めて膝元に付けて置

かればならぬ、そして此見掛けは反對の様な二大衝動を充分緊張させて互に相調和する平衡を保たせる様に心を配るのは吾人現代の者の最急務であるまいか、吾等は一應自問自答を試みたらよからう。Havelock Ellis (1920) Impressions & Comments. Second Series, P. 186—189, London.

性慾教育でない性教育

現代日本に於て屢々耳にする『性慾教育』といふ語は今述べた如き見地から見れば、全然合理的な一概念に纏められて居ない(頭の悪い)文句である。即ち奔放極まり無き意馬心猿たる煩惱は今更教育せず共(educate, erziehenも無用)自ら出て来る。其故著者の立場からは性慾は統御すべきもの control すべきものと見る、(其目的が個人に於て實現される可能性は一樣でない)。一方男が木佛金佛石佛でなく眞の男たり、女が眞の女たり得て、しかも「獸性」に囚はれず、此生の生たる所以を味ひ、しかも人類の向上を瞬時も忘れずに居る萬物の靈長の「性」Sexuality は Morality と Immorality といふ人生の楯の両面をも知らねばならぬ。我等は罪を犯し得る自由も與へられて居る以上、罪を犯して悔恨の念を起す菩提心も具

はつて居る。先驅者の多くの犠牲を拂ふて得た材料を全然無視して突進し、性慾りも無く同じ陥穽に飛込むのは、幼稚乍らも多少建設の途上にある性學から見ても残念である。無論人の陥る陥穽は今も昔も同じ所にあるから、之を閉鎖しない以上誰か陥る事もあらう、併し乍ら吾人が今なす試みは唯其陥穽の所在を示し前に陥つた人の運命を知らしめるのにある。知つてしかも尙其陥穽に魅せられるのは個人夫々の趣味から出た事で、我々の「性教育」が無限聯帶責任を負ふべき事でない。

性現象に關係ある本能

HAVELOCK ELLIS の説。詳細は HAVELOCK ELLIS : Studies in the Psychology of Sex, vol IV. Sexual Selection in man.

『想起追想の可能性の度に應じて性現象に關係ある四官(味官は觸官の誘導物として除けば)を順に可能性の多いものから列べると、聽・視・嗅・觸官といふ事に

なる。之等各々の作用に就て理性と審美心と趣味が干渉し得る程度を観察すれば想起追想の可能性多きもの程前三者によつて制約される事が多く、上記の順に従ふて下のものに對する程制約力は遞減して行く。人類の優生學的雌雄淘汰に於て理性と美的觀念とを以て向上を期待する以上は、制約可能なるものが性に與る事を多からしめ、又一方其可能性乏き官能の活動を許すには、充分慎重の準備を必要とすべきである。然るに人類の性的淘汰の現状に就て觀察を試みる時は、上述の如き官能統御に據る男女淘汰は大體として行はれて居ない様に見える。』

即此説によつても或程度迄は「君子危きに近ならず」の常識的安全第一の訓戒が至當になる。觸喉官的接觸を多からしむる満員電車を看過する爲政者は、斯様な根本事實に氣附かぬのか、それ共性的危険を伴ふ事の比較的乏しい斯様な環境の中に於ては強刺戟を與へ感受性を麻痺させた方が、青年男女に對して得策だと考へる實に賢明な御親切であるかも知れぬ。

兩性の心的相違は運動輕快にして停止する事の無い精子と、營養分を貯へ靜止不動な卵によつて表はされて居る。熱烈な向上心と洗練された趣味と高潔な理想と鋭い自省心とを缺如する男が、多妻主義の權化である事は生物學上の必然である。よし萬物の靈長として上記の高貴な屬性を具へた男でも、異性との接

近其度を過ぎずと、エリスの説の如く本能以外理性の活動を許さぬ「獸」に還原せざるを得ない。之が一般法則であるから、過度の接近による必然の結果に對して狼狽するのは、遺憾乍ら無學の結果と申さればならぬ、即ち少く共接近を自ら進んで試みる以上、其畫面の展開は機械的正確を以て十中八九は進行するものと覺悟して置く事が必要だ、此事は殊に體質に基づき性的發生史を全然異にして男性心理を知らぬ純潔無垢の處女が必ず辨へておくべき事、安價小説の Platonic Love を現實のものとして考へると大變な悲劇が起る事がある。

人生生物學資料蒐集に就て

一般的啓蒙運動の試みは、第一に性的無知と迷信の除去其自身が焦眉の急を要するが故に、第二には其試みの必要なる所以を世に訴へて民衆の理解を得なければならぬから、第三には斯く理解を得た上で大多數者の正常なる性的生活をトするに必要な資料を求め日本人に特に適切な性學の確立を求むる爲に、是非共すぐ手を着けねばならぬと、予は確信を得るに至つた。

性教育講演の要件

無論諸種の仕事に携つて忙しく且又宣傳専門でない予は、講演旅行宣傳ばかりに熱中して許りも居られないから、研究者としてなるべく代表者は多種多方面に接觸したいとの志して過去色々撰り好みをした事は、予個人の利己的動機からとのみ非難されたくはない。既に出掛けた先のおもなものは別表(三五四頁)の通りで

あるが、今後とても時の都合のつき次第どこへでも研究上便宜な所に行きたいと思ひ、次の如きポスター迄調べて準備してあるから、左の條件が具はつて居さへすれば、悦んで出掛けたい。

- (1) 聴衆は出来る丈教育、階級、年齢等大差無き一團たるべき事。即男女別々、未婚既婚者等を分離されたき事。
- (2) 聴衆の数が百を超ゆるのは望ましくない事。學術講演として靜肅な空氣を擾されたくないから。
- (3) 講義は最短としても二時間宛二回たるべき事。二時間一回では諸種の誤解を完全に一掃する事も出来ず、聴講者の充分な理解も得られないから。
- (4) 會員の職業等を詳記した名簿を調べ、予に與へられたき事。
- (5) 來會者に對してもれ無く記入用紙(三五六頁以下参照)のいづれかを配付し有志者より資料の寄與を求むる事。

研究に多忙な予が、時々實驗室より街頭に飛出すのは、唯他に材料蒐集の法が無いからなので、唯無意味な宣傳のみならば、研究者としてのエチルギーが浪費されるわけである。

宣傳用ポスター

扱其の性教育普及講演宣傳のポスターは左の通り

性教育二時間講義 (聽講歡迎)

來 月 日午後(曜) 時より
に於て

題 性の知識のあらまし

講師 京大理學部講師 山本宣治

講義の大要順序。(1) 人生で重大な生殖をは正しく知る事が必要なわけ…………。(2) まづ男女の性的器官のくみたてを知らねばならぬ…………

- (3) 男子の性的器官——精巢T↓副睪丸Ep↓輸精管V.d貯精囊Vs↓射精小管D.ej↓尿道(陰莖)…………(4) 女子の性的器官——卵巢Ei…………輸卵管HT↓子宮O↓腔↓嬢膜…………

休憩、質問に應ず

- (5) 性的病症と其豫防法…………(6) 遺精・自慰・性交…………(7) 月經・受胎・妊娠・分娩、終

講演する人自身の目的 (1)今迄めぐら探りの中で怪しい智識に迷はされて我々青年は随分心配もし煩悶をした。我々が若し正しい智識を持つて居たならば、之等の苦勞や面倒の幾分はせず共すんだ筈である。我々の精力をむだ使ひせぬやうに、正しい智識をてつさり早く知らせたい、(2)多くの學者は從來の道徳や習慣に縛られて上品ぶつて居り、此方面はやむをえぬ病氣の事の外は手を出さなかつた爲に、尋常の男女が人間の道を全うする有様に就ての色々の智識は他の研究に比して貧弱である。我々は先づ自分自身を知らねばならぬ、だから研究者としての講師彼は其現狀を話して一般世人に承知して貰ひ、其上其譯が篤き會得できた人に對しては種々な方面の材料や事實を興へてほしいと思ふて居る。

既にやつた重なる講演

斯様な準備を調べて性教育普及の爲に予の試みた講演のおもなるものは次に表として記してある。

E	D	C	B	A	講演の所	時	永さ	聴衆	備考
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 三月二十五日	二時 間	男五〇	其内幾分青年團員があつたが其には前にもう二時間話した
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 七月	二時間 宛	男一八〇 女三〇	記入用紙型Aを配つた
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 三月	約六十時間	男一六〇	記入用紙型Aを配つた
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 四月	約六十時間	男一三〇	記入用紙型Aを配つた
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 九月	約二十時間	男一四〇	感想文を徴した
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 三月	約六十時間	男一三〇	記入用紙型Bを配つた
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 四月	約六十時間	男一三〇	記入用紙型Aを配つた
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 三月	約六十時間	男一三〇	記入用紙型Aを配つた
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 四月	約六十時間	男一三〇	記入用紙型Aを配つた
京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校	京都市第四教員聯合會 於生祥小學校	同右	同志社大學 豫科二年 (新制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	同志社大學 豫科二年 (舊制)	一九二二年 三月	約六十時間	男一三〇	記入用紙型Aを配つた

M	L	K	H	G	F
京都市第三高等學校 研究會 於三高	鳥取市鳥取市師範學校 團於鳥取市	島根縣教育會 於松江	京都帝國大學 於所 大學集	大阪市外天下茶屋田家庭談話會 於青田邸	京都府久世郡宇治町同攻會 於菟道小學校
一九二三年一月二十三日、三十日、二月十三日	一九二三年一月二十八日	一九二三年一月二十四日	一九二二年十二月十一日	一九二二年十月十二日	一九二二年三月二十五日
二時間 三回 六時 間	四時 間	二時 間	一時間 半	三時 間	二時 間
男約五五	男五六 女一	男約二〇 女約二〇	男三〇	男二六 女一九	男五〇
三高等學生	女、中、師範、小學、校教員	小、中、女學校、教員	京大教授及助	所謂有識者階級	多くは專門學校以上の教育ある人
演題「新マルサス主義の醫學的方面」記入用紙型Aを配つた	記入用紙型Aを配つた		演題「現代性教育運動の大勢」	演題「産兒制限と文化生活」會後記入用紙型Aを配つた	

智識階級から受ける反應は大抵の場合を網羅し得た様に思ふが、純然たる無産階級に對する啓蒙の實行方法と其より受くる反應に關しては、筆者自身唯今其こ

ゝろみに専心熱中して居る最中であるから、其報告は將來に譲る事とする。

聴講者の所感要求

扱前記の講演で聴講者に配付した型Aの記入用紙とは、次の通りのもので、之を著者宛名印刷済み又三錢郵券をはった封筒に入れ、無記名で諸項を記入さへすれば、無雑作に發送出来る様にしてある。

型A

「光！ 今少しの光を！」

Goethe

真理の爲、自由の爲

我々は先づ自己に眼覺めて、事實を集めねばならぬ、そして其上に將來の文化が建設される。「あんバン」と「人力車」を世界文化に對する唯一の貢獻として居た我國から他に何物をも産む事は出来ないか、其は唯將來のみが語り得る。若き友よ、新しい文化の建設の爲共力援助を仰ぎた

い。

京都大學理學部
動物學教室にて

山本 宣治

人生生物學研究の爲にかく記入を乞ふた用紙は予の研究室に保存して置く、特に個人的内情に關する告白を其と他に悟られる様な形式で發表しない事を明かに誓ふて置く、無論姓名記入迄御願ひしやうといふのでは無い、唯誇張無く虚飾無しに卒直に事實を書いていただきたい、變態や常態はまだ區別する程にわかつて居ない、願はくは他に氣がれせず、すべて唯ありのままに……………

1から9までは應答者の思想的背景と環境を推測したい爲に設けた、迷惑と思ふ方は無論書かないで宜しい。

- 1、生 年 月
- 2、出 生 地
- 3、之迄の生活の大 出身地
部分な過した
- 4、出 身 學 校

人生生物學資料蒐集に就て

- 5、父兄の職業
- 6、自己の職業

7、8の二項は、新マルサス主義の研究と關係あり又民衆衛生の實狀を知りたい爲に設けた記入様式の例、現存し自分より三歳年長の兄ならば男³、既に死んだ二年若い妹ならば女²等。子供の方は當年何歳、例男八歳。

- 7、兄弟姉妹の數、年齢の差、性
- 8、子供の年齢、性
- 9、宗教上の信仰と思想上の傾向
- 10、此講義が應答者の實生活と思想に與へた悪影響の將來
- 11、此講義が應答者の實生活と思想に與へた良影響の將來
- 12、此講義最中に性的興奮(例へば心的動搖、勃起、不隨意射精等)があつたか。「あり」「なし」。あつたらば如何なる點に於て

- 13、此講義の中で事實上の誤り又は見解として偏見だと考へ、應答者が首肯しない點

- 14、更に聞きたい事。

- 15、此講義で啓發された點、從來抱いて居た性智識の迷信と誤謬、其等は人から聞いたのか、醫師から教はつたのか、本で讀んだのか。

- 16、將來「山本人生物學」が公刊された時其を各自の讀むに任せ、そして此様な性教育講義を多數者の前に口演するのを見合はせるべきものであらうか。(一般に、良書があるならば教室で性教育講義は有害無害であるか)。智識階級に對して、一般人に對して。

- 17、其他の感想と希望。要求。

此型A記入用紙は、筆者の手元に累計約三五〇通記入されたものが戻つてきた。其中で女性の筆のが二十通ある。之等の答によつて、予は聴講者心理を解する事を得、諸種起り易き疑點と又有識階級一般の性的常識の内容をも知り、大なる利益を得た。今此機會に於て、斯様な煩を顧みず態々回答の勞をとられた匿名の諸賢に満腔の謝意を述べたいと思ふ。そして其答への或ものゝ内に記された色々な反對説に對しては、本書の各部分に於て残りなく回答を與へやうと試みたのであるから、夫々參照して戴きたい。

青年性生活の調査

なほ其次に、青年男子の性的生活の現状を統計的に調べたい爲、作つた型B記入票は次の通りである。

型 B

人生生物學研究資料

「光を！ 今少しの光を……」 GOETHE.

醫學は生物の健的研究と病的研究の提攜を俟つて完壁するものであります。しかも從來や、もすれば世人は病理の攻究をもつて醫學の使命をいたしました。學者は佯假的潔癖をもつて性的真理の闡明を躊躇し、健康體の性的現象に觸れるを避けました。かゝる種の常識を青年に授くるを冒瀆さし。吾人青年をして徒らに憂さ煩悶のうちに陥れました。しかもついに新しき科學の黎明が來ました。青年の建設すべき文化の烽火が上りました。吾人は誤つたドグマを憎んで性的啓蒙を叫ばねばなりません。吾人はあらゆる虚偽マ威嚇から解放されて、新しき倫理を建てねばなりません。

デルボエーフ曰く、「すべての心理學者は彼の短所の告白さへ敢てせなければならぬ、若しそれにより暗き問題に光を投ずるに信せば。」

然り、もし眞實をお愛しになるなら、もし來るべき人類の幸福をお計りになるなら、さらにまたかゝる研究にすべてを捧げんとする吾人の智的熱愛をお認めになるなら、尊きあなたがた

の御経験より左の諸點につき御教示を仰がんことを切望いたします。

京都帝國大學醫學部

安田徳太郎

「汝自身を知れ」我々は自分自身を勇敢に直視して得た實相に基づいて對策を講じなければならぬ、私は前記安田氏の企に力を合せて純正生物學の方面から進んで行く者である。私の話を聞いて此立場を理解した諸兄弟姉にお願ひして次の諸項の記入を乞ふて見る、勿論記名は無用記録一切は予の研究室に保存して秘密を守る、誇張無く虚飾無く唯事實を書き入れてほしい、常態變態を區別する程にまだわかつて居ない。願はくは他に氣がれせず、すべて唯ありのまゝに……………」

京都大學大津臨湖實驗所にて

理學士 山本宣治

以下の問に對する答に當る語は右に黒丸を附けてあるが、あなたの答に相當する句がある場合は其だけを残し他を消して下さい。順々に書き下す前に問全體に一通り目を通して戴く方が便利である。我々は事實を求めて居る、即ち「……である」點を聞きたい、「……と思ふ」點は唯

思ふ丈でなく其思ふ理由を擧げてほしい。

あなた自身のおひたちや其他

- (1) うまれた年月、性、結婚
- 明治 年 月生。 男、女。 未婚、既婚。
- 子供あり、なし。 男、女。 各々の年齢
- 兄、人、姉、人、 (歳自分より年上) 現存又は死亡。
- 弟、人、妹、人、 (歳自分より年下) 現存又は死亡。

夢 精

- (2) 夢精 (睡眠中に精液をもらす事) の経験があるか
- なし あり

経験のある方だけ次の問に應じて戴きたい。

人生生物學資料蒐集に就て

A、最初夢精のあつたのはいつか。

満 十 年 月

又は數へ年 十 歳の春、夏、秋、冬

又は明治 年 月
大正

B、夢精が起るのに多少共規則正しい順序や度数がほゞきまつて居るか

週期。規則正し、不規則。

度数。

を隔て、年に 回又は月に 回。

C、最も頻繁に起るのは或季節又は或月又は週の或日に限られて居るか

限られて居る 否

春 夏 秋 冬 月

週の 曜日 宵 深夜 曉

D、起る前の氣分と健康状態に關する何かの特徴（一般に云ふて見て）

E、起つた翌日の氣分と健康状態に關する特徴（一般に云ふて見て）

F、夢精に伴ふ夢の色々の種類？

(3) あせる時とか、驚いた時とかに、不随意射精（思はず精液をもらす事）の経験があるか。

例、試験場で難問に會した時とか、發車間際の汽車にかけつけやうとする時とか。

なし あり

あつたならば、どんな時に？

自 慰

(4) 自慰を行ふた経験があるか。なし あり

ある方だけ次の問に答へて戴きたい。

人生生物學資料蒐集に就て

A、最初其を経験した時の年齢。

満●年●
又は●数●へ●年●
年●
ケ●月●
歳の●者●夏●秋●冬●

B、其折の誘因。

人に聞いたのか？

否● 然り● (誰から？)

自分で工風したのか？

否● 然り● (如何にして？)

C、自慰をどんな時、どんな方法で行ふか？

D、自慰継続期の永さと其度数？

暫●時● ケ●月● 約●年●
約●年●又は●月●に●年●度●

E、人から聞かされた自慰の害で、あなたが平生こわがって居る事(即強迫観念)は何か。

F、實際あなたの気分と健康の現状を振り返つて見た時、あなたは其等の強迫観念はどう考へるか。其他の所感

G、團體群居生活(例、兵營・寄宿舎・合宿所等)の経験あるか。

あ●つ●た●ら●ば●、●ご●ん●な●団●體●の●中●に●？
あ●り● な●し●

其團體生活があなたの性的生活に與へた影響

最●初●の●性●交●

(5) 性交を行ふた事があるか。 なし● あり●
A、経験をもたぬ人に對して……………

あ●な●た●が●經●験●を●も●た●ぬ●の●は●唯●偶●然●に●か●や●う●な●機●會●が●こ●な●か●つ●た●爲●か
然●り● 否●

それ共、わざと其機会を逃れ避け、又は退けた爲であるか。然り
否。

あなたが其機会を回避し、又は撃退したのは如何なる理由に基くか。

例へば次の理由の一、又は数多の組合せ、又は其他の理由によるのか。

- 理由は何もない、唯イヤだといふ感じ。
- 宗教や倫理の上の信仰や思想
- 好き嫌ひや美醜などの美的判断と趣味
- 愛人に捧げる實として自他の童貞純潔を尊重保護する心。
- 衛生上から性的病症の方の心配
- 經濟上思ふやうに行くまいといふ壓迫 (例へば子を養へる見込も無いのに妊娠が起つたらとか、家庭生活を作るのはまだ早いとか面倒だとか)

其他

B、經驗のある人に對して……………

最初の性交の時の年齢 満 年 月

又は數へ年の 歳の春 夏 秋 冬

其時あなたの立場は? 能動 中立 受動

其時の特別な事情 (例へばアルコール性飲料の使用とか群集心理の作用とか)

相手の人の年齢はあなたより? 年上 同年 年下 又は不明

其人の社會的位置と職業。 未婚 既婚

最初の性交の後、性的實生活の變化?

其後の異性に對する考の變化?

問に接した時の感じと其他

(5) 此問を一應讀んで、答を書いてやらうとか、失敬なエ、屑籠へ葬つてやれとか、書きたいが一々面倒だとか、夫々色々な心持と其感じが起るわけ。

當然 不快（無禮と感じ）憤慨 うるさい、
個人の秘密曝露を恐れ尻込みする。 其他
其理由

(6) あなたは子供の時どういふ風に自分が此世にうまれてきたと人から話され又自分で信じて居たか。

例、木の股からきたさか、鶴にくわへられて何所からきたさか、母の腹が桃太郎の桃のやうに割れてそこから出たさか。

元來斯様な立入つた質問に對して、よし匿名にしても、明答を與へるには、餘程の勇氣が必要である。それで矢庭に初對面の人に突附けて資料を求め事も出來ぬし、筆者を充分信頼し且又性研究の重大な意義に就て可成理解のありさうな人にのみ、配付したが、既に記入されて返送されたのが唯今（一九二三、六月）約二百七十通筆者の手元にある。

行きては返らぬ記入票

一體此記入用紙を作つた最初の目的は、主として教育同等年齢同年配の青年男女の一團をば統計的に調査して見たい、まづ第一に同志社大學豫科に於ける予の聽講者を連年調べて、日本人の青年學生の性生活の一部を窺ふて見やうといふ積りであつた。それで充分此研究に理解の出來た筈の時、即一年間聽講の終りに配付して、無論記入を強請する譯に行かぬから、有志者のみの自由回答に任せた所が、初年には（三五四頁表のB参照）配付した丈の半分しか戻つて來なかつた

無論始めから此事あるを豫期して居たが、書くのがイヤならイヤでよし、強ひられてウソを書くよりも結構だが、當方とても豊かならぬ研究費に自腹を切り、無盡藏に紙をばらまく藝當も續かぬ故、たゞで印刷させたのでない記入用紙は再利用のため其際白紙のまゝ返送を乞ふと、態々斷つておいたが、別に白紙のまゝ返送されたものもなかつた。

所な斯様な記入票を調べた事が各所の話題に登り、予先輩同僚知人等で知己の間に配付して資料蒐集の助けをしやうと申出でられた人も少くなく、又其等の方々の盡力によつて既に集まつた資料もあるが、此際にも矢張前の如く出ては返らぬ鐵砲玉が非常に多かつた。

何故くばつたものが三錢郵券貼布宛名印刷すみの一封の中に納められて居るに拘らず、戻らぬか。其理由を考へて見ると、(1)短刀直入の間に辟易して其まゝ屑籠に葬るとか失敬など憤然引きさくとか、(2)書いてはやりたいがと思ふてる内に

面倒臭くなつてつい／＼ズボラから失ふてしまふとか、(3)こつといふ物すきな研究をする人間も世間に居るのは妙だ、此紙も残しておいて話の種にしやうと手元に保存しておくとか、大抵斯様な三類のいづれかに相當する様な状態で、記入用紙は鐵砲玉に終るらしい。但し全く戻つて來ないのだから、夫々の場合の數的比例は全くわからぬ。

辟易の心理

前の(1)の場合では、極簡単に自己の隱密の行ひが他日曝露される事もあらうかと恐れるのもあるが、其外に自分が恥づべき行爲と思ふて居た過去の事實をば不絶忘れやうと努めて居るのに、こんな殘酷な追究にあふたが爲に、又もやほじくり出されたのは實に不快極まる事だと感ずる人もあるらしい。斯様な感じを抱く人は大抵世間見すの純潔な人で、自分以外の人は皆性的煩悶を解決して平靜を保つて居るのに、自分のみ『邪念劣情』にこづき廻された事は、自己の良心に對し

ても恥づべき事と感じて居るのかも知れぬ。

一體二百餘例を通覧の後の所感は、世の中にかげ離れた人は無いものだといふ氣持である。いかに自分のみが極端に下劣な者と思ひ込んで居る人の状態でも、全般から見て性學者の目には極普通な場合が多い。將來此記入用紙を突付けられて或はたぢろぐ方でも、此點に特に再考を乞ふて、貴重な資料の寄與をおしてお願いしたいものである。

自己分析の困難

元來自己を純粹な客觀的立場から分析を試みる事は、餘程うまれつき頭のいい人か、それ共永年科學的訓練に馴らされた人でないと不可能らしい。予が得た告白にしても、應答者が確に高等の教育を受けたに相違ないとか、又は天賦特に勝くれた人とか、思はれる答案ほど嚴密正確詳細な記載があつた。

一體斯様な冷靜なる科學的研究に對する報告は、自己辯護に融通が利き誇張す

る事容易な告白小説とは別物である。又厚顔無恥なる不良老年の悦んで試みる出鱈目猥談の法螺とも違ひ、順々の研究に對して好加減の記入も出来ないといふ特性を具へて居るのだ。

保存せんとする人に

参考の爲に記入票を保存しておかうと思ふ方に對して、予は單に節約の意味ばかりで其配付を惜むもので無い。色々の人々の眼に觸れ且又話題に登る事其自身が、既に啓蒙宣傳の目的の幾分を遂げるのであるから、將來も此意味で用紙を要求せられる方々に對して、悦んで應じたいと思ふ。但し一團として統計的調査を行ふ場合には、たとひ白紙たりとも戻つて來る事其自身が、統計上有意味の現象なのだから、手元に保留されるものゝ外に更に一通を請求せられて、之を白紙のままでもいゝから、返送せられたい。

用紙の還送率

一般に云へば、此記入用紙の戻つて来る率は、予が自ら性教育講演を續けた時の永ければ永い程、又聴講者の教育程度の高ければ高い程、大になる。即ち予の試みに對する理解の量に正比例する次第である。

今迄の最高還送率は、著者の郷里宇治町同攻會の時で(三五五頁表中F参照)五十通配つて三十通の記入を得た、即百分六十である。之は著者個人に對する理解が多いのと又聴講者の教育程度の高い事(其多數は大學及び専門學校の在學者及び出身者)との二つの原因によるものらしい。

同志社大學の初年の試みは前述の如く、約百分五十の還送率を現した。第二年はそれより少し増して約百分五十五位になつた。併しいかに努力しても到底それより大なる率を求むる事は不可能であらう。強ひれば虚偽が此資料に混入する事を避ける事は出来ぬから、統計的に全部の回答を求め得ぬ事は遺憾乍ら、是非も無い次第である。

尙此外に、理學士東光治氏(京都府立醫科大學豫科講師)を煩はして、一九二三年三月其校豫科生約百名に此用紙を配付したが、還送率はざつと百分三十三であつた。一般に予自身が啓蒙運動を試みず、唯用紙のみを知人の好意によつて配付した所では、此位が頗る高率なのである。

現に予の最初準備した千通の型B用紙が殆ど皆消費し盡された今日、二百七十通が戻つて居るといふ此事實は、如上の事を雄辯に説明する現象であり、一般に最も理想に近い場合で百分六十、それから遞減するが、予自身の個人的接觸の無い場合には京都府立醫大の如き百分三十三位を最高率とする。局外者が見て或は不成績と見、或は齒痒ひと思ふかも知れぬが、斯様な人心の機微に觸れる問題の追究に際し餘り多くを期待する事は出来ない。

寄與貢獻せんとする人に

斯様な次第だから、讀者の中にも此資料蒐集に興味を有し尙又進んで一臂の勞

を惜まぬ方があつたら、御請求次第お送りしたい。併し本來研究の目的が或一團體全體の包括的調査なのであるから、諸階級や老若に汎ねくどびくくに集めた材料は唯今の所緊急な必要は無い。殊に極端な例のみが手に入る事は、變態心理の調査には有意義であり、又變化が多くて或一派の人達には面白からうが、予が現に解決を試みんとする常態の性生理と性心理の考察の爲には寧ろ危険である。其故に斯様な助力を與へんとする好意をもつ方々には、特に此點に配慮して戴きたいものである。

通信宛名 大津市三保ヶ崎 京大臨湖實驗所内

又は 京都市外宇治町 花やしき新宅

尙此型A及びBの外に、型Cは無産者の間の避妊技巧の調査に關したものがあ
るが、之は此所に必要が無いから記載を省く。將來に於て青年性生活の調査が一
段と進んだら、其上又他の方向に深く現状の調査を試みたい考へである。

醫師側の懷疑と釋明

此型B記入用紙に關しては、次の如き非難が醫學者側から提起された。

醫學及醫政（一九二二、九月）第九卷第九號第六頁。

「人生生物學研究資料」を得る爲の發問書配布

竹 浦

過般サンガー女史來朝し、京都市醫師會の爲に講演をなしたる際、通譯の任に當りたる理學士山本宣治氏は、京大理學部に於て生物學の研究に従事せらるゝ篤學家なるが、近來同大學醫學部なる安田徳太郎氏と共に「人生生物學研究資料」を得むとして、左記の如き印刷物を配布し、私かに材料を蒐集しつゝあり

（型B記入用紙 全部登載）

以上の如き質問は、抑々學問上、何の價值ありとするか、發問者は曰く「醫學は生物の健的研究と病的研究の提携を俟つて完璧するものであります。しかも從來動もすれば世人は、病理の攻究を以て醫學の使命と致しました。學者は仮想的潔癖をもつて性的眞理の闡明を躊躇し、健康體の性的現象に觸れるを避けました。かゝる種の常識を青年に授くるを冒瀆とし、吾人青年をして徒らに憂々煩悶の中に陥れました。しかもついに新しき科學の黎明が來ました。青年の建設すべき文化の烽火が上りました。吾人は誤つたドグマを憎んで性的啓蒙を叫ばねばなりません。吾人はあらゆる虚偽と威嚇から解放されて、新しき倫理を建てねばなりません」といひ、「もし眞實をお愛しになるなら、もし來るべき人類の幸福をお計りになるな

人生生物學資料蒐集に就て

三八一

ら、更に又かゝる研究にすべてを捧げんとする吾人の智的熱愛をお認めになるなら、尊きあなた方の御経験より左の諸點に就て御教示を仰がん事を切望します」といひ、特に青春時代の性的生活、變態性慾の調査に就て、何物かを求めんとするものゝ如きは、學問の爲といへば夫までなれど、斯かる調査が直接吾人の生活に何の交渉あり、何の價值ありとするものぞ。記して以て識者の垂示を仰がんす。

(圈點は原文のまま)

此評者が、我々の配付した用紙上の記事を殆ど全部を轉載して短評を加へられたのは、醫界に對する一の宣傳又紹介として、有效であつた事と大に感謝する外は無い。たゞ我々が「私かに材料を蒐集しつゝあり」といはれた事に就ては(三七二頁參照)、貧弱なるポケットマネーと僅ばかりの原稿稼の儲を資本として、活動を試みなければならぬ悲しさ、さうく堂々と無暗に紙のばらまきに濫費はやりたくてもやれぬから、精々高い能率を發揮する様に注意して居る丈の事である純正科學者が眞理の爲に眞理を追究するに熱中する際、何の憚るものも無い筈だ我々の如き末輩と雖も、斯様な當然有意義なる研究に關しては、悶さか繩張りど

かを超越して自由に動いて居る次第。但し應用科學者且論客たる竹浦氏でさへ、始めは吾人の眞意を解せられなかつた程だから、吾人の活動も一知半解の誤解の爲に妨害を受けないにも限らぬ。それで「私かに」ではないが、なるべく鳴物はやし入りの廣告騒を避けて居る次第である。

猶又吾人の追究は前述の如く(三七八頁參照)、異常例外の變態性慾の極端に『興味ある例』を漁り求めるのでないから、從來の所謂『性慾研究の好事家』や又はサド風醫學者には面白くないかも知れぬ。併しそんな特殊方面は他に多くの専門研究者があり、又文献を探しても獨佛語を讀めさへすれば別に取材に苦しまないから、其方へお任せしておく。

即竹浦氏の云はるゝ如く、自然科學者が諸種の現象に面した時、何事も『學問の爲といへばそれ迄』である。『直接吾等の生活に何の交渉』なくとも『何の價值をも具へず共』構はぬ。

併し乍ら、斯かる研究が實際吾人の生活に直接交渉あり、人生に於て重大なる價值を有して居る事は、此小著を全部通讀せられた方には自明の事であらう。記入用紙の一瞥を以てして尙幾分の疑ひを保留して居られた竹浦氏も、眞理追究を天職とする學者ならば、通讀の後予の眞意を諒とせらるゝ事を信じて疑はない。

島根縣立松江 高等女學校 月經調查報告

山本宣治 序。之は一九一五年一月から始まつた其校での調査の一部報告で、全文は未だ何所にも公表されなかつたのを、予が一九二三年一月松江市に出張した時發見し、現校長後藤眞造氏に請ふて此所に發表する事を得たのは、我國性教育實施に關する資料の中に極めて有意義なる一貢獻であるを、予は確信するものである。

本來此調査は最初其時の校長吉岡勘之助氏（現に大阪市南區道仁小學校長）の發案の下に着手せられ、全校職員の勵精努力によつて今日に至る迄、次の校長武用氏其次の現校長後藤眞造氏の下に繼續されたのである。そして此報告が假に其校當局者によつて調製せられた上に、予は目下其詳細なる記録を借用し、京大天津臨湖實驗所で更に精査を試みて、健全なる女學生に於ける月經現象に關する統計的解析を試みて居るが、其結果は性學上何等かの新發見を齎すかも知れぬ。

松江高等女學校の生徒は主として其市と其附近の出身者に限り、官吏等の如き外來移住者の女子の數は割に少い。本來出雲の國が古來地理的に隔離された所であり、松江市其も閑靜平穩な一小天地であるから斯く生物學的にも一地方の代表的型と考へ得る一團と解する事が出来る。此調査の中にも示された通り、實行簡易にして比較的觀察の誤謬の少い調査法が工風されたのであるから、他地方に於ても性教育に篤志な教育者が同様の試みをして戴きたいと希望する次第。其に關して必要なる記入票や其他の資料は予の手

元にあるものは、何時でも御用立てする事が出来る。

此機會に於て、此貴重なる資料を予の手に委れて、表する事を許された諸賢、就中其校前校長吉岡勘之助氏、現校長後藤眞造氏及び此調査の始終に亘つて直接の努力を費された同校教師森脇貞吉氏に、満腔の謝意を予は表する者である。

一、調査の方法

毎朝擔任教師朝禮に臨む際之を調査す、即ち生徒に月經期間の終始に就て尋ね
舉手の生徒を指名して「今日より」とか「今日迄」とかの答によりて、教師は出
席簿に赤鉛筆にて始めの日の第一時間欄に圖を描き、終りの第五時間欄に再び描き
て、期間の終始を知るに便ならしめ、其間を點にて連ねて其期間を示すものとす
生徒に尋ぬる方法は必ずしも各級一定せず、下級生にありては月經を呈する者
極めて少數なるを以て、他に知らるゝを恥づる傾もあれば、豫め全級生徒をして
眼を閉ざしめおき、其者のの靜かに舉手せしめ、或は出缺席の調査後其者自ら教
師の側に來りて各自告げしむる等、各擔任に於て適當なる方法を用ふ。三年以上

にもならば、席上にて容易に答ふるのみならず、時には教師の都合上出席簿を生
徒に托して各自に記入せしむる事を得。女子擔任教師缺席の際は、男子擔任教師
之に代りて朝禮に臨むにより、多くは此方法によりて調査を行ふ。

二、月經統計表の調製

(甲)六ヶ月統計表。擔任教師は月末に於て出席簿より各自控へ帳に寫しとりて
各生徒の月經期間其他備考等を記し置き、六ヶ月毎に(九月末及び三月末)更に
此の控へ帳を参照して一覽表を調製し、表中に初潮年齢、期間の長短、順潮不順
潮、期間中の心身の状態、自覺症狀等を統計す。なほ之が材料として、生徒各自
に此等の事項に就て紙に認めて擔任に提出せしむ。

(乙)在學四ヶ年間統計表。右六ヶ月統計表を原料として、生徒入學以來卒業迄
四ヶ年に互れる月經統計表を調製し、本表の内には六ヶ月統計表の要目の上に、
年齢の進むに従ひ、經中の心身状態の變化、期間の順不順等の變遷をも通覽なし

得る様にせり(別表第一表第二表第三表参照)

三、調査中特に注意すべき事項

(1) 初潮年齢 平均十四年二ヶ月

在學四年間統計のもの三表を通覧すれば、人員合計二百六十七人其内第一表第二表共に十四年一ヶ月、第三表は十四年四ヶ月なり

(2) 順不順に就て

初潮に於て不順者多きは勿論、又順次順潮となる事も勿論なり、即順より不順に進む者毎回少數となり、不順より順潮に進む者多數を占む。

第一回	不順↓順なる者	順↓不順なる者
第二回	一五・二九%	八・二四%
第三回	二一・九八%	二三・九六%
	二六・七四%	三・四九%

(3) 期間に就て

平均五日より五、五日の間を終始するものの如し。

(4) 事故に就て

多くは何等かの事故を有し、全く異常無き者は甚だ少數なり。

事故全く無き者	第一回	一二・九五%
	第二回	一五・六二%
	第三回	五・八一%

(5) 事故の種類に就て

○腹痛を以て第一位とす

第一回	五四人(六三・五三%)
第二回	五三人(五五・二一%)
第三回	五三人(六一・六三%)